

公益財団法人
蘭島文化振興財団

2018 年度
年報

平成 30 年度

GARDEN ISLAND SHIMOKAMAGARI



GARDEN ISLAND SHIMOKAMAGARI

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

沿革

設立経緯と現況

下蒲刈島は、広島県の中中部島地域に位置し、古くから海上交通の要衝として栄え、江戸時代には幕府が海駅を設置し西国大名や朝鮮通信使の寄港地として重要な位置を占めていました。

現在、蘭島閣美術館を中心として立地する下蒲刈島の文化施設群は、下蒲刈町政時代の1986（昭和61）年、下蒲刈町長竹内弘之氏（故人）が提唱した「活力ある個性豊かな町づくり」という町政指針にその端を発しています。

その指針のもと、下蒲刈町では1986（昭和61）年から1988（昭和63）年までの3年間の間に移動美術展を招致するなどし、地域住民の文化理解を促し、その後の美術館施設建設に向けた気運を高める活動をおこなってきました。1988（昭和63）年度の下蒲刈町予算編成における「教育文化の振興」指針に基づき、同年、美術館・図書館・資料館建設の調査費が計上されるに至り、1991（平成3）年度に「文化と歴史の町」と「ガーデンアイランド構想（全島庭園化構想）」を下蒲刈町の新たな町づくりの基本方針として整備が進められ、蘭島閣美術館を始めとする中核文化施設と庭園などの整備を進めてきました。現在に至るまでに約3,700点のコレクションを収集し、美術・歴史・環境を含めたさまざまな文化施設が誕生しました。

町政から財団運営へ

全国的な市町村合併の流れの中、下蒲刈町は2003（平成15）年、呉市と合併しました。その前年の2002（平成14）年4月に第1回呉市・下蒲刈町合併協議会が開催されました。市政移行準備とともに、財団法人蘭島文化振興財団の設立準備も進められ、2002（平成14）年10月1日に財団法人蘭島文化振興財団が設立されます。合併により、町政時代の建造物、コレクションはすべて呉市所管となりました。続いて、2004（平成16）年には三之瀬御本陣芸術文化館が開館します。これにより、ハード面の文化施設の建設がすべて終了しました。2003（平成15）年から2005（平成17）年の3年間は、財団法人蘭島文化振興財団*1が呉市からの管理運営受託、そして、2006（平成18）年から2009（平成21）年の4年間、財団法人蘭島文化振興財団は呉市との協定により下蒲刈島の文化施設群「蘭島文化振興施設」の指定管理者として運営管理をおこなってきました。以降、2018（平成30）年度現在、第3期目の指定管理者として、管理運営をおこなっています。

*1 2012（平成24）年4月1日、公益財団法人へ移行。

公益財団法人蘭島文化振興財団の役割

当財団は、地域文化の振興を目指した諸事業をおこなうとともに、地域文化に関する教育普及活動の推進を図り、市民の文化振興と地域社会の健全な発展に寄与することを目的とします。（定款第3条）目的達成のための事業（定款第4条）は、①蘭島閣美術館、蘭島閣美術館別館、三之瀬御本陣芸術文化館における芸術文化振興事業②昆虫の家における自然環境保全啓発事業③松濤園における芸術文化振興事業④白雪楼、春蘭荘・松籟亭・煎茶室における芸術文化振興事業⑤その他この法人の目的を達成するために必要な事業、以上5事業からなっています。

公益財団法人蘭島文化振興財団が指定管理する蘭島文化振興施設

2018（平成30）年度、当財団が管理運営する蘭島文化振興施設は、①蘭島閣美術館、②蘭島閣美術館別館、③三之瀬御本陣芸術文化館、④松濤園、⑤白雪楼、⑥昆虫の家「頑愚庵」、⑦春蘭荘、松籟亭及び煎茶室です。

□沿革

1991（平成3）年	・蘭島閣美術館開館
1994（平成6）年	・松濤園開館
1996（平成8）年	・白雪楼開館
1997（平成9）年	・蘭島閣美術館別館開館
1998（平成10）年	・昆虫の家「頑愚庵」開館
2001（平成13）年	・第1回ギャラリーコンサート開催
2001（平成13）年	・蘭島閣美術館開館10周年「須田太郎展」開催
2002（平成14）年	・第1回呉市・下蒲刈町合併協議会開催（以後5回） ・蘭島文化振興財団設立事前説明会開催 ・呉市・下蒲刈町合併協定調印式 小笠原市呉市長と竹内町長による調印式 ・蘭島文化振興財団設立事前説明会開催 ・蘭島文化振興財団設立許可申請 ・蘭島文化振興財団設立許可 ・蘭島文化振興財団登記申請 ・財団法人蘭島文化振興財団設立
2003（平成15）年	・韓国鎮海市長他、松濤園など視察 ・下蒲刈町、呉市と合併 ・韓国からムクゲの苗100本寄贈を受ける ・松濤園入場者20万人 ・第1回朝鮮通信使再現行列開催
2004（平成16）年	・三之瀬御本陣芸術文化館開館 ・三之瀬御本陣芸術文化館開館記念特別展「福田平八郎展」開催 ・松濤園開館10周年記念特別展「朝鮮通信使の道のり展—交流の足跡—」開催 ・『松濤園開館10周年記念呉市・鎮海市友好姉妹都市提携5周年記念古伊万里名品図録』発行
2005（平成17）年	・『21世紀の日韓こども通信使』下蒲刈島訪問
2009（平成21）年	・竹内弘之理事長死去 ・渡辺理一郎理事長就任
2010（平成22）年	・年中無休から火曜日休館の実施へ ・ギャラリーコンサート10周年
2011（平成23）年	・蘭島閣美術館開館20周年
2012（平成24）年	・公益財団法人化 ・朝鮮通信使再現行列10周年
2014（平成26）年	・松濤園開館20周年 ・三之瀬御本陣芸術文化館開館10周年
2015（平成27）年	・ギャラリーコンサート15周年

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展示・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

目次

□公益財団法人蘭島文化振興財団 2018（平成30）年度年報 目次

■目次	■沿革	2p
	■目次	3p
■事業カレンダー	■2018（平成30）年度事業カレンダー	4-6p
■展示公開事業	■春季特別展	8-11p
	■秋季特別展	12-14p
	■蘭島閣美術館 所蔵品公開事業	15-29p
	■蘭島閣美術館別館 所蔵品公開事業	30-37p
	■三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品公開事業	38-50p
	■松濤園 陶磁器館 所蔵品公開事業	51-65p
	■松濤園 御馳走一番館 所蔵品公開事業	66-75p
	■通年展示	76-79p
	■公開スペース一覧	80-86p
■その他の公開	■インターネット	88-89p
	■資料貸出	90-91p
	■画像提供	92p
	■資料閲覧	93p
■普及事業・市民サービス・財団事業	■普及事業 ギャラリートーク・講演会・ワークショップ	96-101p
	■市民サービス 秋の茶会	102-103p
	■市民サービス 梅見茶会	104-105p
	■市民サービス 着付け体験	106p
	■財団事業 朝鮮通信使再現行列	107-108p
	■財団事業 ギャラリーコンサート	109-111p
	■財団事業 ふれあい昆虫教室	112p
	■財団事業 ふれあい海岸教室	113p
	■財団事業 博物館実習	114p
■運営データ	■収集・保存・整理	116p
	■協力・広報	117p
	■入館者数	118p
	■関係法規	119-121p
	■役員・職員	122p
■利用案内	■利用案内	124-125p
■奥付	■奥付	126p

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営データ

■利用案内

2018 (平成 30) 年度事業カレンダー

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

月	特別展事業	蘭島閣美術館	蘭島閣美術館別館	三之瀬御本陣芸術文化館
4		4月25日 [水] - 6月11日 [月] 所蔵品展Ⅰ 蘭島閣美術館コレクション名品展	4月18日 [水] - 6月25日 [月] 所蔵品展Ⅰ 寺内萬治郎と同時代の作家たち	4月11日 [水] - 6月11日 [月] 所蔵品展Ⅰ マチエールの魅力 一須田国太郎と近代日本の巨匠たち
5				
6	6月15日 [金] - 8月6日 [月] 春季特別展 小磯良平、そして広島 (会場: 蘭島閣美術館)		6月27日 [水] - 10月22日 [月] 所蔵品展Ⅱ 寺内萬治郎の油彩画を中心に	6月13日 [水] - 8月6日 [月] 所蔵品展Ⅱ 洋画家が描いた水墨画 一須田国太郎・岸田劉生・露光他
7				
8		8月9日 [木] - 9月10日 [月] 所蔵品展Ⅱ 平和への祈り		8月8日 [水] - 9月24日 [月] 所蔵品展Ⅲ 須田国太郎名品コレクション 薔薇・バラ・ばらのマンダラ 一須田国太郎から野田弘志まで
9	9月15日 [土] - 11月5日 [月] 秋季特別展 戦後の美術—広島の日本文画を中心に— (会場: 蘭島閣美術館)			9月26日 [水] - 12月3日 [月] 所蔵品展Ⅳ 海を渡った画家たち —スペイン・フランス・イギリス—
10			10月24日 [水] - 1月14日 [月] 所蔵品展Ⅲ 寺内萬治郎の歩み (1)	
11		11月8日 [木] - 1月7日 [月] 所蔵品展Ⅲ 蘭島閣美術館コレクションより 白日会の作家たち		12月5日 [水] - 2月11日 [月] 所蔵品展Ⅴ いきもの集まれ! 須田国太郎 VS 日本画・洋画・ 焼き物に描かれた生き物たち
12				
1		1月9日 [水] - 3月4日 [月] 所蔵品展Ⅳ 新春を寿ぐ	1月16日 [水] - 5月13日 [月] 所蔵品展Ⅳ 寺内萬治郎の歩み (2)	
2				2月13日 [水] - 4月8日 [月] 所蔵品展Ⅵ 躍動するかたち—人・もの・風景— 須田国太郎 & 洋画家たち
3		3月6日 [水] - 4月22日 [月] 所蔵品展Ⅴ 黒による表現		

月	松清園 陶磁器館	松清園 御馳走一番館	ギャラリートーク	ワークショップ
4	4月11日 [水] - 6月18日 [月] 所蔵品展Ⅰ 柿右衛門 —ヨーロッパに咲いた伊万里—	4月11日 [水] - 6月18日 [月] 所蔵品展Ⅰ 異文化交流と朝鮮通信使	□4月22日 [日] 松清園	□4月11日 [水]~6月11日 [月] 三之瀬御本陣芸術文化館
5			□5月13日 [日] 蘭島閣美術館 □5月27日 [日] 松清園	
6			□6月3日 [日] 蘭島閣美術館 □6月17日 [日] 蘭島閣美術館	□6月13日 [水]~8月6日 [月] 三之瀬御本陣芸術文化館
7	6月20日 [水] - 9月3日 [月] 所蔵品展Ⅱ 動物文様と古伊万里 同時開催: 動物へのまなざし —今井政之一—	6月20日 [水] - 9月3日 [月] 所蔵品展Ⅱ 朝鮮通信使の道	□7月15日 [日] 蘭島閣美術館 □7月22日 [日] 松清園 □7月29日 [日] 蘭島閣美術館	
8			□8月5日 [日] 蘭島閣美術館 □8月12日 [日] 蘭島閣美術館 □8月26日 [日] 松清園	□7月14日 [土]~9月2日 [日] 松清園
9	9月5日 [水] - 11月26日 [月] 所蔵品展Ⅲ 古伊万里色絵の世界—所蔵名品展—	9月5日 [水] - 11月26日 [月] 所蔵品展Ⅲ 朝鮮通信使と船の旅	□9月23日 [日] 蘭島閣美術館 □9月30日 [日] 松清園	
10			□10月7日 [日] 蘭島閣美術館	
11			□11月4日 [日] 蘭島閣美術館 □11月18日 [日] 松清園	
12	11月28日 [水] - 1月28日 [月] 所蔵品展Ⅳ 古伊万里の装飾と文様	11月28日 [水] - 1月28日 [月] 所蔵品展Ⅳ 描かれた通信使と来日の影響	□12月2日 [日] 蘭島閣美術館 □12月9日 [日] 松清園	
1			□1月13日 [日] 松清園 □1月27日 [日] 蘭島閣美術館	
2	1月30日 [水] - 4月15日 [月] 所蔵品展Ⅴ やきものと茶の湯	1月30日 [水] - 4月15日 [月] 所蔵品展Ⅴ 朝鮮通信使と江戸時代の心	□2月10日 [日] 蘭島閣美術館 □2月17日 [日] 松清園	
3			□3月10日 [日] 蘭島閣美術館 □3月17日 [日] 松清園	□3月20日 [水]~3月31日 [日] 蘭島閣美術館

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営データ

■利用案内

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

月	講演会	茶会・着付け体験・行列・教室	ギャラリーコンサート	備考
4			□ 4月 21日 [土] 蘭島閣美術館 (第 208 回)	□ 4月 21日 [土] 蘭島閣美術館 ギャラリーコンサート講演会
5			□ 5月 19日 [土] 蘭島閣美術館 (第 209 回)	□ 5月 19日 [土] 蘭島閣美術館 ギャラリーコンサート講演会
6			□ 6月 16日 [土] 蘭島閣美術館 (第 210 回) *リクエストプログラム	□ 6月 16日 [土] 蘭島閣美術館 ギャラリーコンサート講演会
7	□ 7月 1日 [日] 蘭島閣美術館 アーティストトーク		□ 7月 21日 [土] 蘭島閣美術館 (第 211 回) *西日本豪雨復興支援コンサート	
8		□ 8月 5日 [日] ふれあい昆虫教室 □ 8月 11日 [土] ふれあい海岸教室	□ 8月 18日 [土] 蘭島閣美術館 (第 212 回)	
9			□ 9月 15日 [土] 蘭島閣美術館 (第 213 回)	
10		□ 10月 21日 [日] 第 16 回朝鮮通信使再現行列	□ 10月 20日 [土] 蘭島閣美術館 (第 214 回)	□ 10月 23日 [火] ミニコンサート (会場:下瀬川中学校体育館)
11		□ 11月 10日 [土]、11日 [日] 松涛園 秋の茶会 □ 11月 28日 [水]~1月 28日 [月] 着付け体験	□ 11月 17日 [土] 蘭島閣美術館 (第 215 回)	
12			□ 12月 15日 [土] 蘭島閣美術館 (第 216 回)	□ 12月 15日 [土] 蘭島閣美術館 ギャラリーコンサート講演会
1			□ 1月 19日 [土] 蘭島閣美術館 (第 217 回)	
2		□ 2月 9日 [土]、10日 [日] 松涛園 梅見茶会	□ 2月 16日 [土] 蘭島閣美術館 (第 218 回)	
3			□ 3月 16日 [土] 蘭島閣美術館 (第 219 回)	

展示公開事業

(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)



GARDEN ISLAND SHIMOKAMAGARI

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

春季特別展 小磯良平、そして広島

目次

沿革

事業カレンダー

展示公開事業
その他の公開

特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽
インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧

普及事業・市民サービス・財団事業

運営パートナー

利用案内

会期 2018（平成30）年6月15日（金）～8月6日（月）
会場 蘭島閣美術館
主催 公益財団法人蘭島文化振興財団、呉市、中国新聞社
後援 NHK 広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FM ちゅーピー 76.6MHz

関連行事

●アーティストトーク

講師：木下和氏（新制作協会会員・日本美術家連盟会員）
2018（平成30）年7月1日（日）午後1時30分から

●よくわかる作品解説

講師：笠岡めぐみ氏（大野ギャラリー学芸員）
2018（平成30）年7月15日（日）午後1時30分から
※西日本豪雨により講師派遣が困難なためイベントを中止。

●ギャラリートーク

2018（平成30）年6月17日（日）、7月29日（日）、8月5日（日）
午前11時から／午後2時から（各日2回）

おもな関連記事、番組など

○「小磯良平、そして広島 上」山下裕子 中国新聞、2018（平成30）年6月27日 ○「小磯良平、そして広島 中」山下裕子 中国新聞、2018（平成30）年6月28日 ○「小磯良平、そして広島 下」山下裕子 中国新聞、2018（平成30）年6月29日 ○「小磯の女性画など一堂に」中国新聞、2018（平成30）年6月15日 ○「繊細な女性画 小磯の気品」中国新聞、2018（平成30）年6月16日 ○「情報クラブ」『週刊プレスネット』6月28日号、株式会社プレスネット

○「テレビ派街かど伝言板／テレビ派」広島テレビ放送、2018（平成30）年6月12日放送 ○「くれきん新聞お知らせコーナー／こちら！くれきん新聞！」RCC中国放送、2018（平成30）年6月15日放送 ○「ちゅうごくとっておき／ひるまえ直送便」NHK広島放送局、2018（平成30）年6月27日放送

印刷物

- ポスターB2 800部
- チラシA4判（両面刷り）36,000部
- 出品目録A3判二つ折り（両面刷り）

目的

本展は、2018（平成30）年に没後30年を迎える小磯良平の画業と広島との関わりを紹介する展覧会として開催した。昭和の洋画壇を代表する小磯良平は、1903（明治36）年神戸に生まれ1922（大正11）年東京美術学校（現・東京芸術大学）に入学し藤島武二の教室で学んだ。東京美術学校を首席で卒業した後、2年間パリに留学し各地の美術館をめぐり西洋の古典的な名作に触れ、帰国後は、故郷神戸で精力的に制作に打ち込み、優れたデッサン力を活かしながら清楚で気品あふれる画風を確立した。1950（昭和25）年からは、母校である東京芸術大学で教鞭をとり後進の育成



展示風景



展示風景

にも力を注ぎ、日本の洋画界に大きく貢献した。本展ではこうした小磯良平の軌跡を、油彩画や素描、版画を通して幅広く紹介するとともに、広島で交流を持った作家たちの作品もあわせて展示し、小磯と広島とのつながりを紹介した。

小磯と広島との関係は、1937（昭和 12）年の広島蒼源会の講習会に参加したことから始まった。1948（昭和 23）年には広島市で開催された平和美術展覧会に自身の作品を出品している。また、「広島平和記念式典」の前身となる「広島平和祭」が 1947（昭和 22）年に初めて開催され、小磯は、第 4 回目の平和祭ポスターを手がけている。1950（昭和 25）年に開催されるはずだった平和祭は当時の政治情勢から開催中止となった。このポスターには、復興間もない広島市の鯉城通りが描かれ、厳しい時代を経て前進していく広島の様子があがえる。本展ではこうしたエピソードにも触れながら、小磯と広島との関わりをひも解いた。

展示内容

(1) 1922→1930

東京美術学校入学から卒業後約 2 年間の渡欧の期間に制作された 4 点を展示。その中でも自画像は、学生時代に制作されたものが数点確認されているが、本展ではアトリエに最後まで残されていた作品を出品した。

(2) 1931→1939

帰国後、神戸市中央区にアトリエを構え本格的に画家としての生活をスタートさせた時期に制作された代表作「着物の女」など 3 点を紹介。

(3) 1940→1949

日中戦争が勃発すると、小磯は、陸軍報道部から戦争記録画制作の要請を受けている。その一方で、慈愛に満ちた平和な主題を求めている。

1941（昭和 16）年に制作された「斉唱」は、当時の心境を語る作品として名高い。本展では「斉唱」に描かれたモデルを主題にした「人物 B」を展示し、小磯が平和的主題を求めていることに触れた。

1945（昭和 20）年、神戸空襲で邸宅とアトリエを失った小磯は、家族とともに神戸市域を転々としている。この頃の作品には慈しみを込めて描いた家族の肖像が目立つ。本展では、「K 夫人像」など自身の家族をモチーフにした作品を紹介した。

(4) 小磯と広島の作家たち

小磯は、1937（昭和 12）年 8 月広島蒼源会主催の夏季洋画講習会に講師として招聘され、広島を訪れている。講

習会には小磯の他に中西利雄、猪熊弦一郎が講師として参加していた。本コーナーでは、小磯の作品とともに中西、猪熊の作品、また講習会に参加していた名柄、太田作品もあわせて展示し、小磯と広島のつながりをパネルや写真とともに紹介した。

(5) 素描の制作

小磯は、写実的な描写力によって数多くの素描を制作している。展示では鉛筆やパステル、サンギエーヌなどさまざまな画材で描かれた素描を紹介した。

(6) 表紙画の制作

油彩画制作と並行して、雑誌『週刊朝日』、『婦人公論』などの表紙画や多数の新聞連載小説の挿絵などを手がけ多彩な作品を残している。本コーナーでは新聞連載の挿絵の一部を紹介した。

(7) 版画の制作

小磯は 1950（昭和 25）年から母校である東京芸術大学で教鞭をとり、後進の育成に力を注いだ。1958（昭和 33）年に、学部長であった伊藤藤と版画教室の設立に尽力したことは、重要な功績として知られている。絵画の指導に当たる一方で、版画制作に打ち込み 1964（昭和 39）年には神戸で小磯良平・第 1 回銅版画展を開催している。特にエッチングにおいては、デッサン力を生かした緻密な描写により油彩画とは異なる魅力的な世界を創り出した。本コーナーではリトグラフやエッチングの作品を展示し、小磯のコメントも説明パネルにし紹介した。

(8) 1950→1988

1950（昭和 25）年、小磯は東京芸術大学の講師となり、1953（昭和 28）年には教授となった。同年小磯は、神戸銀行から依頼を受けて大作「働く人びと」を制作。翌年には神奈川県逗子市に第 2 のアトリエを設け、神戸と二重生活を始めた。東京芸術大学を退官後は制作に専念する日々を過ごし、清楚な女性像を数多く制作した。1974（昭和 49）年には東京赤坂迎賓館壁画が完成。1983（昭和 58）年には文化勲章を受章し、神戸市の名誉市民となった。そして 1988（昭和 63）年、肺炎のため 85 年の生涯を閉じた。

展示では、小磯が戦後復興期に、労働する人とその家族をテーマにした「働く人」や、キャンバスを使わずベニヤ板に水彩紙をはった支持体に油彩で描いた「室内」など、試行錯誤をしていた終戦直後の作品から晩年までの作品を展示し、その画業を振り返った。

(山下裕子)

春季特別展 「小磯良平、そして広島」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	寸法 (縦×横) cm	所蔵
(1) 1922→1930						
1	小磯良平	風景	1923 (大正 12) 年	キャンバス・油彩	60.1×72.4	神戸市立小磯記念美術館
2	小磯良平	自画像	1926 (昭和元) 年	キャンバス・油彩	80.2×52.5	神戸市立小磯記念美術館
3	小磯良平	南仏ロード・カーニュ	1929 (昭和 4) 年	板・油彩	38.0×45.5	神戸市立小磯記念美術館

目次

事業カレンダー

展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

普及事業・市民サービス・財団事業

運営アータ

利用案内

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

4	小磯良平	青衣の女	1929（昭和4）年	キャンバス・油彩	73.0×60.0	神戸市立小磯記念美術館
---	------	------	------------	----------	-----------	-------------

(2) 1931→1939

5	小磯良平	花（アネモネ）	1932（昭和7）年	キャンバス・油彩	52.5×33.0	神戸市立小磯記念美術館
6	小磯良平	着物の女	1936（昭和11）年	キャンバス・油彩	90.9×72.7	神戸市立小磯記念美術館

(3) 1940→1949

7	小磯良平	読書	1939（昭和14）年	キャンバス・油彩	60.5×41.0	大野ギャラリー
8	小磯良平	踊り子	1940（昭和15）年頃	キャンバス・油彩	71.7×40.6	神戸市立小磯記念美術館
9	小磯良平	少女像（人物B）	1941（昭和16）年	キャンバス・油彩	100.0×80.3	神戸市立小磯記念美術館
10	小磯良平	K夫人像	1947（昭和22）年	キャンバス・油彩	80.4×65.5	神戸市立小磯記念美術館
11	小磯良平	二人裸婦	1949（昭和24）年	キャンバス・油彩	129.5×90.0	神戸市立小磯記念美術館
12	小磯良平	音楽	1954（昭和29）年	キャンバス・油彩	116.8×91.2	神戸市立小磯記念美術館

(4) 小磯と広島作家たち

13	小磯良平	第4回平和祭ポスター	1950（昭和25）年	印刷物	75.5×51.0	大野ギャラリー
14	小磯良平	第4回平和祭ポスター原画	1950（昭和25）年頃	キャンバス・油彩	78.5×51.0	広島市議会
15	中西利雄	アッシジ	1931（昭和6）年	紙・水彩	39.6×49.8	呉市立美術館
16	中西利雄	高須風景（広島）	1934（昭和9）年	紙・水彩	38.6×54.6	呉市立美術館
17	中西利雄	人物（和装）	1938（昭和13）年頃	紙・水彩	63.9×50.0	呉市立美術館
18	中西利雄	人物	1942（昭和17）年頃	紙・水彩	64.2×51.2	呉市立美術館
19	猪熊弦一郎	光のある遊園地	1983（昭和58）年	綿布・アクリル	121.5×101.5	呉市立美術館
20	名柄正之	晩秋	1945（昭和20）年頃	紙・水彩	108.0×79.3	比治山大学短期大学部
21	名柄正之	花と彫刻	1965（昭和40）年頃	キャンバス・水彩	90.0×72.0	比治山大学短期大学部
22	名柄正之	アトリエの一隅	1965（昭和40）年頃	紙・水彩	101.0×69.0	比治山大学短期大学部
23	名柄正之	白梅	制作年不詳	紙・水彩	67.0×50.0	比治山大学短期大学部
24	太田忠	海の見える風景	1957（昭和32）年	キャンバス・油彩	134.0×165.5	三次市
25	竹本三郎	菜萁の砂丘A	1985（昭和60）年	キャンバス・油彩	162.0×112.0	比治山大学短期大学部
26	木下和	遺されたもの	1989（平成元）年	キャンバス・油彩	116.7×116.7	
27	野田弘志	TOKUJU（非時）XIV Lion	1993（平成5）年	板・麻布・油彩	72.5×91.0	
28	ゼロ・ヒガシダ	空海-INORI	2016（平成28）年	ステンレス・木	24.4×19.5×12.0	個人蔵

(5) 素描の制作

29	小磯良平	北京にて（兵隊）	1940（昭和15）年	紙・鉛筆	32.5×50.0	大野ギャラリー
30	小磯良平	手と足の習作	1954（昭和29）年	紙・コンテ	63.5×48.2	神戸市立小磯記念美術館
31	小磯良平	母子像A	1954（昭和29）年	紙・サンギーヌ	63.5×48.0	神戸市立小磯記念美術館
32	小磯良平	りんどうとききょう	1960（昭和35）年	紙・ペン	54.9×37.8	神戸市立小磯記念美術館
33	小磯良平	洋梨	1960（昭和35）年	紙・コンテ	37.1×53.8	神戸市立小磯記念美術館
34	小磯良平	鳥と葡萄	1960（昭和35）年	紙・ペン・水彩	37.1×53.8	神戸市立小磯記念美術館
35	小磯良平	ケイ・グリーン像	1972（昭和47）年	紙・パステル	59.1×44.1	神戸市立小磯記念美術館
36	小磯良平	リュートを持つ男	1974（昭和49）年頃	紙・パステル	65.0×50.0	神戸市立小磯記念美術館
37	小磯良平	リュートを持つ婦人のためのエスキース *第44回新制作展出品作のエスキース	1980（昭和55）年	紙・パステル	80.0×80.0	大野ギャラリー

(6) 表紙画の制作

38	小磯良平	風樹 第1回 社会の風（一）	1941（昭和16）年	紙・コンテ・水彩	24.8×35.1	神戸市立小磯記念美術館
39	小磯良平	風樹 第32回 旅情	1941（昭和16）年	紙・コンテ・水彩	24.8×35.1	神戸市立小磯記念美術館
40	小磯良平	白い魔魚 第181回 萩の実（十二）	1955（昭和30）年	紙・インク	18.5×29.5	神戸市立小磯記念美術館
41	小磯良平	近代作家傳装幀原画	1951（昭和26）年	紙・インク・水彩	35.8×49.5	神戸市立小磯記念美術館
42	小磯良平	志賀直哉作品集 カバー装幀原画	1951（昭和26）年	紙・彩色	35.8×49.5	神戸市立小磯記念美術館

(7) 版画の制作

43	小磯良平	インド風のコスチューム	1955（昭和30）年	紙・リトグラフ	60.0×47.5	大野ギャラリー
44	小磯良平	描く婦人	1955（昭和30）年	紙・リトグラフ	61.0×48.5	大野ギャラリー
45	小磯良平	舞妓 I-1	1976（昭和51）年	紙・リトグラフ	55.5×44.5	大野ギャラリー
46	小磯良平	舞妓 II-3	1976（昭和51）年	紙・リトグラフ	55.0×35.5	大野ギャラリー

47	小磯良平	若い女たち・習作・若い女	1976 (昭和 51) 年	紙・リトグラフ	38.5×22.5	大野ギャラリー
48	小磯良平	若い女たち・帽子の女	1976 (昭和 51) 年	紙・リトグラフ	41.0×16.5	大野ギャラリー
49	小磯良平	紫のガウンの人形	1984 (昭和 59) 年	紙・リトグラフ	63.0×50.0	大野ギャラリー
50	小磯良平	ひなどり	1963-64 (昭和 38-39) 年	紙・エッチング	25.0×29.0	大野ギャラリー
51	小磯良平	三つの顔 (II)	1963-64 (昭和 38-39) 年	紙・エッチング	25.4×29.8	大野ギャラリー
52	小磯良平	学校 (芸大) の教室にて	1963-64 (昭和 38-39) 年	紙・エッチング	25.5×29.8	大野ギャラリー
53	小磯良平	掛時計と静物	1964 (昭和 39) 年	紙・エッチング	26.0×29.2	大野ギャラリー
54	小磯良平	椅子にかけるバレリーナ	1968-69 (昭和 43-44) 年	紙・エッチング	36.0×32.8	大野ギャラリー
55	小磯良平	バレリーナ群像 (b)	1968-69 (昭和 43-44) 年	紙・エッチング	38.5×50.7	大野ギャラリー
56	小磯良平	母子像 (家族)	1958 (昭和 33) 年	紙・油彩	77.5×57.3	神戸市立小磯記念美術館

(8) 1950→1988

57	小磯良平	家族	1958 (昭和 33) 年	キャンバス・油彩	106.0×97.1	神戸市立小磯記念美術館
58	小磯良平	働く人	1959 (昭和 34) 年	キャンバス・油彩	111.0×161.0	神戸市立小磯記念美術館
59	小磯良平	群像	1959 (昭和 34) 年	紙・油彩	57.3×77.4	神戸市立小磯記念美術館
60	小磯良平	婦人立像	1959 (昭和 34) 年	紙・油彩	77.5×57.4	神戸市立小磯記念美術館
61	小磯良平	横たわる女	1959 (昭和 34) 年	キャンバス・油彩	130.0×140.0	呉市立美術館
62	小磯良平	室内	1962 (昭和 37) 年	紙・油彩	117.5×116.0	神戸市立小磯記念美術館
63	小磯良平	コートを着た人形	制作年不詳	キャンバス・油彩	65.4×52.8	神戸市立小磯記念美術館
64	小磯良平	花のあるベランダ	1972 (昭和 47) 年	キャンバス・油彩	80.2×65.2	神戸市立小磯記念美術館
65	小磯良平	腰かける二人	1985 (昭和 60) 年	キャンバス・油彩	100.4×100.3	神戸市立小磯記念美術館

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

秋季特別展 戦後の美術—広島を日本画を中心に—

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業（市民サービス・財団事業）

■ 運営データ

■ 利用案内

会期 2018（平成30）年9月15日（土）～11月5日（月）
会場 蘭島閣美術館
主催 公益財団法人蘭島文化振興財団、呉市、中国新聞社
後援 NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー 76.6MHz

関連行事

●ギャラリートーク
2018（平成30）年9月23日（日）、10月7日（日）、
11月4日（日）午前11時から／午後2時から（各日2回）

おもな関連記事、番組など

○「戦後の美術 広島を日本画を中心に 上」山下裕子 中国新聞、2018（平成30）年9月27日 ○「戦後の美術 広島を日本画を中心に 中」山下裕子 中国新聞、2018（平成30）年9月28日 ○「戦後の美術 広島を日本画を中心に 下」山下裕子 中国新聞、2018（平成30）年9月29日 ○「戦後の日本画 新たな流れ」山下裕子 中国新聞、2018（平成30）年10月19日 ○「広島ゆかり 戦後の日本画ずらり 蘭島閣美術館」中国新聞、2018（平成30）年9月15日 ○「広島ゆかり 日本画集う」中国新聞、2018（平成30）年9月16日 ○「市政だよりくれ」10月号、呉市 ○「市政だよりくれ」11月号、呉市

○「蘭島閣美術館秋季特別展の巻／こちら！くれきん新聞！」RCC中国放送、2018（平成30）年10月12日放送

印刷物

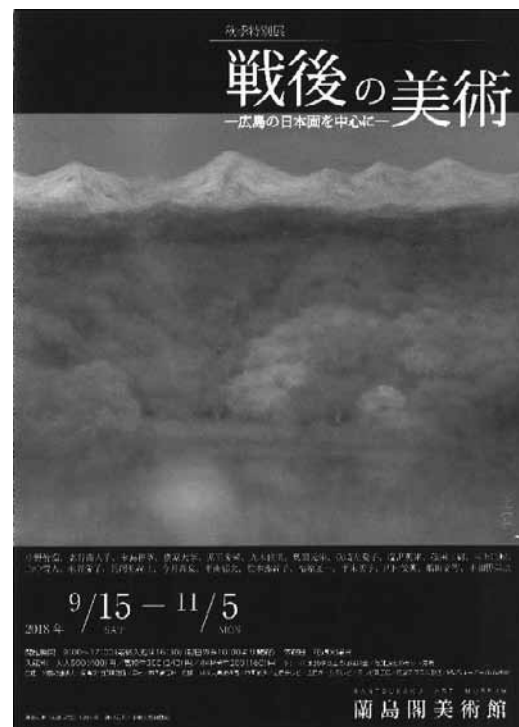
- ポスターB2 800部
- チラシA4判（両面刷り）36,000部
- 出品目録A3判二つ折り（両面刷り）

目的

本展では戦後、社会構造や価値観の大きな変革の中で日本画家たちがさまざまな表現に挑んだ1950年代を起点に、現在までの広島を日本画の歩みを紹介した。1945（昭和20）年8月原子爆弾が投下され、広島市内は廃墟と化し大きなダメージを受けた。しかしその後広島は、戦争の傷痕にも負けず復興に向け歩を進めた。

こうした中で日本画家たちは、欧米からの抽象表現やアンフォルメルなどの新しい絵画表現に刺激を受け、新たな表現を模索しさまざまな試行を重ねている。終戦時すでに50歳前後であった小野竹喬、金島桂華、猪原大華らは自身の立場に安住することなく独自の画境を確立した。また戦後院展の代表作家となる平山郁夫は15歳で被爆し、後遺症に苦しみながらも平和への祈りをテーマに仏教伝来を主題にした作品やシルクロード連作を制作した。

本展は、上記作家たちを起点とし、広島を舞台に活躍した画家たちに焦点を当てた。広島を芸術を、戦後復興とともに花開いた画家から現在活躍中の画家たちまで幅広く展示紹介することで、改めて広島を戦後の日本画の流れを俯瞰した。



展示風景



展示風景

展示内容

(1) 8人の画家

戦後の日本画は、日本の伝統文化の否定から日本画滅亡論にさらされるなど危機的な状況に陥った。こうした中で、技術革新によって新しい岩絵具が多数開発され、従来とは異なる量感あふれる作品制作が可能になった。また近代美術館が多数建設されたことにより、日本画作品の大型化と額装への転換を促した。このような時代の中で当時 50 歳代前後であった、小野竹喬、森谷南人子、金島桂華、猪原大華、児玉希望らは、戦前に築いた自己の絵画世界をさらに純化させながらも、モダンな造形感覚によって日本画の現代化に邁進し独自の華麗な絵画様式を開花させた。

一方で奥田元宋、三上巴峽、塩出英雄ら戦後 30 歳代前後の画家たちは、それぞれの日本画の現代化をひたすらに模索していく。古典的な日本画技法の筆致を離れ、油彩画の筆使いを試みるなど、闊達な感覚を自由に用いて若い個性を見出していった。本コーナーでは世代別に作品を展示することでそれぞれの画家たちが戦後受けた影響を紹介した。

(2) 歷程美術協会の画家たち

時代をさかのぼり 1930 年代、戦時色が次第に濃くなっていく時代の中、古典の研究を重視しながらも大胆で先鋭的な新しい表現を積極的に盛り込んだ作品を発表した歷程美術協会に参加した広島にゆかりのある 3 人の画家を紹介した。その中の一人浜崎左髪子は 1939 (昭和 14) 年広島市内で開催された歷程美術研究会広島展の画談会に丸木位里や鬮光らと参加しており、当時から先鋭的な活動に興味

を持っていたことがうかがえる。展示では左髪子の瀬戸内海の島々を描いた作品を展示した。また呉市下蒲刈にゆかりのある船田玉樹も歷程美術協会創立に参加しており、本展では所蔵品から新興美術院出品作などを紹介した。

(3) 現在の画家たち I

現在広島で活躍している日本画家の作品を紹介した。呉市出身の其阿弥赫土は東京美術学校 (現・東京芸術大学) 在学中に学徒出陣を経験した。戦後は故郷に戻り中学校の教諭をしながら広島県美術展や創造美術展へ作品を発表し制作活動を続けた。本コーナーでは、彼が創作の原点をつかんだ場所である黒瀬川を主題にした作品から、初期から描きためていた寺社を幽玄な美しさを持って表現した「塔」や、取材先を広げてイタリアの集落を描いた作品まで幅広く紹介した。あわせてこうした其阿弥の活躍を見て刺激を受けた画家たちの作品を展示した。

(4) 現在の画家たち II

尾道市瀬戸田町出身の平山郁夫は伝統的画題への再挑戦を模索し戦後の日本画をけん引した。また長年にわたり後進の育成や故郷広島での美術教育の基礎づくりにも尽力してきた。本コーナーでは平山郁夫を起点に、広島の美術教育に尽力した画家を紹介した。あわせて平山郁夫と同じく前田青郵門下で、院展で活躍した山中雪人や水谷愛子の作品も展示し広島を中心とした日本画の軌跡を辿った。

(山下裕子)

秋季特別展 「戦後の美術—広島に日本画を中心に—」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	寸法 (縦×横) cm	所蔵
(1) 8人の画家						
1	小野竹喬	早春	1945 (昭和 20) 年頃	紙本彩色	40.2×51.0	新見美術館
2	小野竹喬	朝	1967 (昭和 42) 年頃	紙本彩色	39.5×53.0	新見美術館寄託 (個人蔵)
3	森谷南人子	千光寺春色	1976 (昭和 51) 年	紙本彩色	32.1×41.4	寄託
4	金島桂華	薔薇に白百合	制作年不詳	絹本彩色	49.8×55.5	寄託
5	金島桂華	鶴	制作年不詳	紙本彩色	85.7×119.1	
6	金島桂華	雪の椿	制作年不詳	紙本彩色	50.5×59.5	寄託
7	猪原大華	小椋鳥	制作年不詳	紙本彩色	24.3×33.4	新見美術館
8	児玉希望	清爽	制作年不詳	絹本彩色	45.3×52.6	
9	児玉希望	戸隠秋景	制作年不詳	紙本彩色	38.5×50.8	寄託
10	奥田元宋	月夜	1950 (昭和 25) 年頃	絹本彩色	120.5×35.7	奥田元宋・小由女美術館
11	奥田元宋	燈台	制作年不詳	紙本彩色	29.5×28.5	寄託
12	奥田元宋	立夏	1955 (昭和 30) 年	紙本彩色	129.3×182.7	奥田元宋・小由女美術館
13	奥田元宋	風光る	1970 (昭和 45) 年	絹本彩色	80.8×100.5	
14	奥田元宋	遠山早雪	1984 (昭和 59) 年	絹本彩色	54.0×64.5	奥田元宋・小由女美術館
15	三上巴峽	夕映	制作年不詳	紙本彩色	41.0×60.7	
16	塩出英雄	山湖	制作年不詳	絹本彩色	43.2×51.2	
17	塩出英雄	裏岩菅秋色	1994 (平成 6) 年	紙本彩色	47.8×55.1	
18	塩出英雄	風景	制作年不詳	紙本彩色	48.8×60.2	寄託

(2) 歷程美術協会の画家たち

■ 沿革
■ 目次

■ 事業力カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

19	浜崎左髪子	内海	1975（昭和50）年	紙本彩色	240.0×541.0	
20	船田玉樹	櫻島	1952（昭和27）年	紙本彩色	121.0×181.5	
21	船田玉樹	九品仏幻想 秋	1965（昭和40）年	紙本彩色	130.0×160.0	
22	船田玉樹	九品仏幻想 冬	1965（昭和40）年	紙本彩色	130.0×160.0	
23	船田玉樹	おむらつんつん	制作年不詳	キャンバス・油彩	115.2×90.5	
24	船田玉樹	岬	1967（昭和42）年	紙本彩色	60.8×45.6	
25	丸木位里	臥龍梅（夜明け）	1963（昭和38）年	紙本彩色	69.5×69.5	
26	丸木位里	インド	1978（昭和53）年	紙本墨画淡彩	33.6×45.6	新見美術館
27	丸木位里・丸木俊	飛天	1994（平成6）年	紙本墨画淡彩	176.3×191.0	新見美術館

(3) 現在の画家たち I

28	其阿弥赫士	涛	1989（平成元）年	紙本彩色	182.6×366.0	
29	其阿弥赫士	寄せる波	1991（平成3）年	紙本彩色	182.6×366.0	
30	其阿弥赫士	流れ	1993-2009（平成5-21）年	紙本彩色	90.0×180.0	
31	其阿弥赫士	塔（習作）	2009（平成21）年	紙本彩色	58.3×47.3	
32	其阿弥赫士	塔	1988-2009（昭和63-平成21）年	紙本彩色	162.1×130.3	
33	其阿弥赫士	山上集落	2005（平成17）年	紙本彩色	90.0×180.0	
34	船田奇峯	藤	1982（昭和57）年	紙本彩色	181.6×363.4	
35	住本弥綺子	彩衣	1985（昭和60）年	紙本彩色	142.0×116.8	
36	福原匠一	干	1990（平成2）年	紙本彩色	230.3×170.3	
37	福原匠一	河畔	1988（昭和63）年	紙本彩色	112.2×145.6	
38	其阿弥赫士	神苑	制作年不詳	紙本彩色	80.0×92.5	
39	平末初子	港の朝	1989（平成元）年	紙本彩色	91.0×116.7	
40	福原匠一	女猫の瀬戸	1994-1995（平成6-7）年	紙本彩色	72.7×60.6	
41	福原匠一	春香	1983-1984（昭和58-59）年	紙本彩色	291.0×72.7	
42	福原匠一	富士静か	1983-1984（昭和58-59）年	紙本彩色	53.4×65.4	
43	住本弥綺子	富貴花	制作年不詳	紙本彩色	60.0×50.0	

(4) 現在の画家たち II

44	西田俊英	泰山木	1992（平成4）年	紙本彩色	65.5×91.0	
45	西田俊英	灯のともる頃	1992（平成4）年	紙本彩色	113.0×163.0	
46	西田俊英	若葉の頃	2002（平成14）年	紙本彩色	80.0×130.0	広島市立大学芸術資料館
47	今井珠泉	颯（知床）	1995（平成7）年	紙本彩色	227.3×181.8	広島市立大学芸術資料館
48	山中雪人	地	1963（昭和38）年	紙本彩色	215.0×124.0	呉市立美術館
49	山中雪人	天	1964（昭和39）年	紙本彩色	214.5×123.5	呉市立美術館
50	水谷愛子	老（A）	1992（平成4）年	紙本彩色	167.0×212.0	呉市立美術館
51	小田野尚之	暮れゆく	2014（平成26）年	紙本彩色	170.0×215.0	新見美術館
52	平山郁夫	アッシジの丘	1965（昭和40）年	紙本彩色	44.5×100.0	
53	平山郁夫	カルナック神殿 ルクソールエジプト	1994（平成6）年	紙本彩色	80.4×116.8	広島市立大学芸術資料館
54	平山郁夫	東大寺仏誕	2001（平成13）年	紙本彩色	50.0×60.6	新見美術館
55	平山郁夫	八坂塔遠望	2004（平成16）年	紙本彩色	80.3×116.7	新見美術館

所蔵品展 | 蘭島閣美術館コレクション名品展

会期 2018（平成30）年4月25日（水）～6月11日（月）
会場 蘭島閣美術館

関連行事

- ギャラリートーク
2018（平成30）年5月13日（日）、6月3日（日）
午前11時から／午後2時から（各日2回）

おもな関連記事、番組など

○「おでかけ案内板」『リビングひろしま』広島リビング新聞社、2018（平成30）年6月2日号 ○「市政だよりくれ」5月号、呉市 ○「市政だよりくれ」6月号、呉市 ○「くれえばん」5月号、株式会社クレ・マスメディア・スタジオ ○「くれえばん」6月号、株式会社クレ・マスメディア・スタジオ

印刷物

- チラシA4判（両面刷り） 8,000部
- 出品目録A4判（両面刷り）

目的

本展では、所蔵品の中から名品を選び日本の近代絵画の潮流を紹介した。日本画では横山大観や小林古径など日本美術院で活躍した作家を始め、戦後の日展を支えた杉山寧、高山辰雄、東山魁夷らの作品を展示。西洋絵画と並ぶ日本画の創造を目指し設立された創造美術（現・創画会）で活躍した加山又造や、橋本明治、山本丘人、横山操、吉岡堅二などの名品を紹介した。洋画では、所蔵品の中核を担う独立美術協会の作家作品を中心に展示をおこなった。

展示内容

（1）日本画

横山大観を起点に日本美術院の作家、そして戦後日展を支えた東山魁夷、杉山寧、高山辰雄のいわゆる「日展三山」として人気を博した3人の作品を展示。あわせて1948（昭和23）年に結成された創造美術で活躍した作家の作品を展示し戦前から戦後の日本画の流れを紹介した。また2階では、現在活躍している田淵俊夫の作品や鈴木竹柏らの作品も展示し、多彩な挑戦が続けられている日本画表現を紹介した。

（2）油彩画

1914（大正3）年、新しい美術の発展を目指し石井柏亭、梅原龍三郎、山下新太郎らによって設立された二科会にはのちに安井曾太郎や小杉放庵、森田恒友らも参加している。この二科会を端緒に次々と新しい団体が生まれ、西欧の新しい絵画運動に触発され多様で個性的な展開を見せた。本コーナーでは二科会を起点に、のちに独立した団体として独立美術協会とその前身に当たる1930年協会で活躍した作家作品を展示し、フォービズムや主観的な写実表現、キュビズムやシュルレアリスムなど、それぞれの作家たちが自身の作品に取り入れた幅広い表現方法を紹介した。あわせて独立美術協会で活躍し広島にゆかりのある小林和作や空野八百蔵の作品も展示し、日本近代絵画の中での洋画の歩みを紹介した。

（山下裕子）



展示風景

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

蘭島閣美術館 所蔵品展 | 「蘭島閣美術館コレクション名品展」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
-----	-----	-----	-----	------	----	------------	----

(1) 日本画

1	横山大観	神洲乃正気	1943 (昭和 18) 年	紙本彩色	額装	59.5×73.5	
2	安田靉彦	稔り	1918 (大正 7) 年	絹本彩色	額装	65.0×123.1	
3	小林古徑	牡丹	1951-52 (昭和 26-27) 年	紙本彩色	額装	50.5×65.6	
4	前田青邨	群泳	1963 (昭和 38) 年頃	紙本彩色	額装	56.3×71.0	
5	東山魁夷	晴春	1956 (昭和 31) 年	紙本彩色	額装	38.0×50.2	
6	杉山寧	芳春	1952 (昭和 27) 年	紙本彩色	額装	30.0×28.3	
7	杉山寧	晶	1969 (昭和 44) 年頃	麻布・彩色	額装	65.6×93.5	
8	高山辰雄	花のある静物	1964 (昭和 39) 年	紙本彩色	額装	54.0×92.0	
9	高山辰雄	森の気	1973 (昭和 48) 年	紙本彩色	額装	53.0×65.2	
10	高山辰雄	鳩	1988 (昭和 63) 年	絹本彩色	額装	73.2×55.4	
11	橋本明治	麗	1970 (昭和 45) 年	紙本彩色	額装	73.0×50.0	
12	横山操	灯台	1958 (昭和 33) 年	絹本彩色	額装	51.2×75.8	
13	山本丘人	青い季節	1962 (昭和 37) 年	金箔麻紙・彩色	額装	49.2×60.4	
14	吉岡堅二	孔雀	1973 (昭和 48) 年	紙本彩色	額装	61.0×46.0	
15	加山又造	鴉	1959 (昭和 34) 年	紙本彩色	額装	62.2×74.7	
16	堅山南風	茜	1975 (昭和 50) 年頃	紙本彩色	額装	73.0×60.2	
17	奥村土牛	スペイン皿	1961 (昭和 36) 年	紙本彩色	額装	56.8×66.2	
18	吉田善彦	栗咲く里	1975 (昭和 50) 年	紙本彩色	額装	105.0×81.0	
19	岩橋英遠	山 銀斧	1966 (昭和 41) 年	紙本彩色	額装	180.5×150.0	
20	岩橋英遠	山 金扇	1966 (昭和 41) 年	紙本彩色	額装	180.5×150.0	
21	岩橋英遠	去来	1988 (昭和 63) 年	紙本彩色	額装	80.3×116.7	
22	丸木位里	臥龍梅 (夜明け)	1963 (昭和 38) 年	紙本彩色	額装	69.5×69.5	
23	船田玉樹	櫻島	1952 (昭和 27) 年	紙本彩色	額装	121.0×181.5	
24	平山郁夫	アッシジの丘	1965 (昭和 40) 年	紙本彩色	額装	44.5×100.0	
25	田淵俊夫	歴	1987 (昭和 62) 年	紙本彩色	額装	101.0×101.1	
26	鈴木竹柏	丘	1981 (昭和 56) 年	紙本彩色	額装	160.0×210.0	
27	土屋礼一	静日	1992 (平成 4) 年	紙本彩色	額装	65.5×100.0	
28	川崎春彦	瑞雲富士	1992 (平成 4) 年	紙本彩色	額装	91.0×65.0	
29	川崎鈴彦	黄昏	1991 (平成 3) 年	紙本彩色	額装	45.5×60.5	
30	森脇正人	八ヶ岳春来	1993 (平成 5) 年	紙本彩色	額装	75.0×93.0	
31	池田道夫	池畔	制作年不詳	紙本彩色	額装	67.7×52.5	
32	川崎麻児	夜が渡る	1991 (平成 3) 年	麻布・彩色	額装	65.2×80.3	
33	山崎隆夫	春香	1993 (平成 5) 年	絹本彩色	額装	120.5×95.3	
34	岩澤重夫	流転	1993 (平成 5) 年	紙本彩色	額装	112.1×193.8	
35	渡辺信喜	芙蓉花	1992 (平成 4) 年	紙本彩色	額装	91.0×116.6	

(2) 油彩画

36	石井柏亭	幸子像	1903 (明治 36) 年	紙・水彩	額装	28.0×23.4	
37	梅原龍三郎	二人の裸婦	制作年不詳	紙・グワッシュ	額装	27.0×19.0	寄託
38	山下新太郎	朝鮮水源	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	25.0×36.0	寄託
39	小杉放庵	舌切雀	制作年不詳	紙本彩色	額装	38.5×40.3	
40	安井曾太郎	奏	1936 (昭和 11) 年	紙・鉛筆・水彩	額装	26.8×34.1	
41	森田恒友	野菜帖	1933 (昭和 8) 年	紙・水彩	額装	19.4×26.2	
42	森田恒友	野菜帖	1933 (昭和 8) 年	紙・水彩	額装	19.4×26.2	
43	森田恒友	野菜帖	1933 (昭和 8) 年	紙・水彩	額装	19.4×26.2	
44	木下孝則	バリ風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	38.0×42.8	
45	木下孝則	ばら	1964 (昭和 39) 年	キャンバス・油彩	額装	41.2×32.5	
46	佐伯祐三	バリの教会堂	1928 (昭和 3) 年	キャンバス・油彩	額装	38.2×45.0	
47	里見勝蔵	ハンス婦人	1923 (大正 12) 年頃	キャンバス・油彩	額装	41.0×27.5	

No.31 は前半展示、No.32 は後半展示。作家名のうち、土屋礼一の漢字表記は礼一とした。本名は禮一。

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

48	林武	婦人像	1923 (大正 12) 年	キャンバス・油彩	額装	45.3×37.8	
49	林武	和装婦人	1935 (昭和 10) 年	キャンバス・油彩	額装	91.0×72.7	
50	児島善三郎	横臥	1929 (昭和 4) 年	キャンバス・油彩	額装	97.5×162.2	
51	海老原喜之助	馬上人物	1955 (昭和 30) 年頃	紙・鉛筆・水彩	額装	35.4×25.4	
52	三岸好太郎	貝殻	1934 (昭和 9) 年	板・油彩	額装	21.2×27.1	
53	鳥海青児	段々島	1951 (昭和 26) 年	ボード・油彩	額装	32.1×37.6	
54	福沢一郎	花	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	41.5×36.0	寄託
55	三岸節子	花	1970 年代	キャンバス・油彩	額装	41.0×32.0	
56	三岸節子	南仏風景	1970 年代	紙・水彩・パステル	額装	34.5×45.0	
57	三岸節子	ロワール風景	1970 年代	紙・水彩・パステル	額装	43.5×37.0	
58	小林和作	尾道風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
59	小林和作	荒海	1950 (昭和 25) 年	キャンバス・油彩	額装	33.5×60.8	
60	空野八百蔵	運河 (サンマルタン)	1972 (昭和 47) 年	キャンバス・油彩	額装	60.7×73.0	
61	福島瑞穂	モンマルトル・雨	1961 (昭和 36) 年	キャンバス・油彩	額装	116.7×90.9	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展Ⅱ 平和への祈り

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業 市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

会期 2018（平成30）年8月9日（水）～9月10日（月）
会場 蘭島閣美術館

関連行事

- ギャラリートーク
2018（平成30）年8月12日（日）午前11時から／午後2時から（各日2回）

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」8月号、呉市

印刷物

- チラシA4判（両面刷り） 8,000部
- 出品目録A4判（両面刷り）

目的

戦後、社会構造や価値観の大きな変革の中で、西洋から新しい絵画表現が次々と紹介され美術作家たちは大きな影響を受けた。本展ではこの激動の時代に、自身の表現の在り方を追求した画家たちに焦点を当て作品を紹介した。戦争とシベリア抑留の体験を経て人間愛と平和をテーマに創作活動を続けた香月泰男や、戦後穏やかな瀬戸内を題材に多くの風景画を制作した南薫造、敗戦後戦地からの復員を待たず病死した鬚光、そして現代の広島作家まで、それぞれの作家たちが込めた平和への祈りの表現を紹介した。

展示内容

（1）油彩画家たちによる表現

香月は、敗戦後シベリアに抑留され2年間の収容所生活を経て1947（昭和22）年に復員。その後、自らの戦争、虜囚体験を油彩画連作「シベリア・シリーズ」として制作した。本コーナーではそのシベリア・シリーズの作品「運ぶ人」や「餓鬼」を展示した。また香月は復員後シベリア・シリーズとともに、生活風景や草花を主題にした作品を多数制作している。戦争の悲惨さを描くかわら、郷里の自然や風景、景色や家族、動植物を愛情あふれる感覚で描いた。本コーナーでは、母子をシルエットとして表現した「母子（砂遊び）」などを展示し、平和であることの尊さを伝える作品を紹介した。

同展示室では、呉市安浦町出身の南薫造の瀬戸内の風景や生活の場面をモチーフにした作品も紹介した。南は、1944（昭和19）年戦禍を逃れて故郷安浦へ家族とともに疎開し、晩年は瀬戸内海を主題にした作品を多数制作している。展示では故郷安浦の景色を始め、日々の生活の中の何気ない景色を描いた作品や穏やかな瀬戸内海が描かれた作品を紹介した。

（2）日本画家たちによる表現

戦時中、美術の活動が厳しく統制され、画家たちは戦争遂行に協力することを求められ戦争画やいわゆる「銃後」の人々を顕彰する作品が多数制作された。展示では、日本画家たちによる銃後を題材に家族や生活を描いた作品や、戦場を描いた記録的な要素を持つ作品を紹介した。

（3）広島作家たちによる表現



展示風景



展示風景

広島に生まれさまざまな表現を試みながら独自の画風を確立した鬚光が絵画制作に打ち込んだ時代は、同時に日本が戦争に向かった時代でもあった。展示では、鬚光とともに新人画会を結成し閉塞的な時代を生き抜いた麻生三郎や松本峻介らの作品を展示した。

また同展示室では、呉市出身の飴村秀子の 1960 年代から近年までの染色作品を一堂に展示。飴村は戦後染織工芸作家花房花子に師事し現代工芸展や日展で活躍し、数々の賞を受賞している。展示では平和の祈りを込めて制作された作品 10 点を紹介した。

(山下裕子)

蘭島閣美術館 所蔵品展Ⅱ 「平和への祈り」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
-----	-----	-----	-----	------	----	------------	----

(1) 油彩画家たちによる表現

1	香月泰男	運ぶ人	1959 (昭和 34) 年	キャンバス・油彩	額装	73.1×50.1	
2	香月泰男	餓鬼	1964 (昭和 39) 年	キャンバス・油彩	額装	91.5×61.0	
3	香月泰男	東雲	1964 (昭和 39) 年	キャンバス・油彩	額装	91.2×61.0	
4	香月泰男	母子 (砂遊び)	1969 (昭和 44) 年	キャンバス・油彩	額装	27.8×20.8	
5	香月泰男	青野山	1972 (昭和 47) 年	キャンバス・油彩	額装	91.8×60.5	
6	南薫造	田植風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	50.0×61.0	
7	南薫造	水汲場	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	72.7×90.5	
8	南薫造	浴後	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	72.7×60.6	
9	南薫造	串山のみかん畑	1948 (昭和 23) 年	キャンバス・油彩	額装	38.1×45.4	
10	南薫造	瀬戸内風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
11	南薫造	夏の海	1916 (大正 5) 年	紙・水彩	額装	25.0×35.5	
12	南薫造	海水場	制作年不詳	紙・水彩	額装	24.0×32.5	
13	南薫造	瀬戸内風景	制作年不詳	紙・水彩	額装	28.0×37.0	
14	南薫造	瀬戸内風景・岩壁	制作年不詳	紙・水彩	額装	28.0×39.0	
15	南薫造	安芸蒲刈小島	制作年不詳	色紙・水彩	額装	27.2×23.9	
16	南薫造	御手洗笠橋より	制作年不詳	紙・水彩・コンテ	額装	13.0×26.0	
17	南薫造	安浦の海 (稚児の明神)	制作年不詳	紙・水彩	額装	28.0×38.0	
18	南薫造	海 (帆)	制作年不詳	紙・水彩	額装	27.5×40.0	
19	小林和作	海	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	24.1×33.2	
20	小林和作	瀬戸内風景	制作年不詳	紙・水彩	額装	28.3×22.5	
21	小林和作	瀬戸の海	制作年不詳	紙・水彩	額装	28.7×46.2	
22	小林和作	向島	制作年不詳	紙・水彩	額装	26.2×36.5	
23	小林和作	向島風景	制作年不詳	紙・水彩	額装	26.1×36.4	
24	野間仁根	漁村	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.8×53.2	
25	野間仁根	瀬戸内海 新緑の丘	1978 (昭和 53) 年頃	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
26	岡崎勇次	瀬戸の夜明け	1989 (平成元) 年	キャンバス・油彩	額装	50.4×91.2	
27	平岡秀樹	瀬戸内 (因島)	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	91.3×116.8	
28	新延輝雄	蜜柑の瀬戸	制作年不詳	紙・水彩	額装	32.4×42.2	
29	新延輝雄	蜜柑の瀬戸	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	60.5×72.8	
30	三原捷宏	周防灘	1988 (昭和 63) 年	キャンバス・油彩	額装	91.0×116.7	
31	三原捷宏	瀬戸海景	1991 (平成 3) 年	キャンバス・油彩	額装	130.0×194.0	
32	平賀公二	内海	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	130.6×162.5	

(2) 日本画家たちによる表現

33	西沢笛畝	炊事場	1945 (昭和 20) 年	絹本彩色	額装	43.7×51.2	
34	中野草雲	風景 家	1944 (昭和 19) 年	絹本彩色	額装	45.5×53.1	
35	西村卓三	人物 畑仕事の女	1944 (昭和 19) 年	絹本彩色	額装	44.0×51.5	
36	西村卓三	人物 男	1944 (昭和 19) 年	絹本彩色	額装	44.0×51.5	
37	吉岡堅二	敵を撃破して進む戦闘シーン	1944 (昭和 19) 年	絹本彩色	額装	55.3×59.8	
38	向井久万	銃後を守る国防婦人会	1944 (昭和 19) 年	絹本彩色	額装	48.5×53.2	
39	根上富治	戦死した英霊を迎える家族	1944 (昭和 19) 年	絹本彩色	額装	48.0×52.0	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

■ 目次

■ 沿革

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開入会一瞥)

■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

40	東山魁夷	戦時下の乙女	1944 (昭和 19) 年	紙本彩色	額装	48.6×58.2	
41	村松乙彦	戦闘機と戦艦	1944 (昭和 19) 年	紙本彩色	額装	47.0×61.7	
42	江崎孝坪	群兵	1944 (昭和 19) 年	紙本彩色	額装	47.0×56.0	
43	福井芳郎	ヒロシマの悲しみ、 ヒロシマの怒り	制作年不詳	紙・水彩	額装	50.5×64.6	寄託
44	福井芳郎	原爆ドーム	制作年不詳	紙・水彩	額装	45.0×42.0	寄託
45	丸木位里	原爆の囃 少年少女	制作年不詳	陶板	額装	43.5×34.8	寄託
46	平沢喜之助	原爆ドーム	1973 (昭和 48) 年	キャンバス・油彩	額装	27.5×20.8	

(3) 広島の作家たちによる表現

47	薮光	鳥	1938 (昭和 13) 年	紙・墨	額装	25.0×54.6	
48	薮光	キリスト (赤)	1932 (昭和 7) 年	紙・グワッシュ・墨	額装	35.8×14.9	
49	薮光	パーサーの像	1943 (昭和 18) 年	紙・水彩	額装	40.4×22.0	
50	麻生三郎	人	1990 (平成 2) 年	キャンバス・油彩	額装	53.2×45.6	
51	松本竣介	少女	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	27.2×22.3	
52	灰谷正夫	柿	1944 (昭和 19) 年	キャンバス・油彩	額装	27.0×41.0	
53	灰谷正夫	赤土	1972 (昭和 47) 年	キャンバス・油彩	額装	100.0×80.0	
54	飴村秀子	あかい葉脈	1966 (昭和 41) 年	日本製紡織木綿・あさがすみ・ ろうけつ染・直接染料	額装	147.0×93.5	
55	飴村秀子	瑛	1967 (昭和 42) 年	日本製紡織木綿・あさがすみ・ 直接染料	額装	174.5×98.0	
56	飴村秀子	告知	1974 (昭和 49) 年	日本製紡織木綿・あさがすみ・ ろうの併用・直接染料	額装	146.5×113.0	
57	飴村秀子	エワの追憶	1979 (昭和 54) 年	日本製コットンツイル・ 直接染料	額装	185.0×132.0	
58	飴村秀子	契約の櫃	1980 (昭和 55) 年	白デニム地・ろうけつによる 灰汁発酵建・正藍染	タペストリー	184.5×109.5	
59	飴村秀子	過越伝承	1982 (昭和 57) 年	インド綿・シッククロス・ろうけつ による灰汁発酵建・正藍染	タペストリー	183.0×128.0	
60	飴村秀子	天の門 (創世記 28)	1985 (昭和 60) 年	インド綿・シッククロス・ろうけつ 染・灰汁発酵建・正藍染	タペストリー	204.0×127.0	
61	飴村秀子	世は去り世はきたる。 されど、、、 (伝道の書 1-4)	1993 (平成 5) 年	スイス製ジャガード木綿・ろうけつ による灰汁発酵建・正藍染	タペストリー	185.0×125.0	
62	飴村秀子	「賛美」大聖年 (詩篇 148)	2000 (平成 12) 年	麻・木綿・滌布ジャガード・ろうけつ による灰汁発酵建・正藍染	タペストリー	180.0×120.0	
63	飴村秀子	よき道をたどれ (エレミア書 6-16)	2006 (平成 18) 年	オックスフォード木綿・ろうけつ による灰汁発酵建・正藍染	タペストリー	183.0×127.0	

所蔵品展Ⅲ 蘭島閣美術館コレクションより 白日会の作家たち

会期 2018（平成30）年11月8日（木）～2019（平成31）年1月7日（月）

会場 蘭島閣美術館

関連事業

●ギャラリートーク

2018（平成30）年12月2日（日）午前11時から／午後2時から（各日2回）

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」12月号、呉市

印刷物

●チラシA4判（両面刷り） 8,000部

●出品目録A4判（両面刷り）

目的

白日会は1924（大正13）年、関東大震災直後の不安や動揺の中で美術の復興と普及を目指し中沢弘光らが中心となり発足した。創立会員には、東京美術学校出身者や西欧留学生を中心に院展や二科展、太平洋画会や無所属の作家たちが名を連ねた。第2回展からは白日会を公募展として開放、若手作家や地方作家の中央進出への足がかりと自由な発表の場として、数多くの作家が作品を発表した。しかしその後、白日会はさまざまな紆余曲折を経験し、戦後は低迷期を迎えた。こうした中で、当期中堅作家であった伊藤清永や平松譲らが全力で同会の復活に取り組み、現在では研究団体として若手作家の育成を図り、美術界で活躍する作家を多数輩出している。

本展では、所蔵品から白日会会員及び同会に出品歴のある作家の作品を展示し、その優雅な世界を紹介した。また同会でかつて活躍し、写実絵画の重鎮として知られる野田弘志の作品を展示し、同会に受け継がれる写実の精神をあわせて紹介した。

展示内容

（1）白日会—創立から戦前期—

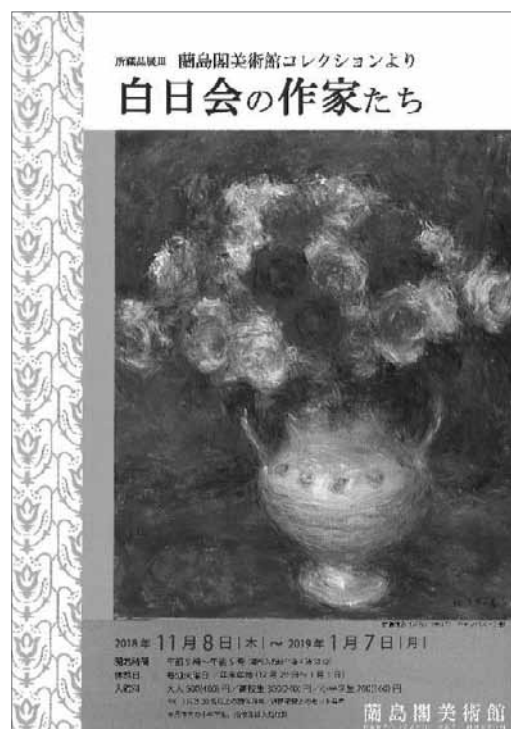
1924（大正13）年中沢弘光ら18名で創立された白日会は、33歳から50歳まで幅広い年齢層のメンバーで構成され、帝展、院展、二科展など相互間での出品の制約はなく研究団体としてスタートした。展示では所蔵品の中から創立会員を選び、中沢弘光、辻永、小寺健吉、南薫造の作品を紹介。また白日会は第2回展から公募展となり若い作家たちの作品発表の場を提供していたので、出品歴のある巖光や石井柏亭、岸田劉生らの作品もあわせて紹介した。

（2）白日会—戦後から現代—

戦後、低迷期を迎えた白日会をけん引した伊藤清永、平松譲を主軸に、柳沢淑郎や伊藤晴子、中山忠彦ら次世代の育成と会の継承に尽力し現在も白日会で活躍している作家たちの作品を展示することで、戦後から現在に至る白日会の流れを紹介した。

（3）野田弘志の絵画世界

野田弘志は、1960（昭和35）年、第36回白日会展で白



展示風景



展示風景

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

日会賞を受賞、1962 (昭和 37) 年から日会会員となり
1998 (平成 10) 年まで同会に出品を続けた。
当財団は野田が教員として広島に在籍していた時期の作

品を多数所蔵しており、下蒲刈を主題にした「芸芸灘大橋」
や「下蒲刈の海」、1991 (平成 3) 年から制作された非時
シリーズを展示し写実絵画の魅力を紹介した。

(山下裕子)

蘭島閣美術館 所蔵品展Ⅲ 「蘭島閣美術館コレクションより 日会の作家たち」 出品リスト

* 無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
-----	-----	-----	-----	------	----	------------	----

(1) 日会一創立から戦前期一

1	黒田清輝	伊豆大島遠望	1914 (大正 3) 年	板・油彩	額装	23.8×33.0	
2	中沢弘光	海岸風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	70.0×113.5	
3	辻永	パリ郊外にて	1920 (大正 9) 年	キャンバス・油彩	額装	48.5×59.5	
4	小寺健吉	溪流と夏草	1947 (昭和 22) 年	キャンバス・油彩	額装	72.5×91.0	
5	南薫造	庭の一隅	1922 (大正 11) 年	キャンバス・油彩	額装	50.1×60.2	
6	南薫造	海辺の造船所	1928 (昭和 3) 年	キャンバス・油彩	額装	60.5×80.5	
7	南薫造	海 (房州)	1930 (昭和 5) 年	キャンバス・油彩	額装	50.0×60.5	
8	南薫造	那智の滝	1937 (昭和 12) 年	キャンバス・油彩	額装	53.2×45.5	
9	鬨光	キリスト (赤)	1932 (昭和 7) 年	紙・グワッシュ・墨	額装	35.8×14.9	
10	鬨光	鳥	1938 (昭和 13) 年	紙・墨	額装	25.0×54.6	
11	鬨光	パーサーの像	1943 (昭和 18) 年	紙・水彩	額装	40.4×22.0	
12	石井柏亭	幸子像	1903 (明治 36) 年	紙・水彩	額装	28.0×23.4	
13	石井柏亭	水辺	1944 (昭和 19) 年	キャンバス・油彩	額装	62.7×92.2	
14	満谷国四郎	漁村風景	制作年不詳	絹・油彩	額装	37.2×117.6	
15	岸田劉生	童女図 (麗子像)	1929 (昭和 4) 年	紙本墨画淡彩	額装	69.2×49.3	
16	吉井淳二	舞妓 (鼓の音)	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	53.0×45.4	
17	梅原龍三郎	薔薇図	1971 (昭和 46) 年	ボード・油彩	額装	41.3×31.9	
18	梅原龍三郎	少女	1973 (昭和 48) 年	キャンバス・油彩	額装	59.8×43.0	
19	梅原龍三郎	牡丹図	1975 (昭和 50) 年	紙・油彩	額装	39.8×30.3	
20	梅原龍三郎	二人の裸婦	制作年不詳	紙・グワッシュ	額装	27.0×19.0	

(2) 日会一戦後から現代一

21	岡田三郎助	裸婦	1931 (昭和 6) 年	ボード・油彩	額装	33.2×24.0	
22	伊藤清永	清雅	1992 (平成 4) 年	キャンバス・油彩	額装	53.0×72.7	
23	伊藤清永	黒髪	1993-1997 (平成 5-9) 年頃	キャンバス・油彩	額装	90.9×116.7	
24	伊藤清永	ばら	1993 (平成 5) 年	キャンバス・油彩	額装	53.0×45.5	
25	伊藤晴子	バラ	2005 (平成 17) 年	キャンバス・油彩	額装	32.0×41.0	寄託
26	伊藤晴子	花と人形	1991 (平成 3) 年	キャンバス・油彩	額装	72.7×91.0	
27	伊藤晴子	夏の思い出	1998 (平成 10) 年	キャンバス・油彩	額装	130.3×162.0	
28	平松譲	火の山峠の朝	1990 (平成 2) 年	キャンバス・油彩	額装	130.7×162.0	
29	平松譲	鳥の切り通し	1998 (平成 10) 年	キャンバス・油彩	額装	130.7×162.0	
30	平松譲	三宅島追想	2001 (平成 13) 年	キャンバス・油彩	額装	130.7×162.0	
31	柳沢淑郎	白いバラソル	1992 (平成 4) 年	キャンバス・油彩	額装	116.8×91.3	
32	中山忠彦	椅子に倚る	1970 (昭和 45) 年頃	キャンバス・油彩	額装	53.5×45.5	
33	中山忠彦	優しき相貌Ⅱ-A	1984 (昭和 59) 年	紙・リトグラフ	額装	38.3×25.4	
34	中山忠彦	優しき相貌Ⅱ-B	1984 (昭和 59) 年	紙・リトグラフ	額装	40.0×27.8	
35	中山忠彦	優しき相貌Ⅱ-C	1984 (昭和 59) 年	紙・リトグラフ	額装	39.0×26.0	
36	中山忠彦	優しき相貌Ⅱ-D	1984 (昭和 59) 年	紙・リトグラフ	額装	40.3×27.5	
37	中山忠彦	優しき相貌Ⅱ-E	1984 (昭和 59) 年	紙・リトグラフ	額装	53.0×42.0	

(3) 野田弘志の絵画世界

38	野田弘志	ペガサスの翼 ロング・グローブ	1994 (平成 6) 年	紙・リトグラフ	額装	38.1×48.6	
39	野田弘志	ワイン	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	38.0×48.5	

40	野田弘志	1993. 3. 30	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	36.0×46.1	
41	野田弘志	眼の追憶—女	1987（昭和62）年	紙・リトグラフ	額装	28.5×32.8	
42	野田弘志	眼の追憶—貝	1987（昭和62）年	紙・リトグラフ	額装	28.2×32.2	
43	野田弘志	眼の追憶—薔薇	1987（昭和62）年	紙・リトグラフ	額装	25.0×30.5	
44	野田弘志	眼の追憶—牡丹	1987（昭和62）年	紙・リトグラフ	額装	28.5×32.2	
45	野田弘志	牡丹	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	49.4×60.3	
46	野田弘志	おんな	1979（昭和54）年	板・麻布・油彩	額装	53.2×45.7	
47	野田弘志	薔薇	1989（平成元）年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
48	野田弘志	牡丹	1978（昭和53）年	板・麻布・油彩	額装	3.0×65.0	
49	野田弘志	屈斜路湖・夏	1990（平成2）年	板・麻布・油彩	額装	65.2×53.2	
50	野田弘志	下蒲刈の海	1999（平成11）年	板・麻布・油彩	額装	23.0×72.2	
51	野田弘志	安芸灘大橋	2000（平成12）年	板・麻布・油彩	額装	43.2×76.11	
52	野田弘志	珪化木	1990（平成2）年	板・麻布・油彩	額装	65.0×53.0	
53	野田弘志	TOKIJIKU(非時)VI Lion	1992（平成4）年	キャンバス・油彩	額装	145.5×112.1	
54	野田弘志	TOKIJIKU(非時)VIII Goat	1992（平成4）年	キャンバス・油彩	額装	145.5×112.1	
55	野田弘志	TOKIJIKU(非時)IX 大和思考	1992（平成4）年	キャンバス・油彩	額装	193.9×112.1	
56	野田弘志	T H E 3	1998（平成10）年	キャンバス・油彩	額装	162.0×162.0	
57	野田弘志	TOKIJIKU(非時)X Skeleton	1992（平成4）年	キャンバス・油彩	額装	145.5×112.1	
58	野田弘志	TOKIJIKU(非時)XI Sphere	1993（平成5）年	板・麻布・油彩	額装	130.2×97.0	
59	野田弘志	TOKIJIKU(非時)XIII Dove	1993（平成5）年	キャンバス・油彩	額装	162.0×130.3	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業
（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開
（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展Ⅳ 新春を寿ぐ

会期 2019（平成31）年1月9日（水）～3月4日（月）
会場 蘭島閣美術館

関連行事

- ギャラリートーク
2019（平成31）年1月27日（日）、2月10日（日）
午前11時から／午後2時から（各日2回）

おもな関連記事、番組など

○「おでかけ案内板」『リビングひろしま』1月29日号、広島リビング新聞社

印刷物

- チラシA4判（両面刷り） 8,000部
- 出品目録A4判（両面刷り）

目的

本展では日本画を中心に、華やかな美人画や古くから神聖な霊峰として絵画の主題とされてきた富士山、梅や春に咲く花々などが描かれた新春を寿ぐにふさわしい作品を展示し、来館者に春の訪れを感じてもらうことを目的とした。他に南薫造や小林和作など広島にゆかりのある洋画家の描いた瀬戸内の風景も展示した。

展示内容

（1）新春を祝う華やかな日本画（美人画、梅、富士山）

美人画、富士山、梅を描いた作品を集め、新春を祝う内容の展示にした。美人画は上村松園を中心に、梶原緋佐子や島成園など関西で活躍した作家の作品と、鎗木清方門下の伊東深水や岩田専太郎らの作品を展示した。また、2階展示ホールからは現代に活躍する住本弥綺子らが描いた美人画も展示し、余白の使い方や絵具の厚みなどの違いを見てもらうことを目指した。富士山の作品は、富士山を通して日本の魂を描こうとした横山大観の「神洲乃正気」と「神国日本」の2点を展示した。梅の作品は小林古径、安田靉彦、前田青邨の作品を紹介した。同じ梅でも古径の梅の枝は、靉彦、青邨両名の梅よりも太く描かれ、靉彦の梅は枝が大きく曲がっている。また、青邨の梅の枝は躍動感のある迷いのない筆致で描かれているなど、枝や花の描き方に現れる作家ごとの個性の違いを見てもらうことを目的とした。

（2）院展、日展の作家が描いた富士山

奥村土牛や堅山南風などの院展、池田遙邨、川崎春彦ら日展の作家の描いた富士山を一堂に展示し、同じ富士山を対象としても色や形など作家によって描き方が違うことが理解できる展示を目指した。片岡球子や岩橋英遠は何枚も富士山を描いているが、その時々で違う描き方をしており、同一の作家でも捉え方が変わることを紹介した。また、2階展示室前に来館者にどの富士山の作品が印象に残ったかシールを貼って投票をしてもらうコーナーを設置した。

（3）広島ゆかりの洋画家が描いた瀬戸内の風景

南薫造が弟子の新延輝雄と蒲刈を訪れて描いた「串山のみかん畑」や広島ゆかりの洋画家である小林和作や岡崎勇



展示風景



展示風景

次らが描いた瀬戸内の風景の作品を展示した。

らうことを目的とした。

(4) 春に咲く花々

(木口詩織)

金島桂華や福田平八郎など、京都ゆかりの作家が描いた梅や桃の花、桜などを展示し、雅びな春の訪れを感じても

蘭島閣美術館 所蔵品展Ⅳ「新春を寿ぐ」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
(1) 新春を祝う華やかな日本画(美人画・梅・富士)							
1	梶原緋佐子	美人図	制作年不詳	紙本彩色	軸装	119.5×33.0	
2	梶原緋佐子	梅快窓	制作年不詳	絹本彩色	軸装	49.0×35.8	
3	上村松園	つれづれ	制作年不詳	絹本彩色	額装	40.4×42.2	
4	島成園	美人	制作年不詳	絹本彩色	額装	58.5×62.0	
5	伊藤小坡	青葉の頃	制作年不詳	絹本彩色	軸装	58.0×72.0	寄託
6	志村立美	河岸	制作年不詳	紙本彩色	額装	30.4×39.6	寄託
7	岩田専太郎	湯上がり	制作年不詳	紙本彩色	額装	50.5×57.5	
8	鏡木清方	冬ごもり	1955(昭和30)年	絹本彩色	額装	57.3×42.7	
9	伊東深水	晴日	制作年不詳	絹本彩色	額装	87.2×57.5	
10	伊東深水	酣春	1950(昭和25)年	絹本彩色	額装	50.5×57.4	
11	伊東深水	席入り	制作年不詳	紙本彩色	額装	37.0×44.5	寄託
12	横山大観	神国日本	1926-29(昭和元-4)年頃	絹本彩色	額装	73.0×74.0	
13	横山大観	神洲乃正気	1943(昭和18)年	紙本彩色	額装	59.5×73.5	
14	小林古径	紅梅	1941(昭和16)年	紙本彩色	額装	96.6×85.8	
15	安田靉彦	紅梅	制作年不詳	紙本彩色	額装	44.5×50.5	
16	前田青邨	紅梅	制作年不詳	紙本彩色	額装	41.0×57.8	
(2) 院展、日展の作家が描いた富士山							
17	片岡球子	富士	1989(平成元)年	紙本彩色	額装	44.5×59.7	
18	片岡球子	富士	1992(平成4)年	紙本彩色	額装	25.0×34.0	
19	堅山南風	茜	1975(昭和50)年頃	紙本彩色	額装	73.0×60.2	
20	奥村土牛	富士	制作年不詳	紙本彩色	額装	38.3×46.1	
21	岩橋英遠	山 金扇	1966(昭和41)年	紙本彩色	額装	180.5×150.0	
22	岩橋英遠	去来	1988(昭和63)年	紙本彩色	額装	80.3×116.7	
23	竹内邦夫	朝耀	制作年不詳	紙本彩色	額装	47.4×63.0	
24	池田逸邨	川奈の富士	1955(昭和30)年頃	紙本彩色	額装	41.2×53.4	
25	川崎春彦	瑞雲富士	1992(平成4)年	紙本彩色	額装	91.0×65.0	
26	中村宗弘	富士	制作年不詳	紙本彩色	額装	53.2×73.0	
27	岸野圭作	不二 NO.564	1992(平成4)年	紙本彩色	額装	80.3×116.7	
28	三輪良平	佳日	1991(平成3)年	紙本彩色	額装	150.8×95.9	
29	三輪良平	踊り子	制作年不詳	紙本彩色	額装	52.3×40.0	寄託
30	三輪良平	舞妓二人	制作年不詳	紙本彩色	額装	111.3×93.0	
31	小川雨虹	舞妓	制作年不詳	紙本彩色	額装	44.5×53.0	
32	小川雨虹	鏡獅子	制作年不詳	紙本彩色	額装	53.0×72.5	
33	橋本明治	麗	1970(昭和45)年	紙本彩色	額装	73.0×50.0	
34	青山巨幹	佳日	制作年不詳	絹本彩色	額装	119.5×91.6	
35	青山巨幹	桔梗	1994(平成6)年	絹本彩色	額装	45.5×38.0	
36	住本弥綺子	舞妓	1999(平成11)年	紙本彩色	額装	144.3×70.0	
(3) 広島ゆかりの洋画家が描いた瀬戸内の風景							
37	武永禎雄	ヒクベ島	1989(平成元)年	キャンバス・油彩	額装	45.5×52.9	
38	小林和作	尾道風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
39	南薫造	日の出	1946-48(昭和21-23)年頃	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

■ 目次

■ 沿革

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業
 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
 ■ その他の公開
 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

40	南薫造	串山のみかん畑	1948 (昭和 23) 年	キャンバス・油彩	額装	38.1×45.4	
41	新延輝雄	蜜柑の瀬戸	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	60.5×72.8	
42	岡崎勇次	瀬戸の夜明け	1989 (平成元) 年	キャンバス・油彩	額装	50.4×91.2	

(4) 春に咲く花々

43	濱田昇児	早春	1993 (平成 5) 年	紙本彩色	額装	112.0×162.1	
44	猪原大華	竹梅	1968 (昭和 43) 年	紙本彩色	額装	40.9×52.8	
45	金島桂華	桃花尾長鳥	制作年不詳	紙本彩色	額装	47.0×54.5	寄託
46	金島桂華	紅梅	制作年不詳	紙本彩色	額装	42.8×50.2	
47	堂本印象	春の小舟	制作年不詳	絹本彩色	額装	55.0×60.0	寄託
48	山本倉丘	紅梅に鳥	制作年不詳	紙本彩色	額装	40.4×52.6	寄託
49	福田平八郎	雪庭	1936 (昭和 11) 年	絹本彩色	額装	49.0×73.0	
50	福田平八郎	鯉 (春水)	1940 (昭和 15) 年	絹本彩色	額装	44.5×72.5	
51	福田平八郎	花の習作 (春日)	1962 (昭和 37) 年	紙本彩色	額装	48.8×53.0	
52	福田平八郎	春雨	1964 (昭和 39) 年	紙本彩色	額装	42.0×55.8	
53	小野竹喬	春日野	1930 (昭和 5) 年頃	絹本彩色	額装	170.0×170.0	
54	熊谷直彦	春秋花鳥図	制作年不詳	紙本彩色	六曲一双	154.9×354.3	

所蔵品展Ⅴ 黒による表現

会期 2019（平成31）年3月6日（水）～4月22日（月）
会場 蘭島閣美術館

関連行事

- ギャラリートーク
2019（平成31）年3月10日（日）午前11時から／午後2時から（各日2回）
- ワークショップ 日本の芸術 墨流し体験
2019（平成31）年3月20日（水）～3月31日（日）
午前10時から午後3時

おもな関連記事、番組など

- 「3月の行事」中国新聞、2019（平成31）年2月28日
- 「講演・講座」中国新聞、2019（平成31）年3月16日
- 「イベント情報」『TJHiroshima』4月号、株式会社アドプレックス
- 「情報クラブ」『週刊プレスネット』3月21日号、株式会社プレスネット
- 「市政だよりくれ」4月号、呉市

印刷物

- チラシA4判（両面刷り） 8,000部
- 出品目録A4判（両面刷り）

目的

黒色は、無彩色の一つで最も多く光を吸収する色と言われ、日本画で欠かせない画材である墨の色でもある。墨は濃淡の変化によって奥行きなどの空間表現や立体表現を可能にし、また和紙に描くと滲みが生じるなどさまざまな表現を可能にしている。本展では、こうした黒色によって生み出される表現に注目した。近代日本画の重鎮である竹内栖鳳は、躍動感のある筆致と墨の濃淡によつて的確に動物の姿を捉えている。その他にも、円山四条派、狩野派を学び徹底した自然観察を通し自然の姿を描いた川合玉堂の水墨画など、本展では伝統的な手法を基盤に、さまざまな表現の可能性を追究した作家たちの作品を展示し黒色が放つ魅力に迫った。

展示内容

（1）墨、アラカルト

本コーナーでは、墨による幅広い表現に着目した。江戸時代後期、大阪を拠点に活躍した森徹山とその弟子森寛齋による写実的で力強い筆致で描かれた作品や、京都画壇を代表する竹内栖鳳や橋本閑雪が描いた動物の描写からうかがえる、卓越した運筆による墨の表現を展覧した。墨の濃淡を活かし、雨を表現した川崎小虎の作品など墨という画材から生み出されるさまざまな表現の可能性を、時代を追って展示した。

（2）棟方志功の魅力

版画による黒の表現として、棟方志功の釈迦の10人の高弟を題材にした作品を展示。墨の黒さが際立ち力強くダイナミックな版画の世界を紹介した。

（3）広島作家による黒の表現

船田玉樹、丸木位里、其阿弥赫土、小林和作ら4人の広



展示風景



展示風景

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

■ 沿革
■ もくじ

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アワー

■ 利用案内

島にゆかりのある画家の作品を展示した。玉樹と位里は同時期に活躍し、ともに歷程美術協会に参加するなど共通点が多い。展示では、暗い画面の中から浮かび上がるように描かれた浄真寺九品仏の御堂や、黒を用い重厚な絵肌で水面に浮かぶ島を表現した玉樹の作品、さらに玉樹が憧れを抱いていた位里の作品を紹介。

其阿弥赫土の作品展示では、重厚感のある画面に中国の黄山を描いた大作を展示し、独自の墨の表現を紹介した。また、山口県出身で1934（昭和9）年から尾道市に移住し、以後尾道を拠点に全国を旅して日本の自然美を描いた小林

和作の花を主題にした小品を展示し、味わい深い墨の表現に着目した。

(4) さまざまな墨の表現—玉樹から現在の作家たち—

玉樹は、日本、東洋の絵画の本質を毛筆の線や墨の調子に求め、水墨を基調とした描写に円山四条派や狩野派の伝統と近代的な写実感覚を融合させ詩情豊かな風景画を制作した。本コーナーでは温雅な墨で親しみ深く描かれた玉樹の風景画を起点に、以後の世代がそれぞれさまざまな手段で墨を使用し描いた独自の絵画世界に着目した。

(山下裕子)

蘭島閣美術館 所蔵品展Ⅴ「黒による表現」出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
(1) 墨、アラカルト							
1	森徹山	狸獲鴨之図	制作年不詳	絹本墨画淡彩	軸装	110.1×50.8	
2	森寛斎	雨中漁船図	制作年不詳	絹本墨画淡彩	軸装	101.6×35.8	
3	森寛斎	春秋図	1872（明治5）年	紙本彩色	二曲一双	151.9×169.2	
4	田能村直入	夏景山水	制作年不詳	紙本墨画・墨書	軸装	㊤ 18.5×52.8 ㊦ 18.5×52.8	
5	村上華岳	虎の図	制作年不詳	紙本彩色	軸装	128.4×30.3	
6	橋本閑雪	ふくろう	1935（昭和10）年頃	絹本彩色	額装	49.0×58.2	
7	竹内栖鳳	雙鶏	1941（昭和16）年頃	紙本彩色	額装	70.3×82.0	
8	堂本印象	緑樹碧水	制作年不詳	紙本彩色	軸装	56.5×26.5	
9	富本憲吉	大和三風景（風炉先屏風）	制作年不詳	紙本墨画	二曲一隻	63.3×166.7	
10	川崎千虎	新羅三郎月下春笙図	制作年不詳	紙本彩色	額装	19.0×30.2	
11	川崎千虎	富岳図	制作年不詳	紙本彩色	額装	26.4×38.2	
12	川崎小虎	せきれい	制作年不詳	絹本彩色	軸装	30.5×36.5	
13	川崎小虎	早春	制作年不詳	紙本彩色	軸装	33.7×44.5	
14	川崎小虎	谷間の雨	1971（昭和46）年	紙本彩色	額装	90.4×74.5	
(2) 棟方志功の魅力							
15	棟方志功	文殊菩薩の柵	1948（昭和23）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
16	棟方志功	羅睺羅の柵	1939（昭和14）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
17	棟方志功	摩訶迦葉の柵	1939（昭和14）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
18	棟方志功	富楼那の柵	1939（昭和14）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
19	棟方志功	迦旃延の柵	1939（昭和14）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
20	棟方志功	阿那律の柵	1939（昭和14）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
21	棟方志功	舍利弗の柵	1939（昭和14）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
22	棟方志功	優婆離の柵	1939（昭和14）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
23	棟方志功	須菩提の柵	1939（昭和14）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
24	棟方志功	目犍連の柵	1939（昭和14）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
25	棟方志功	阿難陀の柵	1939（昭和14）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
26	棟方志功	普賢菩薩の柵	1948（昭和23）年	紙・木版	額装	94.5×30.3	
(3) 広島作家による黒の表現							
27	船田玉樹	九品仏幻想 春	1965（昭和40）年	紙本彩色	額装	130.0×160.0	
28	船田玉樹	九品仏幻想 夏	1965（昭和40）年	紙本彩色	額装	130.0×160.0	
29	船田玉樹	海景	1967（昭和42）年	紙本彩色	額装	45.5×53.1	
30	船田玉樹	猫瀬	1967（昭和42）年	紙本彩色	額装	46.0×53.2	
31	船田玉樹	岬	1967（昭和42）年	紙本彩色	額装	60.8×45.6	
32	船田玉樹	松	制作年不詳	紙本彩色	額装	86.5×111.5	

33	丸木位里	臥龍梅（夜明け）	1963（昭和38）年	紙本彩色	額装	69.5×69.5	
34	其阿弥赫土	雲上の嶽	2010-2011（平成22-23）年	紙本彩色	額装	182.7×549.6	
35	小林和作	ナンテン	制作年不詳	紙・水彩	額装	31.0×59.5	
36	小林和作	椿	制作年不詳	紙・水彩	額装	16.8×29.9	
37	小林和作	椿	制作年不詳	紙・水彩	額装	24.0×21.1	
38	小林和作	梅	制作年不詳	紙・水彩	額装	各 38.9×25.5	
39	小林和作	桜	制作年不詳	紙・水彩	額装	29.5×33.7	
40	小林和作	ぼたん	制作年不詳	紙・水彩	額装	26.6×17.8	
41	小林和作	野バラ	制作年不詳	紙・水彩	額装	69.3×47.0	
42	小林和作	野バラ	制作年不詳	紙・水彩	額装	59.5×74.4	

(4) さまざまな墨の表現—玉堂から現在の作家たち—

43	土屋礼一	静日	1992（平成4）年	紙本彩色	額装	65.5×100.0	
44	下保昭	日本海	1974（昭和49）年	紙本彩色	額装	181.5×181.5	
45	下保昭	長江烟雨	1987（昭和62）年	紙本彩色	額装	118.9×83.6	
46	下保昭	月（月明）	1993（平成5）年	紙本彩色	額装	65.5×45.7	
47	下保昭	雪（雪岳）	1993（平成5）年	紙本彩色	額装	65.5×45.7	
48	下保昭	花（花露）	1993（平成5）年	紙本彩色	額装	65.5×45.7	
49	加山又造	牡丹	1969（昭和44）年	紙本彩色	額装	63.7×90.1	
50	川合玉堂	雨中八々鳥	制作年不詳	紙本墨画	額装	24.0×15.0	
51	川合玉堂	海辺の社	制作年不詳	紙本墨画	額装	24.0×15.0	
52	川合玉堂	樹林	制作年不詳	紙本淡彩	額装	24.0×15.0	
53	川合玉堂	瀬戸内	制作年不詳	紙本墨画	額装	24.0×15.0	
54	川合玉堂	冬の柳	制作年不詳	紙本墨画	額装	4.0×15.0	
55	川合玉堂	松山遠嶺	1917-18（大正6-7）年頃	絹本墨彩	額装	57.0×148.0	
56	児玉希望	夜梅	1960（昭和35）年頃	絹本彩色	額装	42.7×73.0	
57	那波多目功一	春の宵	1993（平成5）年	紙本彩色	額装	183.7×217.7	
58	小倉遊亀	椿	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	45.5×60.5	
59	小倉遊亀	三宝柑と九谷皿	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	45.5×60.5	
60	小倉遊亀	好日	制作年不詳	紙・木版	額装	60.5×50.0	
61	小倉遊亀	青梅と鉢	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	45.5×60.5	
62	小倉遊亀	花菖蒲	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	45.5×60.5	

作家名のうち、土屋礼一の漢字表記は礼一とした。本名は禮一。

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展 | 寺内萬治郎と同時代の作家たち

会期 2018 (平成30) 年4月18日 (水)～6月25日 (月)
会場 蘭島閣美術館別館

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」5月号、呉市 ○「市政だよりくれ」6月号、呉市

印刷物

チラシA4判 (片面刷り) 3,000部

目的

蘭島閣美術館別館は寺内萬治郎の代表的な油彩画、素描などを中心とした所蔵品を展示公開する。本展では、寺内萬治郎の青年時代から晩年までの間、さまざまな形で交流のあった同時代の作家の作品をともに紹介した。東京美術学校時代の師であった黒田清輝、藤島武二の作品を筆頭に、後半は、寺内と同時代の画家たちの作品を展示した。それぞれに日本近代洋画壇に新しい境地を開いた、その多彩な画風を展覧した。寺内が、師弟関係や幅広い交友関係を持つ中で成長し、また寺内が生きた日本洋画界の多様な作家を知る機会となることを目指した。

展示内容

(1) 寺内萬治郎の代表作

寺内萬治郎の晩年の代表作「髪」の常時公開を希望する声が多いことから、本コーナーでは寺内の代表作のうち、大作3点を通年公開している。裸婦の寺内と称された作家の最も充実した作品を公開することにより、寺内の作品の魅力をダイレクトに理解できることをねらった。

(2) 帝展を彩る明治画壇の先生たち

寺内萬治郎が学んだ東京美術学校西洋画科の講師陣だった黒田清輝、岡田三郎助、藤島武二らの作品を展示した。西欧留学の経験がある明治画壇の重鎮たちの作品を通し、寺内が青年時代に学んだ洋画教育の息吹を感じ取れることを目指した。

(3) 寺内萬治郎の仲間たち

大正時代から昭和初期にかけて、寺内が青年時代以降に交流を持ったさまざまな画家の作品を展示した。西欧の洋画の流行を感じ取りながら、独自の洋画表現の確立を目指していく各作家の個性、その希求の方向を理解できる内容を目指した。

(山崎環)



展示風景

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業 市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

蘭島閣美術館別館 所蔵品展「寺内萬治郎と同時代の作家たち」出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
(1) 寺内萬治郎の代表作							
1	寺内萬治郎	裸婦	1951(昭和26)年	キャンバス・油彩	額装	72.7×91.0	寄託
2	寺内萬治郎	横臥裸婦	1958(昭和33)年	キャンバス・油彩	額装	96.0×144.0	寄託
3	寺内萬治郎	裸婦	1964(昭和39)年	キャンバス・油彩	額装	90.6×64.9	寄託
(2) 帝展を彩る明治画壇の先生たち							
4	黒田清輝	伊豆大島遠望	1914(大正3)年	板・油彩	額装	23.8×33.0	
5	藤島武二	彩蓮	制作年不詳	紙・鉛筆・パステル	額装	26.4×21.3	寄託
6	藤島武二	台湾風景	1933(昭和8)年	紙・パステル	額装	18.5×25.2	
(3) 寺内萬治郎の仲間たち							
7	岸田劉生	童女図(麗子像)	1929(昭和4)年	紙本墨画淡彩	額装	69.2×49.3	
8	小糸源太郎	パンジー	制作年不詳	板・油彩	額装	19.1×26.9	
9	鈴木信太郎	風景	1959(昭和34)年	紙・油彩	額装	34.0×43.0	
10	辻永	バリ郊外にて	1920(大正9)年	キャンバス・油彩	額装	48.5×59.5	
11	中沢弘光	海岸風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	70.0×113.5	
12	脇田和	風媒花	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.9×37.9	
13	藤本東一良	網走原生花園	制作年不詳	紙・パステル	額装	20.0×27.0	
14	南薫造	串山のみかん畑	1948(昭和23)年	キャンバス・油彩	額装	8.1×45.4	
15	石井柏亭	水辺	1944(昭和19)年	キャンバス・油彩	額装	62.7×92.2	
16	須田剋太	裸婦	制作年不詳	紙・水彩・パステル	額装	24.5×59.5	
17	渡邊武夫	田園待春	1970(昭和45)年	キャンバス・油彩	額装	91.0×72.7	
18	安井曾太郎	人物 A-12	制作年不詳	紙・鉛筆	額装	25.0×22.0	
19	安井曾太郎	人物 A-6	制作年不詳	紙・鉛筆	額装	25.0×22.0	

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■その他の公開(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営データ

■利用案内

所蔵品展Ⅱ 寺内萬治郎の油彩画を中心に

会期 2018(平成30)年6月27日(水)～10月22日(月)
会場 蘭島閣美術館別館

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」7月号、呉市 ○「市政だよりくれ」
8月号、呉市 ○「市政だよりくれ」9月号、呉市 ○「市
政だよりくれ」10月号、呉市

印刷物

チラシA4判(片面刷り)3,000部

目的

蘭島閣美術館別館は寺内萬治郎の代表的な油彩画、素描
などを中心とした所蔵品を展示公開する。本展では、所蔵
品の中から寺内の油彩画を年代に沿って展示した。油彩技
法を東京美術学校西洋画科で学んだ寺内の初期作品に見ら
れる古典的な油彩のテクニック、また、テーマを生涯裸婦
像とした寺内の絵画的な成長を見られるよう年代ごとの特
長などを理解できる内容とした。

展示内容

(1) 1930年代

西洋画の古典技法である明暗表現や、画題としての風景、
人物、静物などを明快に描き出す寺内の青年時代の画力
を見出す内容展示とした。習作的な意味あいを持つ初期の
小品に現れる、明治美術教育の正統的な技法を習得した
寺内の技量を感じ取る内容とした。

(2) 1940年代

昭和前期、戦時下へ突入する時代の寺内の裸婦像をおも
に展示した。西洋文化や自由な表現が制限されていく時
代の空気の中で寺内が模索した女性表現に焦点を当てた。

(3) 1950年代

戦争終了とともにアトリエ焼失、作品焼失という体験を
経て寺内が戦後新たに描いた裸婦像を中心に取り上げた。

(4) 1960年代

晩年の作品「髪」を中心として、大作を展示した。背景
描写を省き、物語性や情緒を寄せつけない骨太の日本
女性の美を追求し、完成させた画業を体感できる内容
とした。

(山崎環)



展示風景

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業 市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

蘭島閣美術館別館 所蔵品展Ⅱ 「寺内萬治郎の油彩画を中心に」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
(1) 1930年代							
1	寺内萬治郎	裸婦立像	1933(昭和8)年	キャンバス・油彩	額装	46.0×29.3	
2	寺内萬治郎	風景	1935(昭和10)年	ボード・油彩	額装	34.0×26.8	寄託
3	寺内萬治郎	紅白バラ	1924(大正13)年	板・油彩	額装	33.4×23.6	寄託
(2) 1940年代							
4	寺内萬治郎	裸婦	1937(昭和12)年	キャンバス・油彩	額装	73.0×61.2	
5	寺内萬治郎	金の首飾り	1937(昭和12)年	キャンバス・油彩	額装	45.3×38.2	
6	寺内萬治郎	裸婦	1939(昭和14)年	キャンバス・油彩	額装	47.6×58.1	
7	寺内萬治郎	裸婦	1935-40(昭和10-15)年	キャンバス・油彩	額装	33.6×24.3	
(3) 1950年代							
8	寺内萬治郎	裸婦	1950(昭和25)年	キャンバス・油彩	額装	40.5×32.0	
9	寺内萬治郎	裸婦	1951(昭和26)年	キャンバス・油彩	額装	72.7×91.0	
10	寺内萬治郎	背を見せたる裸婦	1954(昭和29)年	キャンバス・油彩	額装	33.3×24.5	
11	寺内萬治郎	横臥裸婦	1958(昭和33)年	キャンバス・油彩	額装	96.0×144.0	寄託
(4) 1960年代							
12	寺内萬治郎	髪	1961(昭和36)年	キャンバス・油彩	額装	73.0×116.5	寄託
13	寺内萬治郎	裸婦	1964(昭和39)年	キャンバス・油彩	額装	90.6×64.9	寄託
14	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・リトグラフ	額装	50.5×37.0	
15	寺内萬治郎	自画像	1950(昭和25)年	キャンバス・油彩	額装	43.7×36.2	寄託

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■その他の公開(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営データ

■利用案内

所蔵品展Ⅲ 寺内萬治郎の歩み（1）

■ 目次

■ 沿革

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業

（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）

■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業 市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

会期 2018（平成30）年10月24日（水）～2019（平成31）年1月14日（月）

会場 蘭島閣美術館別館

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」11月号、呉市 ○「市政だよりくれ」12月号、呉市 ○「市政だよりくれ」1月号、呉市

印刷物

●チラシ A4判（片面刷り） 3,000部

目的

蘭島閣美術館別館は寺内萬治郎の代表的な油彩画、素描などを中心とした所蔵品を展示公開する。本展は2回にわけて、寺内の画業を年代別に、油彩、素描、童画などを含む所蔵品のほぼすべてを公開する企画としておこなった。

展示内容

（1）寺内萬治郎の代表作

寺内萬治郎の晩年の代表作「髪」の常時公開を希望する声が多いことから、常設展では寺内の代表作のうち、大作3点を通年公開した。裸婦の寺内と称された作家の最も充実した作品を公開することにより、寺内の作品の魅力をダイレクトに理解できることをねらった。

（2）若い時代・テーマの模索

西洋画の古典技法である明暗表現や、画題としての風景、人物、静物などを明快に描き出す寺内の青年時代を展示し、明治美術教育の正統的な技法を習得した寺内の技量を感じ取る内容とした。

（3）大正の雑誌文化の中で

東京在住時代、大正の雑誌創刊ブームの中で新しく登場した児童向け雑誌の挿絵画家として活躍した時代の、寺内の手がけた童画を紹介した。童画の仕事の中で活かされた寺内の画家としての特質などが理解できるよう展示した。

（4）制作の確立・埼玉のアトリエ時代

昭和初期から戦争終了までの、寺内が最も充実した画業を重ねた埼玉のアトリエ時代の作品を展示した。

（5）寺内萬治郎の小品

季節の小品として寺内を描いた水彩による静物作品を展示し、身近な題材を描く寺内の、裸婦とは違ったセンスを垣間見る小コーナーとした。

（山崎環）



展示風景

蘭島閣美術館別館 所蔵品展Ⅲ 「寺内萬治郎の歩み(1)」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
(1) 寺内萬治郎の代表作							
1	寺内萬治郎	横臥裸婦	1958 (昭和 33) 年	キャンバス・油彩	額装	96.0×144.0	寄託
2	寺内萬治郎	髪	1961 (昭和 36) 年	キャンバス・油彩	額装	73.0×116.5	寄託
3	寺内萬治郎	裸婦	1964 (昭和 39) 年	キャンバス・油彩	額装	90.6×64.9	寄託
(2) 若い時代・テーマの模索							
4	寺内萬治郎	紅白バラ	1924 (大正 13) 年	板・油彩	額装	33.4×23.6	寄託
5	寺内萬治郎	裸婦立像	1933 (昭和 8) 年	キャンバス・油彩	額装	46.0×29.3	
6	寺内萬治郎	風景	1935 (昭和 10) 年	ポード・油彩	額装	34.0×26.8	寄託
7	寺内萬治郎	信子像	1936 (昭和 11) 年	キャンバス・油彩	額装	53.2×45.7	
(3) 大正の雑誌文化の中で							
8	寺内萬治郎	挿絵「くたびれこま」	1924 (大正 13) 年	紙・木版	額装	18.0×11.6	寄託
9	寺内萬治郎	挿絵「赤い櫻んぼ」	1924 (大正 13) 年	紙・木版	額装	19.1×11.6	寄託
10	寺内萬治郎	挿絵「沙の数」	1924 (大正 13) 年	紙・木版	額装	18.0×11.6	寄託
11	寺内萬治郎	挿絵「和歌の浦」	1924 (大正 13) 年	紙・木版	額装	18.0×11.6	寄託
12	寺内萬治郎	挿絵「オチャノジカン」	1932 (昭和 7) 年	印刷物	額装	25.2×31.9	寄託
13	寺内萬治郎	挿絵「トコヤサンノオダウグ」	1932 (昭和 7) 年	印刷物	額装	25.3×37.5	寄託
14	寺内萬治郎	挿絵「ハチノダイクサンウチツクリ」	1933 (昭和 8) 年	印刷物	額装	25.3×37.5	寄託
(4) 制作の確立・埼玉のアトリエ時代							
15	寺内萬治郎	裸婦	1935-40 (昭和 10-15) 年	キャンバス・油彩	額装	33.6×24.3	
16	寺内萬治郎	裸婦	1939 (昭和 14) 年	キャンバス・油彩	額装	47.6×58.1	
17	寺内萬治郎	金の首飾り	1937 (昭和 12) 年	キャンバス・油彩	額装	45.3×38.2	
18	寺内萬治郎	裸婦	1937 (昭和 12) 年	キャンバス・油彩	額装	73.0×61.2	
(5) 寺内萬治郎の小品							
19	寺内萬治郎	茄子	制作年不詳	紙・水彩	額装	14.5×48.0	
20	寺内萬治郎	柿の枝	制作年不詳	紙・水彩	額装	27.0×24.0	
21	寺内萬治郎	柿	制作年不詳	紙・水彩	額装	27.0×24.0	
22	寺内萬治郎	桃と蟬	制作年不詳	紙・水彩	額装	27.0×24.0	
23	寺内萬治郎	柚と松茸	制作年不詳	紙・水彩	額装	27.0×24.0	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展Ⅳ 寺内萬治郎の歩み（2）

会期 2019（平成31）年1月16日（水）～5月13日（月）
会場 蘭島閣美術館別館

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」2月号、呉市 ○「市政だよりくれ」3月号、呉市

印刷物

●チラシA4判（片面刷り）3,000部

目的

蘭島閣美術館別館は寺内萬治郎の代表的な油彩画、素描などを中心とした所蔵品を展示公開する。本展は2回にわけて、寺内の画業を年代別に、油彩、素描、童画などを含む所蔵品のほぼすべてを公開する企画としておこなった。

展示内容

（1）寺内萬治郎の代表作

寺内萬治郎の晩年の代表作「髪」の常時公開を希望する声が多いことから、常設展では寺内の代表作のうち、大作3点を通年公開した。裸婦の寺内と称された作家の最も充実した作品を公開することにより、寺内の作品の魅力をダイレクトに理解できることをねらった。

（2）昭和モダンの旗手

背景描写を極力省いた画面構成の寺内作品の中でも、昭和初期頃の作品には単純なモチーフや女性のヘアスタイルなどに寺内ならではのモダンさ、女性風俗への細やかな視点が感じられる。本コーナーでは、寺内が持つ現代的な風俗性の魅力に焦点を当てた。

（3）作品焼失・新しい時代へ

終戦と同時に埼玉のアトリエを失った寺内が戦後新たに描いた作品を中心に展示した。背景が完全に省かれ、黒、赤、といった重い原色使いの多用が見られる後期作品への展開を明示した。

（4）素描

寺内がアトリエに残した裸婦素描を展示した。生涯、モデルを実際に立てて絵を制作した寺内にとっての習作で、クロッキーである。本画に至る画家の制作過程を知る資料として展示した。

（山崎環）



展示風景

蘭島閣美術館別館 所蔵品展Ⅳ 「寺内萬治郎の歩み(2)」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
(1) 寺内萬治郎の代表作							
1	寺内萬治郎	横臥裸婦	1958(昭和33)年	キャンバス・油彩	額装	96.0×144.0	寄託
2	寺内萬治郎	髪	1961(昭和36)年	キャンバス・油彩	額装	73.0×116.5	寄託
3	寺内萬治郎	裸婦	1964(昭和39)年	キャンバス・油彩	額装	90.6×64.9	寄託
(2) 昭和モダンの旗手							
4	寺内萬治郎	裸婦	1937(昭和12)年	キャンバス・油彩	額装	73.0×61.2	
5	寺内萬治郎	金の首飾り	1937(昭和12)年	キャンバス・油彩	額装	45.3×38.2	
6	寺内萬治郎	裸婦	1939(昭和14)年	キャンバス・油彩	額装	47.6×58.1	
(3) 作品焼失・新しい時代へ							
7	寺内萬治郎	自画像	1950(昭和25)年	キャンバス・油彩	額装	43.7×36.2	寄託
8	寺内萬治郎	裸婦	1935-40(昭和10-15)年	キャンバス・油彩	額装	33.6×24.3	
9	寺内萬治郎	裸婦	1950(昭和25)年	キャンバス・油彩	額装	40.5×32.0	寄託
10	寺内萬治郎	裸婦	1951(昭和26)年	キャンバス・油彩	額装	72.7×91.0	
11	寺内萬治郎	裸婦	1960(昭和35)年	キャンバス・油彩	額装	53.2×45.5	
(4) 素描							
12	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・インク	額装	31.3×26.8	
13	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・インク	額装	19.0×31.2	
14	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・インク	額装	19.5×31.0	
15	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・鉛筆	額装	24.7×31.2	
16	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・鉛筆	額装	24.5×30.0	
17	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・インク	額装	24.3×30.0	
18	寺内萬治郎	裸婦	制作年不詳	紙・インク	額装	17.6×29.8	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展 | マチエールの魅力—須田国太郎と近代日本の巨匠たち—

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アワー

■ 利用案内

会期 2018（平成30）年4月11日（水）～6月11日（月）
会場 三之瀬御本陣芸術文化館

関連行事

- ワークショップ「マチエールを体験！～墨流しでおりを作ろう～」
2018（平成30）年4月11日（水）～6月11日（月）
午前10時から午後4時

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」5月号、呉市 ○「市政だよりくれ」6月号、呉市 ○「海陽彩都」No.64 呉地方拠点都市地域推進協議会

印刷物

- チラシ A4判（両面刷り） 6,500部
- 出品目録 A4判（片面刷り）

目的

作品の印象を大きく左右するマチエールの魅力に焦点を当てた展覧会を開催した。

第1部では、須田国太郎を中心に安井曾太郎、梅原龍三郎、林武、里見勝蔵、三岸節子など近代に活躍した13名の洋画家の作品を通して、洋画に見るマチエールの特色を紹介。

第2部では横山大観や片岡球子など5名の日本画家の作品を通して日本画に見るマチエールの特色を紹介。洋画と日本画という異なる画材によるマチエールの相違を比較展示でわかりやすくするため、2部構成とした。

盛り上げ、削り、引っ掻き、拭き取り、蒔くなどのさまざまな種類のマチエールを駆使した作品を展示した。絵具や支持体の特徴を生かし、画材を巧みに使用して生み出された画家たちのマチエールから、印刷物や映像とは異なる、実際に目にしなければ感じるこのできない絵画の魅力を紹介した。

展示内容

(1) 洋画に見るマチエール

須田国太郎を中心に、林武、里見勝蔵、三岸節子など13名の洋画家の作品を通して、洋画によるマチエールの種類や魅力を紹介。油絵具の特徴である重量感で、筆やペインティングナイフを巧みに使用した盛り上げや引っ掻きなど抑揚感のあるマチエール表現の作品を展示。

(2) 日本画に見るマチエール

横山大観、奥村土牛など5名の日本画家の作品を通して、和紙や絹、岩絵具や膠（にかわ）といった伝統的な画材を使って描かれた日本画によるマチエールの種類や魅力を紹介。絹の裏側から金箔を施すことで、表画面の背景に柔らかな光を浮かび上らせる効果をねらった横山大観「神国日本」や、プラチナを細かく粉状にしたものを少量の膠で練り上げ絵具にし、背景に装飾を施した片岡球子の「富士」など画題をきらびやかに演出した作品を紹介。

（土井基子／湯浅ひろみ）



展示風景

三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅰ 「マチエールの魅力ー須田国太郎と近代日本の巨匠たちー」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
-----	-----	-----	-----	------	----	------------	----

(1) 洋画にみるマチエール

1	須田国太郎	モヘンテ	1922(大正11)年	キャンバス・油彩	額装	66.6×81.4	
2	須田国太郎	牛	1934(昭和9)年	キャンバス・油彩	額装	65.0×80.0	
3	須田国太郎	雨後(水間村)	1935(昭和10)年	キャンバス・油彩	額装	65.2×80.3	寄託
4	須田国太郎	月瀬平	1949(昭和24)年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
5	長谷川利行	浅草六区	1935(昭和10)年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
6	小林和作	海	1955(昭和30)年	キャンバス・油彩	額装	51.4×99.8	
7	林武	風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	81.0×73.6	
8	里見勝蔵	イビサ風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	88.8×115.8	
9	鳥海青児	アルゼリア風景	1930(昭和5)年	キャンバス・油彩	額装	65.2×91.1	
10	三岸節子	アルスの広場への道	1977(昭和52)年	キャンバス・油彩	額装	73.0×92.0	
11	南薫造	冬晴	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.5×60.8	
12	須田国太郎	富士遠望	1943-44(昭和18-19)年	キャンバス・油彩	額装	45.0×52.6	
13	萬鉄五郎	富士	1926(大正15)年	キャンバス・油彩	額装	33.5×45.8	
14	須田国太郎	裸婦習作	1925-34(大正14-昭和9)年	キャンバス・油彩	額装	90.3×60.2	
15	須田国太郎	裸婦	1934(昭和9)年	キャンバス・油彩	額装	90.4×60.6	
16	長谷川利行	裸婦	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	59.8×43.0	寄託
17	海老原喜之介	初夏快走	1967(昭和42)年	キャンバス・油彩	額装	16.0×22.9	
18	熊谷守一	くしけづる女	1954(昭和29)年	板・油彩	額装	33.0×24.0	
19	須田国太郎	黄豹	1944(昭和19)年	キャンバス・油彩	額装	41.0×53.0	
20	須田国太郎	溪流の鷺	1942(昭和17)年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
21	須田国太郎	ざくろ	1940(昭和15)年	キャンバス・油彩	額装	24.3×33.4	
22	須田国太郎	静物(蔬菜)	1940(昭和15)年	キャンバス・油彩	額装	52.8×45.4	
23	須田国太郎	雑草	1940(昭和15)年	キャンバス・油彩	額装	65.0×91.0	
24	安井曾太郎	雉子	1933(昭和8)年	キャンバス・油彩	額装	39.5×47.5	
25	梅原龍三郎	薔薇図	1971(昭和46)年	ボード・油彩	額装	41.3×31.9	
26	中川一政	マジオリカの壺と椿	1980(昭和55)年	紙・グワッシュ	額装	46.0×34.0	

(2) 日本画にみるマチエール

27	小倉遊亀	紅梅と白椿	1980(昭和55)年	紙本彩色	額装	38.3×65.0	
28	片岡球子	富士	1989(平成元)年	紙本彩色	額装	44.5×59.7	
29	横山大観	神国日本	1926-29(昭和元-4)年頃	絹本彩色	額装	73.0×74.0	
30	奥村土牛	富士	制作年不詳	紙本彩色	額装	38.3×46.1	
31	松本哲男	富士	1992(平成4)年	紙本彩色	額装	65.5×91.1	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ その他の公開
(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)
■ 展示公開事業
(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)

■ 普及事業
市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展Ⅱ 洋画家が描いた水墨画 須田国太郎・岸田劉生・鬮光他
日本画にみる技と表現

会期 2018（平成30）年6月13日（水）～8月6日（月）
会場 三之瀬御本陣芸術文化館

関連行事

●ワークショップ

「紙すき体験！～手作りはがきを作ろう～」

2018（平成30）年6月13日（水）～8月6日（月）
午前10時から午後3時

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」7月号、呉市 ○「市政だよりくれ」
8月号、呉市 ○「海陽彩都」No.64 呉地方拠点都市地域
推進協議会

印刷物

- チラシ A4判（両面刷り） 6,500部
- 出品目録 A4判（片面刷り）

目的

第1部では、「洋画家が描いた水墨画 須田国太郎・岸田劉生・鬮光他」と題して須田国太郎を始め、岸田劉生、鬮光、森田恒友、萬鉄五郎、中川一政といった近代日本で活躍した洋画家たちが描いた水墨画を紹介した。彼らが新たな自己の絵画世界を目指す上で、日本画も試みて、その魅力も感じて積極的に日本画の表現を学んできたことに注目した。

第2部では「日本画にみる技と表現」と題し、伝統的な日本画の表現方法を受け継いで描かれた近現代日本画の作品を展示。

第1部、第2部ともに画材の資料展示などもおこない、油彩画と日本画の画材や表現方法の違いを紹介した。

展示内容

(1) 洋画家が描いた水墨画 須田国太郎・岸田劉生・鬮光他

日本近代に生きた洋画家たちは、西欧の絵画技法を学び、いかに西洋的なものの見方、捉え方、思考や精神を理解し、それに迫った表現を自分のものにするかということに切実に向き合っていた。須田国太郎は自著『近代絵画とレアリスム』で、当時の日本の洋画界がほとんどフランス志向であったことへの批判から「東洋西洋と違った方向にむいて絵が発達した」と記し、この二つを統合することによって新しいものを生み出せるのではないかという思いに至った。そして水墨画の余白に、東西の絵画表現の違いがあると考え、「花と鳥」「瑞鳥」「溪流の鷺」といった、余白の美や構図など水墨画に見る日本の美意識の理解なしでは生まれなかった作品を誕生させた。こうした日本の美意識や感性と西洋画の技法や見方と融合することを目指した7名、森田恒友、萬鉄五郎、須田国太郎、岸田劉生、中川一政、鬮光、香月泰男らの作品を紹介。

(2) 日本画にみる技と表現

伝統的な日本画の表現方法を受け継いで描かれた近現代日本画の作品を展示。小杉放庵、鑄木清方、安田鞞彦、前田青邨、丸木位里、小松均、船田玉樹、山中雪人の8名11点の作品を紹介。
(土井基子／湯浅ひろみ)



展示風景



展示風景

目次
沿革

事業カレンダー

展示公開事業（特別展示・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース）
その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

普及事業 市民サービス・財団事業

運営アワー

利用案内

三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅱ 「洋画家が描いた水墨画 須田国太郎・岸田劉生・霰光他」「日本画にみる技と表現」 出品リスト *無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
-----	-----	-----	-----	------	----	------------	----

(1) 洋画家が描いた水墨画 須田国太郎・岸田劉生・霰光他

1	須田国太郎	猛禽	1946(昭和21)年	紙本墨画淡彩	軸装	90.5×33.6	
2	須田国太郎	鷺	1948(昭和23)年	紙・水彩	額装	38.5×50.7	
3	須田国太郎	樹にとまった鷺	制作年不詳	紙本墨画淡彩	額装	16.3×52.0	
4	須田国太郎	馬	1944(昭和19)年頃	紙本墨画	額装	27.0×24.0	
5	須田国太郎	雉	制作年不詳	紙・水彩	額装	23.3×27.2	
6	須田国太郎	鷺	1948(昭和23)年	紙・水彩	額装	21.0×60.4	
7	須田国太郎	尾道風景	制作年不詳	紙本墨画	額装	31.7×42.7	
8	須田国太郎	巖島	1954(昭和29)年	紙・水彩	額装	44.2×61.8	
9	岸田劉生	童女図(麗子像)	1929(昭和4)年	紙本墨画淡彩	額装	69.2×49.3	
10	霰光	キリスト(赤)	1932(昭和7)年	紙・グワッシュ・墨	額装	35.8×24.9	
11	霰光	鳥	1938(昭和13)年	紙・墨	額装	25.0×54.6	
12	森田恒友	野菜帖	1933(昭和8)年	紙・水彩	額装	19.4×26.2	
13	萬鉄五郎	対話	1915(大正4)年	紙・墨	額装	69.0×47.8	
14	香月泰男	トマト	制作年不詳	紙・墨・水彩・コンテ	額装	52.4×31.7	
15	中川一政	魚	制作年不詳	紙本彩色	額装	52.9×67.7	
16	須田国太郎	溪流の鷺	1942(昭和17)年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
17	須田国太郎	花と鳥	1941-44(昭和16-19)年	キャンバス・油彩	額装	33.4×24.3	
18	須田国太郎	瑞鳥	1940(昭和15)年頃	キャンバス・油彩	額装	31.7×48.8	
19	須田国太郎	黒つぐみ	1942(昭和17)年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
20	須田国太郎	魚	1947-48(昭和22-23)年	キャンバス・油彩	額装	32.3×41.2	
21	須田国太郎	静物(蔬菜)	1940(昭和15)年	キャンバス・油彩	額装	52.8×45.4	
22	須田国太郎	ざくろ	1940(昭和15)年	キャンバス・油彩	額装	24.3×33.4	

(2) 日本画にみる技と表現

23	籾木清方	七夕	制作年不詳	紙本彩色	軸装	119.3×30.3	
24	小杉放庵	舌切雀	制作年不詳	紙本彩色	額装	38.5×40.3	寄託
25	安田靉彦	紅梅図	制作年不詳	紙本彩色	額装	20.0×17.3	寄託
26	安田靉彦	布都御魂	制作年不詳	絹本彩色	額装	40.3×51.5	
27	安田靉彦	女楽偶人	1959(昭和34)年	紙本彩色	額装	61.0×47.5	
28	前田青邨	立葵	1951-52(昭和26-27)年頃	紙本彩色	額装	50.4×61.0	
29	前田青邨	菊	制作年不詳	紙本彩色	額装	26.2×23.4	寄託
30	丸木位里	臥龍梅(夜明け)	1963(昭和38)年	紙本彩色	額装	69.5×69.5	
31	船田玉樹	松	1967(昭和42)年	紙本彩色	六曲一隻	187.0×367.0	
32	小松均	岩山図	1973(昭和48)年	紙本彩色	額装	96.8×61.7	
33	山中雪人	仔牛を担う青年 ギリシャ	制作年不詳	紙本彩色	額装	33.3×24.3	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展Ⅲ 須田国太郎名品コレクション 薔薇*バラ*ばらのマンダラ—須田国太郎から野田弘志まで—

会期 2018（平成30）年8月8日（水）～9月24日（月）
会場 三之瀬御本陣芸術文化館

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」9月号、呉市 ○「くれえばん」9月号、株式会社クレ・マスメディア・スタジオ ○「海陽彩都」No.64 呉地方拠点都市地域推進協議会

印刷物

- チラシ A4判（両面刷り） 6,500部
- 出品目録 A4判（片面刷り）

目的

第1部では、当財団の所蔵作品から須田国太郎の21点の名品を紹介。安芸や備後地方へもたびたび写生旅行に訪れ、瀬戸内地方とも大変なじみの深い画家であった須田国太郎の作品を中心に収集に努め、現在須田国太郎の油彩画24点、水墨、水彩、素描など約50点近くを収蔵している。

その中から画壇デビューを果たした初個展に出品された「花山天文台遠望」「モンテ」を始め、よく動物園に写生に出かけた須田が手がけた動物の作品や須田の住んだ京都近郊の風景画などを紹介した。

第2部では、「薔薇*バラ*ばらのマンダラ—須田国太郎から野田弘志まで」と題して、須田が好んで描いた薔薇に焦点を当て、その作品を紹介した。また、明治、大正、昭和、平成と活躍した近代から現代の洋画家の描いた薔薇の作品8点と比較展示をおこなった。

展示内容

（1）須田国太郎名品コレクション

大学では美術史を専攻し、おもに学者としての活動が中心であった須田国太郎は、1932（昭和7）年41歳の時の初個展を機に、独立美術協会に迎えられ、遅咲きの画壇デビューを果たした。

本コーナーでは、画壇デビュー前後の40代から独立美術協会での中心的な存在となっていた60代までの作品を通してその画業を辿った。画家として転身を遂げた初個展に出品された「花山天文台遠望」を始め、全国巡回展に出品した「雨後（水間村）」「黄豹」など、風景、静物、動物を描いた須田の名品を一堂に展示し、あわせて水彩や素描も紹介した。

（2）薔薇*バラ*ばらのマンダラ—須田国太郎から野田弘志まで—

須田国太郎の描いた「紅薔薇」、「薔薇」、「雑草」の3点を紹介。薔薇は画家たちにとって魅力の高い画題でもあり、需要の高い画題でもあったため、多くの画家たちが独自のスタイルで薔薇を描いている。久米桂一郎、梅原龍三郎、中川一政、小山敬三、服部正一郎、伊藤清永、伊藤晴子、野田弘志まで、明治、大正、昭和、平成と活躍した洋画家の描いた薔薇の作品8点と須田の描いた薔薇の作品を展示し、画家それぞれの薔薇を紹介した。

（土井基子／湯浅ひろみ）



展示風景



展示風景

三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅲ 「須田国太郎名品コレクション」 「薔薇*バラ*ばらのマンダラー—須田国太郎から野田弘志まで—」出品リスト *無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
-----	-----	-----	-----	------	----	------------	----

(1) 須田国太郎名品コレクション

1	須田国太郎	花山天文台遠望	1931(昭和6)年	キャンバス・油彩	額装	64.5×90.5	
2	須田国太郎	雨後(水間村)	1935(昭和10)年	キャンバス・油彩	額装	65.2×80.3	寄託
3	須田国太郎	花と鳥	1941-44(昭和16-19)年	キャンバス・油彩	額装	33.4×24.3	
4	須田国太郎	溪流の鷺	1942(昭和17)年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
5	須田国太郎	黄豹	1944(昭和19)年	キャンバス・油彩	額装	41.0×53.0	
6	須田国太郎	静物(蔬菜)	1940(昭和15)年	キャンバス・油彩	額装	52.8×45.4	
7	須田国太郎	黒づくみ	1942(昭和17)年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
8	須田国太郎	瑞鳥	1940(昭和15)年頃	キャンバス・油彩	額装	31.7×48.8	
9	須田国太郎	大和室生寺十一面観音像	1951(昭和26)年	キャンバス・油彩	額装	32.8×27.0	
10	須田国太郎	風景	1946-47(昭和21-22)年	キャンバス・油彩	額装	36.0×43.5	
11	須田国太郎	赤比叡	1951(昭和26)年	キャンバス・油彩	額装	37.8×45.0	
12	須田国太郎	夏雲	1951(昭和26)年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.0	
13	須田国太郎	巖島	1954(昭和29)年	紙・水彩	額装	44.2×61.8	
14	須田国太郎	風景	制作年不詳	紙・水彩	額装	32.0×44.4	
15	須田国太郎	尾道風景	制作年不詳	紙本墨画	額装	31.7×42.7	
16	須田国太郎	樹上猿	1950(昭和25)年頃	紙・水彩・鉛筆	額装	42.7×54.5	
17	須田国太郎	馬	1944(昭和19)年頃	紙本墨画	額装	27.0×24.0	
18	須田国太郎	雉	制作年不詳	紙・水彩	額装	23.3×27.2	
19	須田国太郎	能(卒都婆小町)	1936(昭和11)年	紙・鉛筆	額装	27.2×38.5	
20	須田国太郎	能(角田川)	1951(昭和26)年	紙・鉛筆	額装	20.5×25.0	
21	須田国太郎	能(角田川)	1951(昭和26)年	紙・鉛筆	額装	20.5×25.0	

(2) 薔薇*バラ*ばらのマンダラー—須田国太郎から野田弘志まで—

22	須田国太郎	薔薇	制作年不詳	色紙・パステル	額装	24.4×27.5	
23	須田国太郎	紅薔薇	1942(昭和17)年	キャンバス・油彩	額装	44.5×52.0	
24	須田国太郎	雑草	1940(昭和15)年	キャンバス・油彩	額装	65.0×91.0	
25	伊藤晴子	バラ	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	40.2×30.7	寄託
26	伊藤清永	ばら	1993(平成5)年	キャンバス・油彩	額装	53.0×45.5	
27	野田弘志	薔薇	1989(平成元)年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
28	中川一政	薔薇	1970(昭和45)年	キャンバス・油彩	額装	65.7×53.0	
29	梅原龍三郎	薔薇図	1971(昭和46)年	ボード・油彩	額装	41.3×31.9	
30	久米桂一郎	卓上静物	1930(昭和5)年	キャンバス・油彩	額装	45.7×38.0	
31	服部正一郎	薔薇	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	23.0×32.2	寄託
32	小山敬三	ばら	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.5×37.8	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ その他の公開
(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)
■ 展示公開事業
(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展Ⅳ 海を渡った画家たち —スペイン・フランス・イギリス—

目次

沿革

事業カレンダー

展示公開事業

その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

普及事業 市民サービス・財団事業

運営データ

利用案内

会期 2018（平成30）年9月26日（水）～12月3日（月）
会場 三之瀬御本陣芸術文化館

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」10月号、呉市 ○「市政だよりくれ」11月号、呉市 ○「くれえばん」10月号、株式会社クレ・マスメディア・スタジオ

印刷物

- チラシA4判（両面刷り） 6,500部
- 出品目録A4判（片面刷り）

目的

須田国太郎は1891（明治24）年に生まれ、1919（大正8）年スペインへ留学した。本展では、須田国太郎を始めフランスやイギリスなど各国に留学して洋画を学んだ画家たち13名による作品を紹介した。

江戸後期から明治期に日本近代化にともなって西洋から入ってきた油絵は、それまでの日本では扱われることのなかった新しい芸術の表現ジャンルであった。明治、大正、昭和と生きた画家たちには、その考え方、ものの見方、描き方、画材の使い方、すべてを新たに知る必要と探求心が生じた。西洋の風土と歴史背景で登場し培われた油彩画は、西洋人にとっては材料と表現、精神、風土、宗教が当然一致するものであったが、新しく輸入された日本においては、その風土、精神、宗教とこれまでの表現方法のはざまに、多くの画家が矛盾と葛藤を抱えていた。こうして当時の画家たちにとって油彩画を学ぶには海外に留学することが一番の近道であり、必然だった。そして海外留学で得た体験を糧に日本人としての洋画を追求し、さらに後進の育成にも努め画家としての生涯を過ごした。

海外渡航が容易ではなかった時代に海を渡り、画家としての気概をもってそれぞれの画風を見出した画家たちの渡欧作、帰国後の作品などを展示。スペイン、フランス、イギリス他各国で学んだ画家たちの作品を油彩画、旅日記などの28点で紹介した。

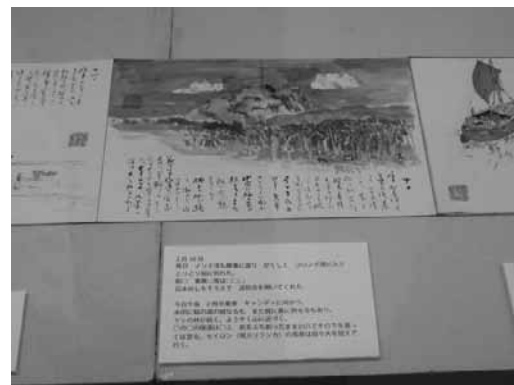
展示内容

(1) スペインに渡った画家たち

京都帝国大学大学院で「絵画の理論と技巧」をテーマに研究した須田国太郎は、1918（大正7）年末、第一次世界大戦の終結を待ってスペインへ向かった。当時芸術の最先端だったパリではなくスペインを選んだ理由は、目的地にあるプラド美術館のルネサンス期ベネチア派コレクションこそ油彩画の歴史を学ぶにふさわしいと考え、模写による油彩画の実作での研究を始めるためであった。帰国後は母校で後進の育成に携わりながら画壇デビューし、以後日本の洋画壇をけん引していく。1922（大正11）年7月にスペインの東部国境の各州に旅行した際、バレンシアの南の谷あいの街を取材した「モヘンテ」や、スペイン風景を背景に描き出した「牛」を始め、帰国後の風景画など7点を紹介。また、須田と同じく独立美術協会に所属した鳥海青児の作品を3点紹介。鳥海はおもにフランスを拠点に滞在



展示風景



展示風景

したが、スペインを旅した時、ブラド美術館のスペインの巨匠ゴヤの作品に強い衝撃を受け、その作品に影響を受けている。

(2) フランスに渡った画家たち

フランスに滞在や旅行したことによってその文化に影響を受けた画家たちの作品を紹介した。フランスで台頭した印象派やそれ以降の近代的画風に影響を受けた小林和作。フランスに渡り、その後20年以上も定住をしながらおもに風景画や花の画題で制作し続けた三岸節子。パリのモンパルナスなどで多くを過ごし、ブラマンクやユトリロなどの影響を受けながらフランスの街並みを描き続けた佐伯祐三や萩須高德。フランスと日本を行き来しながら、藤田嗣治を師と仰ぎ、フランスで得た美学と独自の色彩感によって「エビハラ・ブルー」と呼ばれる画風を打ち立て、馬をよく画題とした海老原喜之助。その他、里見勝蔵、児島善三郎、林武などフランスのフォービズムの影響が見受けられる独

立美術協会のメンバーの作品を紹介した。

(3) イギリスに渡った画家

広島県呉市安浦町の出身で、24歳から2年間イギリスに留学し、1910(明治43)年に帰国するまでヨーロッパ諸国をめぐるながら研鑽を積んだ南薫造の水彩画と旅日記を紹介。若き日に経験したイギリス留学は、南にアカデミックなデッサン力と、その力量に裏打ちされた落ち着きと安らぎのある画風をもたらした。

南はオリエンタルなものへの興味が有り、学生時代にインドやエジプトの古代美術に関心を持ち、大英博物館に通って模写をおこなった。そのような南が1916(大正5)年にインドへ旅行した際に記した「白楊堂旅日記」を始め、何気ない日常風景を描いた「公園風景」「木のある風景」を展示。生涯、人物と風景をおもな主題とし、人間の日常と生活の中の幸福を感じさせる作品を描き続けた南の原点となる観察眼や温かさを、作品を通して紹介した。

(土井基子/湯浅ひろみ)

三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅳ 「海を渡った画家たち—スペイン・フランス・イギリス—」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
-----	-----	-----	-----	------	----	------------	----

(1) スペインに渡った画家たち

1	須田国太郎	牛	1934(昭和9)年	キャンバス・油彩	額装	65.0×80.0	
2	須田国太郎	モヘンテ	1922(大正11)年	キャンバス・油彩	額装	66.6×81.4	
3	須田国太郎	花山天文台遠望	1931(昭和6)年	キャンバス・油彩	額装	64.5×90.5	
4	須田国太郎	風景	1946-47(昭和21-22)年	キャンバス・油彩	額装	36.0×43.5	
5	須田国太郎	夏雲	1951(昭和26)年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.0	
6	須田国太郎	富士遠望	1943-44(昭和18-19)年	キャンバス・油彩	額装	45.0×52.6	
7	須田国太郎	月瀬平	1949(昭和24)年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
8	鳥海青児	アルゼリア風景	1930(昭和5)年	キャンバス・油彩	額装	65.2×91.1	
9	鳥海青児	かぼちゃと茶碗	1959-62(昭和34-37)年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
10	鳥海青児	段々島	1951(昭和26)年	ボード・油彩	額装	32.1×37.6	

(2) フランスに渡った画家たち

11	小林和作	海	1955(昭和30)年	キャンバス・油彩	額装	51.4×99.8	
12	小林和作	尾道風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
13	小林和作	秋の山湖	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	33.5×60.9	
14	三岸節子	高原の花	1962(昭和37)年	キャンバス・油彩	額装	90.0×72.0	
15	三岸節子	カーニュの窓	1969(昭和44)年	キャンバス・油彩	額装	90.8×70.3	
16	海老原喜之助	馬上人物	1955(昭和30)年頃	紙・鉛筆・水彩	額装	35.4×25.4	
17	海老原喜之助	初夏快走	1967(昭和42)年	キャンバス・油彩	額装	16.0×22.9	
18	菅野圭介	葉山あぶずり海岸	1961(昭和36)年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
19	佐伯祐三	パリの教会堂	1928(昭和3)年	キャンバス・油彩	額装	38.2×45.0	
20	萩須高德	オーベルヴィリエ	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	58.0×71.0	
21	里見勝蔵	イピサ風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	88.8×115.8	
22	児島善三郎	横臥	1929(昭和4)年	キャンバス・油彩	額装	97.5×162.2	
23	林武	婦人像	1923(大正12)年	キャンバス・油彩	額装	45.3×37.8	
24	林武	婦人像	1945(昭和20)年	キャンバス・油彩	額装	100.0×65.3	
25	林武	前向きの女	1967(昭和42)年	キャンバス・油彩	額装	80.2×65.1	

(3) イギリスに渡った画家

26	南薫造	公園風景	制作年不詳	紙・水彩	額装	25.5×36.5	
27	南薫造	白楊堂旅日記	1916(大正5)年	紙・水彩、14頁	帖装	24.2×36.2	
28	南薫造	木のある風景	制作年不詳	紙・水彩	額装	51.0×36.0	

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

所蔵品展Ⅴ いきもの集まれ！ 須田国太郎 VS 日本画・洋画・焼き物に描かれた生き物たち

会期 2018（平成30）年12月5日（水）～2019（平成31）年2月11日（月）
会場 三之瀬御本陣芸術文化館

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」12月号、呉市 ○「市政だよりくれ」1月号、呉市

印刷物

- チラシA4判（両面刷り）6,500部
- 出品目録A4判（片面刷り）

目的

須田国太郎は、風景、人物、動物とさまざまな画題を手がけているが、本展では須田の動物の作品を中心に、日本近代美術に影響を与え、それぞれ異なる分野と表現手段で活躍してきた13名の芸術家たちの日本画、洋画、焼き物に描かれた生き物たちを紹介した。

芸術家自身と動物との関係性や解釈により、作品が見せる印象、表情、空間、色彩、筆致などの表現は多岐にわたっている。

陶芸家の今井政之、日本画家の森徹山、洋画家の山口薫などを始め、動物表現を得意とした芸術家たちがどのような思いを馳せて作品に向かっていったかを全38点により辿った。

展示内容

（1）須田国太郎の描いた動物

須田にとって動物は好きな画題の一つであり、自宅に近かった京都市動物園にもしばしば写生に出かけている。代表作の「黄豹」はこの動物園のヒョウで、悪化する戦時下のもと空襲によって猛獣が逃走するのを危ぶんで、1944（昭和19）年に軍の命令により処分される約1ヶ月前に描かれたものである。また、戦時下の国を挙げての戦意抑揚の気運高まる社会風潮の中、ワシやハヤブサといった画題への政治的な需要が増幅された時代背景とともに、もともとこうした鳥類への画家の興味が深かったことが相まって多くの鳥の作品を描いている。動物の作品から、時代背景や人と動物の関係性が表出している。その他、須田の日常生活の中で題材にした魚や猫を描いた作品など、油彩画、水彩画、水墨画、スケッチの16点を紹介。

（2）洋画に見る動物表現

須田が留学時にスペインで見た闘牛を描いたのに対し、田畑で働く牛たちを描いた山口薫。山口は動物描写を得意とし、亡くなるまで飼っていた愛犬や、日常で見かけるカラスなどをモチーフに描いている。香月泰男はシベリア抑留からの帰還後、何気ない日常の生活に愛情を持ち、身の回りのものを描いている。こうした洋画家たちが独自の視点で描いた動物たちを6点紹介。

（3）日本画にみる動物表現

鳥をよく描いた須田に対して、日本画における鳥の表現を平田玉蘊や森寛斎などの作品や、自己を投影した作品「鴉」を描いた加山又造の作品を通して紹介。また、須田や洋画家の描いた牛に対して、日本画で描かれた加藤栄三の牛を



展示風景



展示風景

紹介。同じ動物を描いても、作者の捉え方や画材によって異なる表現が見てとれ、鑑賞者にその違いやそれぞれの魅力を見てもらうことを目的とした。計7点の作品を紹介。

（4）焼き物に見る動物表現

面象嵌（めんぞうがん）という独自の技法を打ち立て、生き物の表現を得意とした今井政之の陶芸作品を紹介。

“面象嵌”とは、始めに器の本体を作り、そこに文様を彫り、嵌（は）め込み細工のように多種類の色土を嵌め込んで文様を作り、焼くという技。線を象嵌する陶器はあるものの、広い面で嵌め込むものは今井氏が試行錯誤を繰り返

返し、長い歳月をかけて生み出してきたものである。作品を彩る絵柄には、魚や鳥、昆虫、花など身近な動植物が登場する。その中には少年時代に父の郷里である広島県竹原市で親しんだ瀬戸内に生息する動植物の文様も数多く見られる。その表現は生き生きとした躍動感があり、見るものをワクワクさせる愛嬌や愛らしさを持っており、作者の生き物への愛着と敬意を感じる作品群である。現在、竹原市に自身の窯を設けており、その窯場の様子などを紹介した資料とともに陶芸作品8点を紹介。

（湯浅ひろみ）

三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅴ 「いきもの集まれ！ 須田国太郎 VS 日本画・洋画・焼き物に描かれた生き物たち」 出品リスト *無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
-----	-----	-----	-----	------	----	------------	----

（1）油絵で描かれた生き物たち

1	須田国太郎	猛禽	1946（昭和21）年	紙本墨画淡彩	軸装	90.5×33.6	
2	須田国太郎	鷺	1948（昭和23）年	紙・水彩	額装	21.0×60.4	
3	須田国太郎	樹に止まった鷺	制作年不詳	紙本墨画淡彩	額装	16.3×52.0	
4	須田国太郎	溪流の鷺	1942（昭和17）年	キャンバス・油彩	額装	38.0×45.5	
5	須田国太郎	黒つぐみ	1942（昭和17）年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
6	須田国太郎	黄豹	1944（昭和19）年	キャンバス・油彩	額装	41.0×53.0	
7	須田国太郎	牛	1934（昭和9）年	キャンバス・油彩	額装	65.0×80.0	
8	須田国太郎	瑞鳥	1940（昭和15）年頃	キャンバス・油彩	額装	31.7×48.8	
9	須田国太郎	花と鳥	1941-44（昭和16-19）年	キャンバス・油彩	額装	33.4×24.3	
10	須田国太郎	魚	1947-48（昭和22-23）年	キャンバス・油彩	額装	32.3×41.2	
11	須田国太郎	雉	制作年不詳	紙・水彩	額装	23.3×27.2	
12	須田国太郎	馬	1944（昭和19）年	紙本墨画	額装	27.0×24.0	
13	須田国太郎	樹上猿	1950（昭和25）年	紙・鉛筆・水彩	額装	42.7×54.5	
14	須田国太郎	猫	1949（昭和24）年頃	鉛筆・紙	額装	33.3×24.2	
15	須田国太郎	猫	制作年不詳	鉛筆・紙	額装	33.3×24.2	
16	須田国太郎	猫	制作年不詳	鉛筆・紙	額装	24.2×33.3	
17	山口薫	沼と牛の群	1960（昭和35）年	キャンバス・油彩	額装	72.8×60.8	
18	久保田辰男	山里	1993（平成5）年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
19	山口薫	からすの子	1950（昭和25）年	キャンバス・油彩	額装	45.5×38.0	
20	山口薫	クマの絵舩	1963（昭和38）年	キャンバス・油彩	額装	40.8×31.8	
21	香月泰男	えい	1959（昭和34）年	キャンバス・油彩	額装	33.4×53.2	
22	岡部繁夫	がちょう	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	97.0×146.0	

（1）日本画で描かれた生き物たち

23	平田玉蘊	葦雁図	制作年不詳	紙本彩色	軸装	131.8×58.7	
24	平田玉蘊	鴨図	制作年不詳	紙本彩色	軸装	131.8×57.5	
25	森徹山	狸獲鴨之図	制作年不詳	絹本墨画淡彩	軸装	110.1×50.8	
26	森寛斎	花卉小禽図	制作年不詳	紙本彩色	軸装	117.5×47.5	
27	堅山南風	鯉	1958-62（昭和33-37）年	紙本彩色	額装	63.8×78.8	
28	加藤栄三	牛	制作年不詳	紙本彩色	額装	63.0×84.3	
29	加山又造	鴉	1959（昭和34）年	紙本彩色	額装	62.2×74.7	

（3）焼き物に描かれた生き物たち

30	楠部弥弑	彩埴藤飾皿	1962（昭和37）年	—	陶器	高3.5×口径37.3	
31	今井政之	金彩虎置物	1997（平成9）年	—	陶器	高8.5	
32	今井政之	象嵌彩窯変 （新西蘭よりの使者）花壺	1991（平成3）年	—	陶器	高27.8×径25.7	

■ 目次

■ 沿革

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業
その他の公開

(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

33	今井政之	象嵌彩阿比飾皿	1994 (平成6) 年	—	陶器	高 4.0×口径 38.4	
34	今井政之	象嵌彩鏡鯛花壺	1990 (平成2) 年	—	陶器	高 37.8×径 30.7×36.5	
35	今井政之	象嵌彩窯変蠶螂図香炉	1998 (平成10) 年	—	陶器	高 16.1×径 13.3	
36	今井政之	象嵌志野夏日水指	1991 (平成3) 年	—	陶器	高 19.5×径 15.5	
37	今井政之	象嵌彩双蝶花瓶	1997 (平成9) 年	—	陶器	高 22.4×径 11.2	
38	今井政之	象嵌彩塩窯くわがた花瓶	1997 (平成9) 年	—	陶器	高 27.0×径 12.3	

所蔵品展Ⅵ 躍動するかたち 一人・もの・風景 — 須田国太郎 & 洋画家たち

会期 2019（平成31）年2月13日（水）～4月8日（月）
会場 三之瀬御本陣芸術文化館

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」2月号、呉市 ○「市政だよりくれ」3月号、呉市 ○「あーと散歩」『週刊プレスネット』1月31日号、株式会社プレスネット

印刷物

- チラシ A4判（両面刷り） 6,500部
- 出品目録 A4判（片面刷り）

目的

本展では、須田国太郎を中心に、日本近代美術の洋画家たちそれぞれの“躍動するかたち”を人・もの・風景のジャンルで紹介した。

28歳から4年間、ヨーロッパ各地を周遊しながらスペインを拠点に留学した須田は、ルネサンス期ベネチア派やスペインの巨匠の模写を通して、油彩画技法の基礎となる西洋の古典技法を学んだ。作品は全体的に黒や、茶褐色を用いたものが多く、画面に安定感と落ち着きがある一方で、それだけにとどまらない勢いを帯びた躍動感があるのが特徴である。

さらに須田が所属していた独立美術協会を中心に、この時代の日本の画家たちは、フランスで台頭し世界的な美術潮流となったフォービズムの影響も強く受けていた。それは目に映る形、色、構図にとらわれることなく、画家の主観的な感覚を心で感じたまま、自由に激しい筆致や原色を多用した大胆な色使いで表現するものだった。こうした心の色、形、構図もまた作品に“躍動するかたち”を生み出す要因となった。

これらに影響を受けた洋画家たちと須田の“躍動するかたち”を比較しながらの展示構成で計14名、32点の作品を紹介した。

展示内容

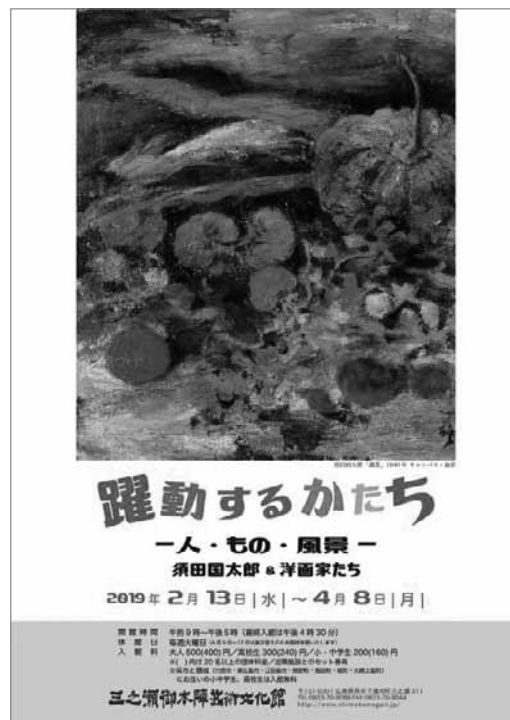
(1) 躍動するかたち — 人 —

須田国太郎の画壇デビュー前、34歳の時の「裸婦習作」、41歳、66歳のときに制作した「裸婦」、と年齢に平行して3枚を展示。明部（光）と暗部（影）の対比をデフォルメした明暗法による空間作りやナイフを駆使した力強い絵具の置き方や引っ掻き、勢いのある筆運び、その試行錯誤による油絵具特有のマチエール、それらの集積が落ち着いたポーズと構図ながらも須田独自の躍動する形を生み出している作品である。

須田との比較で、独立美術協会立ち上げに関わった、里見勝蔵、林武、児島善三郎、三岸好太郎やフォービズムに影響を受けながらも、独自の境地を切り開いた麻生三郎や熊谷守一、梅原龍三郎、長谷川利行など9名の13点の裸婦を中心に人物画を紹介。

(2) 躍動するかたち — もの —

須田の「静物（蔬菜）」や土から自生するバラを描いた作品を展示し、同じく梅原龍三郎や林武、三岸節子などの



展示風景



展示風景

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

描いた静物画や花の絵を計7点で紹介した。それぞれが力強いが独自の異なった筆致で対象を捉えて表現している。

(3) 躍動するかたち - 風景 -

須田国太郎の、梅の咲き乱れる奈良県の「月瀬平」の様子を描いた作品、夕立後に晩夏の日差しが山間の集落に差し込む独特の空気を描いた「雨後（水間村）」、スペイン風景を背景に闘牛を描いた「牛」など画面に落ち着きを見せ

ながらも、マチエールやタッチにより、静かな“動”を醸し出し、躍動感を見せる風景画を紹介。それとは異なり、街の賑やかさを見事に描いた長谷川利行の「新宿風景」や色数の少ない色調にもかかわらず、街の重厚感を感じるスペインを描いた三岸節子の「カダケス」、同じくスペインを描いた里見勝蔵の「イビサ風景」、海の波や磯の荒々しさを描いた、林武、小林和作、中川一政などの海岸の風景画など、躍動的な風景作品を計10点で辿った。

(湯浅ひろみ)

三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展VI 「躍動するかたち - 一人・もの・風景 - 須田国太郎 & 洋画家たち」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	形状	寸法(縦×横) cm	所蔵
(1) 躍動するかたち-人-							
1	須田国太郎	裸婦習作	1925-34 (大正14-昭和9)年	キャンバス・油彩	額装	90.3×60.2	
2	須田国太郎	裸婦	1934 (昭和9)年	キャンバス・油彩	額装	90.4×60.6	
3	須田国太郎	裸婦	1957 (昭和32)年	キャンバス・油彩	額装	44.7×27.5	
4	里見勝蔵	ハンス婦人	1923 (大正12)年頃	キャンバス・油彩	額装	41.0×27.5	
5	里見勝蔵	裸婦	1934 (昭和9)年頃	キャンバス・油彩	額装	52.5×79.6	
6	林武	和装婦人	1935 (昭和10)年	キャンバス・油彩	額装	91.0×72.7	
7	林武	裸婦	1949 (昭和24)年	キャンバス・油彩	額装	91.0×72.7	
8	児島善三郎	横臥	1929 (昭和4)年	キャンバス・油彩	額装	97.5×162.2	
9	伊藤清永	清雅	1992 (平成4)年	キャンバス・油彩	額装	53.0×72.7	
10	麻生三郎	人	1990 (平成2)年	キャンバス・油彩	額装	68.7×61.4	
11	熊谷守一	くしけづる女	1954 (昭和29)年	板・油彩	額装	33.0×24.0	
12	梅原龍三郎	二人の裸婦	制作年不詳	紙・グワッシュ	額装	27.0×19.0	
13	梅原龍三郎	少女	1973 (昭和48)年	キャンバス・油彩	額装	59.8×43.0	
14	三岸好太郎	印度人の男	制作年不詳	紙・グワッシュ	額装	50.2×36.5	
15	長谷川利行	裸婦	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	59.8×43.0	寄託
(2) 躍動するかたち-もの-							
16	須田国太郎	雑草	1940 (昭和15)年	キャンバス・油彩	額装	65.0×91.0	
17	須田国太郎	紅薔薇	1942 (昭和17)年	キャンバス・油彩	額装	44.5×52.0	
18	梅原龍三郎	薔薇図	1971 (昭和46)年	ボード・油彩	額装	41.3×31.9	
19	須田国太郎	静物 (蔬菜)	1940 (昭和15)年	キャンバス・油彩	額装	52.8×45.4	
20	林武	卓上静物	1930 (昭和5)年	ボード・油彩	額装	28.0×37.4	
21	三岸節子	花	1960年代	キャンバス・油彩	額装	53.2×45.7	
22	三岸節子	静物	1965 (昭和40)年	キャンバス・油彩	額装	91.0×116.7	
(3) 躍動するかたち-風景-							
23	須田国太郎	月瀬平	1949 (昭和24)年	キャンバス・油彩	額装	45.5×53.0	
24	須田国太郎	雨後 (水間村)	1935 (昭和10)年	キャンバス・油彩	額装	65.0×80.3	寄託
25	須田国太郎	牛	1934 (昭和9)年	キャンバス・油彩	額装	65.0×80.0	
26	林武	風景	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	81.0×73.6	
27	小林和作	海 (室戸岬)	制作年不詳	キャンバス・油彩	額装	31.5×40.8	
28	中川一政	尾の道展望	1961 (昭和36)年	キャンバス・油彩	額装	65.2×80.8	
29	長谷川利行	新宿風景	1937 (昭和12)年	キャンバス・油彩	額装	23.8×32.6	
30	山口薫	モンレリー風景 (パリ郊外)	1933 (昭和8)年	キャンバス・油彩	額装	65.1×80.5	
31	三岸節子	カダケス	1987 (昭和62)年	キャンバス・油彩	額装	50.0×72.7	

所蔵品展 | 柿右衛門—ヨーロッパに咲いた伊万里—

会期 2018 (平成30) 年4月11日(水)～6月18日(月)
会場 松濤園 陶磁器館

関連行事

●ギャラリートーク

2018年(平成30)年4月22日(日)、5月27日(日)
各日とも、午後2時から御馳走一番館とあわせて案内

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」4月号、呉市 ○「市政だよりくれ」5月号、呉市 ○「市政だよりくれ」6月号、呉市 ○「あーと散歩」『週刊プレスネット』4月26日号、株式会社プレスネット ○「あまちこのまち イベント情報」『海陽彩都』No.64、呉地方拠点都市地域推進協議会

印刷物 (ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の2館共通)

- ポスター B2判 10枚
- チラシ A4判 (両面刷り) 10,000部
- 出品目録 A4判 (両面刷り)

目的

江戸初期から中期にかけて発展した伊万里焼の中でも、人気が高く、当時ヨーロッパを魅了した柿右衛門様式を特集し展示した。

古伊万里の変遷を辿った展示の中で柿右衛門様式を中心に据え、このスタイルが生まれたことがその後の伊万里焼の歴史の中でいかに重要な位置であったかをひも解く展示をした。

展示内容

(1) 古伊万里の変遷

本コーナーでは、古伊万里の様式の一つである柿右衛門様式について説明するため古伊万里の歴史をふりかえった。古伊万里の歴史の流れの中で、どのように柿右衛門が誕生したのかを知るために、その前に流行した初期伊万里や寛文様式、その後流行した元禄様式まで、古伊万里の変遷を総覧した。

(2) 柿右衛門様式

柿右衛門様式の、誕生から終焉までの歴史を紹介した。柿右衛門様式とは、初代柿右衛門が生み出した様式である。柿右衛門様式の名を冠しているが、柿右衛門家だけでなくその周辺の窯で生産されたことを説明した。ヨーロッパを席卷した柿右衛門の美と、そしていかにして終焉へ向かっていったのかを紹介した。

(沼田綿子/小川英史)



展示風景



展示風景

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業 (特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

松濤園 陶磁器館 所蔵品展「右衽衛門ーヨーロッパに咲いた伊万里ー」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	資料名	産地・作家	時代・年代	寸法 (高)	寸法 (口径)	寸法 (その他)	所蔵
				(縦×横) cm			
1	染付山水人物文皿		1630-40年代	高 8.2	口径 29.2	底径 8.9	
2	染付山水文輪花皿		1630-40年代	高 6.1	口径 25.6	底径 11.3	
3	青磁色絵金銀彩富士山形皿		1655-60年代	高 3.0	口径 17.7×10.5	底径 10.2×6.0	
4	染付金銀彩宝文皿		1655-60年代	高 2.7	口径 21.8	底径 13.7	
5	瑠璃釉金銀彩富士山雲文四足角皿		1655-60年代	高 4.0	口径 19.0		
6	瑠璃釉金銀彩唐人物文変形皿		1655-60年代	高 2.5	口径 17.0×11.0	底径 12.2×7.2	
7	色絵山水丸文折紙形小皿		1640-50年代	高 3.0	口径 15.0×11.3	底径 9.6×6.1	
8	色絵雁文輪花皿		1640-50年代	高 3.5	口径 20.5	底径 12.0	
9	色絵柏葉文大皿		1650-60年代	高 9.4	口径 38.4	底径 16.7	
10	色絵山水文輪花小皿		1650-60年代	高 2.4	口径 13.6	底径 8.5	
11	染付茶螺形三足鉢		1670-1700年代	高 10.0	口径 22.0×17.0		
12	染付傘唐人物文水注		1670-80年代	高 28.3	口径 5.7	底径 9.9	
13	色絵花鳥婦人文大皿		1700-30年代	高 10.2	口径 54.7	底径 26.5	
14	色絵唐人物文輪花大皿		1690-1730年代	高 6.5	口径 34.5	底径 19.0	
15	色絵花盆文彫皿		18世紀前半	高 7.3	口径 26.1	底径 11.8	
16	色絵花卉文彫皿		18世紀前半	高 3.0	口径 11.0	底径 4.5	
17	色絵草花文角瓶		1660-80年代	高 20.6	口径 3.5	底径 8.8	
18	染付花盆文大皿		1680-90年代	高 11.0	口径 48.5	底径 24.3	
19	色絵鳥紅葉文輪花鉢		1670-90年代	高 12.2	口径 24.7	底径 11.8	
20	色絵柘榴牡丹松菊文輪花鉢		1670-90年代	高 10.7	口径 23.5	底径 10.2	
21	色絵岩牡丹鳳凰文八角鉢		1670-90年代	高 10.3	口径 19.4	底径 8.4	
22	色絵梅鳥団龍文鉢		1680-1700年代	高 9.9	口径 21.0	底径 10.5	
23	色絵梅唐草文輪花鉢		1680-1700年代	高 7.5	口径 20.0	底径 11.6	
24	色絵花卉文八角鉢		1670-90年代	高 10.1	口径 21.1	底径 10.1	
25	色絵岩梅文八角鉢		1670-1700年代	高 9.2	口径 18.5	底径 7.6	
26	色絵雲割唐子文八角皿		1670-90年代	高 4.2	口径 22.7	底径 11.8	
27	色絵鶴文十二角皿		1670-90年代	高 4.0	口径 25.0	底径 15.3	
28	色絵粟鷄梅竹文皿		1670-90年代	高 3.7	口径 18.4	底径 11.8	
29	色絵扇面秋草牡丹唐草文十二角皿		1670-90年代	高 4.1	口径 25.1	底径 14.2	
30	色絵竹虎文皿		1670-90年代	高 4.0	口径 22.5	底径 14.8	
31	色絵菊文蓋付壺		1670-90年代	高 30.0	口径 11.5	底径 11.9	
32	色絵花卉文六角壺		1670-90年代	高 31.5	口径 11.0	底径 13.5	
33	色絵花鳥文角瓶		1670-90年代	高 32.6	口径 8.5	底径 10.7	
34	色絵花卉文八角瓶		1670-90年代	高 23.8	口径 1.9	底径 9.2	
35	色絵梅鳳凰団龍文八角鉢		1670-90年代	高 11.0	口径 25.2	底径 11.5	
36	色絵粟鷄文八角皿		1670-90年代	高 5.0	口径 25.5	底径 13.0	
37	色絵柘榴柴垣鳥文皿		1670-90年代	高 4.0	口径 25.0	底径 16.0	
38	染付柘榴文大皿		1700-50年代	高 8.5	口径 31.0	底径 16.4	
39	色絵薔薇水仙文大皿		1700-30年代	高 8.3	口径 30.2	底径 16.5	
40	青磁染付宝尽し文大皿		1690-1750年代	高 8.4	口径 32.5	底径 15.9	
41	色絵芥子文皿		1690-1730年代	高 5.8	口径 20.3	底径 11.0	
42	色絵青海波水葵文小皿		1690-1730年代	高 4.3	口径 15.0	底径 8.0	
43	色絵椿文小皿		1690-1730年代	高 4.5	口径 15.2	底径 8.2	
44	色絵柴垣桜文猪口		1690-18世紀前半	高 7.0	口径 10.2	底径 5.2	
45	染付花柘榴窠文皿		1690-1730年代	高 5.5	口径 20.2	底径 11.1	
46	染付蕨文小皿		1690-18世紀前半	高 4.3	口径 15.0	底径 8.1	
47	染付桜流水文皿		18世紀末	高 5.5	口径 20.3	底径 11.5	
48	色絵壺持ち婦人像		1680-1700年代	高 29.6		径 9.5×9.5	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開入館一瞥)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

49	色絵壺持ち婦人像		1670-90年代	高 41.8		径 17.2×12.4	
50	色絵婦人像		1670-90年代	高 39.3		径 14.3×11.8	
51	色絵婦人像		1670-90年代	高 39.2		径 13.3×12.2	
52	色絵犬置物		1670-1710年代	高 19.0	口径 235×145		
53	色絵布袋置物		1670-1710年代	高 22.0		径 19.0×16.0	
54	色絵獅子置物		1670-1700年代	高 17.0		径 15.0×9.5	
55	色絵米螺形三足鉢		1670-1700年代	高 9.5		径 22.0×17.0	
56	色絵草花文水注		1670-1700年代	高 16.7	口径 6.5	底径 6.5	
57	色絵菊文面取壺		1670-90年代	高 19.0	口径 10.0	底径 10.0	
58	色絵草花文蓋付香炉		1670-90年代	高 12.0		径 18.0	
59	色絵桜文四方猪口		1670-90年代	高 6.0	口径 10.0	底径 4.6	
60	色絵縞水車文碗		1680-1700年代	高 6.2	口径 10.5	底径 4.5	
61	色絵菊牡丹文壺		1670-90年代	高 25.5	口径 11.5	底径 12.0	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展Ⅱ 動物文様と古伊万里 同時開催 動物へのまなざしー今井政之ー

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業 市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

会期 2018 (平成30) 年6月20日 (水) ~9月3日 (月)
会場 松濤園 陶磁器館

関連行事

- ワークショップ「My うちわで夏を乗り切ろう！」
2018 (平成30) 年7月14日 (土) ~9月2日 (日)
- ギャラリートーク
2018年 (平成30) 年7月22日 (日)、8月26日 (日)
各日とも、午前11時から御馳走一番館とあわせて案内

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」7月号、呉市 ○「市政だよりくれ」
8月号、呉市 ○「市政だよりくれ」9月号、呉市 ○「あ
のまちこのまち イベント情報」『海陽彩都』No.64、呉地
方拠点都市地域推進協議会

印刷物 (ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の2館共通)

- ポスター B2判 10枚
- チラシ A4判 (両面刷り) 10,000部
- 出品目録 A4判 (両面刷り)

目的

古伊万里の中に描かれた動物文様に焦点を当てた。中国由
来の文様や、日本独自の風土や文化のもとに生み出された文
様を紹介した。

同時開催では、少年期の多感な時期を広島県竹原市で育
ち、象嵌技法によって魚や動植物を生き生きと表現する今
井政之の作品を公開した。

展示内容

(1) 動物文様と古伊万里

古伊万里の変遷を辿りながら、動物文様に焦点を当て展
示した。文様の由来や、その文様に込められた願いなどを
紹介した。中国からきた文様や、日本独自に誕生した文様、
ヨーロッパとの交易の影響を反映した文様が登場すること
も紹介した。

(2) 動物へのまなざしー今井政之ー

今井政之の作品には、動植物をモチーフとした作品が多
い。所蔵する今井政之の作品から、動植物がモチーフの作
品を厳選し、紹介した。

(沼田綿子/小川英史)



展示風景



展示風景

松濤園 陶磁器館 所蔵品展Ⅱ 「動物文様と古伊万里」 「動物へのまなざしー今井政之ー」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	資料名	産地・作家	時代・年代	寸法 (高)	寸法 (口径)	寸法 (その他)	所蔵
				(縦×横) cm			
1	染付吹墨月兔文皿		1630-40年代	高 4.0	口径 18.5	底径 6.7	
2	染付竹虎文水指		1650-60年代	高 18.0	口径 12.2	底径 13.6	
3	薄瑠璃釉金銀彩花鳥文変形小皿		1655-70年代	高 2.6	口径 148×129	底径 9.6×7.4	
4	染付鷺文変形小皿		1650-70年代	高 2.6	口径 158×11.1	底径 9.2×6.8	
5	染付竹虎文皿		1650-60年代	高 3.2	口径 22.5	底径 13.5	
6	染付桐鳳凰文皿		1660-70年代	高 3.0	口径 20.2	底径 14.0	
7	色絵花鳥文皿		1640-50年代	高 3.0	口径 20.6	底径 10.5	
8	色絵孔雀文大皿		1650年代頃	高 7.0	口径 39.5	底径 16.7	
9	色絵花鳥文皿		1640-50年代	高 3.0	口径 19.2	底径 8.9	
10	色絵葦雁文角小皿		1650-60年代	高 3.0	口径 125×125	底径 7.1×6.6	
11	色絵芙蓉手花鳥文大皿		1655-60年代	高 6.0	口径 30.6	底径 14.9	
12	染付桐鳳凰文大皿		1680-1700年代	高 12.2	口径 56.2	底径 29.7	
13	染付波鷺文輪花大皿		1680-1710年代	高 8.5	口径 40.5	底径 21.8	
14	染付松竹梅牡丹鹿文皿		1670-80年代	高 7.5	口径 32.1	底径 17.5	
15	染付龍虎文木瓜形皿		1670-90年代	高 4.0	口径 225×123	底径 16.0×8.1	
16	染付玉取獅子文皿		1670-80年代	高 5.1	口径 18.3	底径 11.4	
17	染付団籠七宝文皿		1670-90年代	高 3.9	口径 21.4	底径 14.5	
18	染付牡丹鳥文小皿		1670-90年代	高 3.2	口径 14.5	底径 10.3	
19	色絵波鶴文水注		1660-90年代	高 16.0	口径 2.2	底径 5.7	
20	色絵葡萄栗鼠文角瓶		1700-30年代	高 22.0	口径 3.1	底径 9.5	
21	色絵楼閣桜樹牛文皿		1700-30年代	高 3.0	口径 24.2	底径 13.5	
22	色絵桜花鷺文大皿		17世紀後半-18世紀初	高 8.0	口径 48.5		
23	色絵鶏岩置物		17世紀後半-18世紀前半	高 25.5	口径 200×110		
24	色絵獅子牡丹置物		18世紀前半	高 45.0	口径 185×185		
25	色絵梅樹鷹猿文蓋付大壺		1700-30年代	高 50.0	口径 12.8	底径 13.0	
26	染付芙蓉手花虫文皿		1680-1710年代	高 3.0	口径 22.0	底径 11.5	
27	染付松泉文鉢		1770-1810年代	高 9.0	口径 33.0	底径 21.0	
28	染付松鶴牡丹鳳凰文大皿		1690-1730年代	高 7.5	口径 37.0	底径 21.7	
29	染付鶴宝尽し文壺		1700-40年代	高 32.4	口径 14.0	底径 14.0	
30	染付岩鳳凰文筒型注器		1690-1730年代	高 31.5	口径 16.5		
31	色絵花鳥文角瓶		1670-90年代	高 32.6	口径 8.5	底径 10.7	
32	色絵花卉文六角壺		1670-90年代	高 31.5	口径 11.0	底径 13.5	
33	色絵花卉文八角瓶		1670-90年代	高 23.8	口径 1.9	底径 9.2	
34	色絵粟鶉文八角皿		1670-90年代	高 5.0	口径 25.5	底径 13.0	
35	色絵牡丹獅子文輪花皿		1670-1700年代	高 3.0	口径 18.0	底径 11.3	
36	色絵犬置物		1670-1710年代	高 19.0	口径 235×145		
37	色絵獅子置物		1670-1700年代	高 17.0		径 15.0×9.5	
38	染付柘榴文大皿		1700-50年代	高 8.5	口径 31.0	底径 16.4	
39	色絵薔薇水仙文大皿		1700-30年代	高 8.3	口径 30.2	底径 16.5	
40	青磁染付宝尽し文大皿		1690-1750年代	高 8.4	口径 32.5	底径 15.9	
41	色絵露木犀文皿		1690-1730年代	高 5.4	口径 20.4	底径 11.2	
42	色絵水草文小皿		1700-30年代	高 4.5	口径 15.0	底径 8.0	
43	色絵蔓薔薇文小皿		1700-30年代	高 4.0	口径 15.0	底径 7.3	
44	染付花柘榴窠文皿		1690-1730年代	高 5.5	口径 20.2	底径 11.1	
45	染付秋草文皿		1700-50年代	高 6.0	口径 20.5	底径 11.1	
46	染付菊文猪口		1690-18世紀前半	高 6.5	口径 11.5	底径 4.0	
47	染付網文耳付猪口		1650-70年代	高 10.3	口径 7.3×4.3	底径 3.5×3.2	
48	苔泥彩花瓶	今井政之	1967 (昭和 42) 年	高 26.1		径 17.0	

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
■その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

49	泥彩蝦蛄図長壺	今井政之	1965（昭和40）年	高 52.7		径 23.0	
50	象嵌彩窯変鼎立鶴花瓶	今井政之	1985（昭和60）年	高 35.6		径 22.2	
51	象嵌彩鉄線鼎壺	今井政之	1988（昭和63）年	高 24.1		径 32.0	
52	象嵌彩塩窯風船葛大皿	今井政之	1990（平成2）年	高 7.2	口径 62.7		
53	柑釉レリーフ蝦蛄壺	今井政之	1992（平成4）年	高 39.0		径 19.5	
54	象嵌彩鏡鯛花壺	今井政之	1990（平成2）年	高 37.8		径 30.7×36.5	
55	象嵌志野柿茶碗	今井政之	1990（平成2）年	高 7.8	口径 14.1		
56	象嵌志野夏日水指	今井政之	1991（平成3）年	高 19.5		径 15.5	
57	象嵌彩窯変胡蝶蘭香炉	今井政之	1997（平成9）年	高 16.1		径 13.9	
58	象嵌彩窯変蠟螂図香炉	今井政之	1998（平成10）年	高 16.1		径 13.3	
59	象嵌彩窯変（新西蘭よりの使者）花壺	今井政之	1991（平成3）年	高 27.8		径 25.7	
60	象嵌彩阿比飾皿	今井政之	1994（平成6）年	高 4.0	口径 38.4		
61	象嵌彩窯変くわがた花瓶	今井政之	1998（平成10）年	高 24.0		径 14.0	
62	金彩虎置物	今井政之	1997（平成9）年	高 8.5			

所蔵品展Ⅲ「古伊万里色絵の世界—所蔵名品展—」

会期 2018（平成30）年9月5日（水）～11月26日（月）
会場 松濤園 陶磁器館

関連行事

- ギャラリートーク
2018年（平成30）年9月30日（日）、11月18日（日）
各日とも、午後2時から御馳走一番館とあわせて案内

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」10月号、呉市 ○「市政だよりくれ」
11月号、呉市 ○「あのみちこのまち イベント情報」『海
陽彩都』No.64、呉地方拠点都市地域推進協議会

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の2館共通）

- ポスター B2判 10枚
- チラシ A4判（両面刷り） 10,000部
- 出品目録 A4判（両面刷り）

目的

所蔵する陶磁器の中から、色絵の伊万里の名品を紹介するとともに、また、世界の色絵磁器と日本近現代陶芸の名陶工による色絵の作品も紹介した。江戸初期に誕生した古伊万里は朝鮮人陶工が初めて日本にもたらした磁器生産技術で、染付と呼ばれる釉下彩を中心に生産していた。その後、中国からの色絵技術の導入とともに急速に発展し、ヨーロッパへオランダ東インド会社を通じ進出していたことを、変遷を辿りながら紹介した。

展示内容

（1）古伊万里色絵の世界

染付中心の生産から、色絵の始まりを経て、柿右衛門様式の誕生や鍋島様式の隆盛、さらにはヨーロッパを中心とした世界に愛される伊万里となるまでを、時代を追って紹介した。

（2）色絵磁器

伊万里の誕生とその生産に影響を与えた中国色絵磁器の作品と、伊万里に影響を受けて作られたヨーロッパの色絵磁器製品であるイギリスのチェルシー、オーストリアのウィーン磁器工房、そしてドイツのマイセンの作品を紹介した。

（3）日本近現代の陶工による色絵陶磁器

明治以降の陶芸から、色絵を施して表現された楠部弥次や近藤悠三、永楽善五郎や酒井田柿右衛門を紹介した。

（沼田綿子／小川英史）



展示風景



展示風景

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業（特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

松濤園 陶磁器館 所藏品展Ⅲ 「古伊万里色絵の世界－所蔵名品展－」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	資料名	産地・作家	時代・年代	寸法 (高)	寸法 (口径)	寸法 (その他)	所蔵
						(縦×横) cm	
1	染付松文瓶		1630-40年代	高 39.7	口径 4.9	底径 10.0	
2	染付山水人物文皿		1610-30年代	高 5.0	口径 25.2	底径 10.8	
3	染付山水文大皿		1630-40年代	高 12.5	口径 45.0	底径 12.2	
4	染付山水文大皿		1630-40年代	高 9.0	口径 33.5	底径 9.6	
5	色絵松竹梅文皿		1640-50年代	高 3.4	口径 21.3	底径 8.8	
6	色絵菊松文大皿		1650-60年代	高 8.6	口径 33.8	底径 16.6	
7	色絵柘榴文大皿		1640-50年代	高 7.0	口径 32.2	底径 19.8	
8	色絵丸文小皿		1640-50年代	高 2.3	口径 14.2	底径 10.4	
9	錆釉色絵七宝文小皿		1650-60年代	高 5.0	口径 15.5	底径 5.4	
10	染付紅葉流水文変形皿		1660-70年代	高 3.0	口径 162×101	底径 10.1×6.5	
11	色絵花卉文八角鉢		1670-90年代	高 10.1	口径 21.1	底径 10.1	
12	色絵梅竹鳥文輪花皿		1670-90年代	高 3.5	口径 18.2	底径 11.5	
13	色絵枝垂桜文木瓜形皿		1670-90年代	高 5.7	口径 244×213	底径 178×143	
14	色絵縞水車文碗		1680-1700年代	高 6.2	口径 10.5	底径 4.5	
15	色絵芙蓉手花盆文大皿		1660-70年代	高 7.3	口径 32.7	底径 14.8	
16	薄瑠璃釉染付桜文折紙形皿		1670-80年代	高 3.0	口径 175×135	底径 102×66	
17	色絵桜文折紙形皿		1690-1730年代	高 3.0	口径 170×136	底径 110×70	
18	染付牡丹扇文皿		1670-80年代	高 3.0	口径 22.0	底径 14.2	
19	染付牡丹雲波文皿		1670-80年代	高 2.3	口径 22.0	底径 14.7	
20	色絵花鳥婦人文大皿		1700-30年代	高 10.2	口径 54.7	底径 26.5	
21	色絵桜花鷺文大皿		17世紀後半-18世紀初	高 8.0	口径 48.5		
22	色絵鳳凰文十六角大皿		1700-30年代	高 7.0	口径 33.5	底径 18.8	
23	色絵荒磯文皿		1700-40年代	高 8.0	口径 25.1	底径 12.8	
24	瑠璃釉丸文瓶		17世紀後半-18世紀初	高 21.2	口径 4.2	底径 9.2	
25	染付菊文大皿		1680-1700年代	高 8.0	口径 31.0	底径 15.2	
26	色絵楼閣牡丹文蓋付大壺		1700-40年代	高 49.2	口径 9.0	底径 10.0	
27	色絵山水牡丹文大瓶		1690-1710年代	高 60.4	口径 19.5	底径 19.8	
28	色絵梅樹庭園文蓋付大壺		1700-30年代	高 64.0	口径 18.0	底径 19.2	
29	色絵牡丹紫陽花文大壺		1690-1730年代	高 48.0	口径 18.5	底径 19.5	
30	色絵花鳥文角瓶		1670-90年代	高 32.6	口径 8.5	底径 10.7	
31	色絵花卉文六角壺		1670-90年代	高 31.5	口径 11.0	底径 13.5	
32	色絵花卉文八角瓶		1670-90年代	高 23.8	口径 1.9	底径 9.2	
33	色絵竹虎文皿		1670-90年代	高 4.0	口径 22.5	底径 14.8	
34	色絵鶴文十二角皿		1670-90年代	高 4.0	口径 25.0	底径 15.3	
35	色絵柘榴牡丹松菊文輪花鉢		1670-90年代	高 10.7	口径 23.5	底径 10.2	
36	色絵犬置物		1670-1710年代	高 19.0	口径 235×145		
37	染付柘榴文大皿		1700-50年代	高 8.5	口径 31.0	底径 16.4	
38	色絵薔薇水仙文大皿		1700-30年代	高 8.3	口径 30.2	底径 16.5	
39	青磁染付宝尽し文大皿		1690-1750年代	高 8.4	口径 32.5	底径 15.9	
40	色絵蔦梅文変形皿		1640-50年代	高 3.0	口径 170×140	底径 9.5×7.4	
41	色絵露木犀文皿		1690-1730年代	高 5.4	口径 20.4	底径 11.2	
42	染付木犀文小皿		18世紀前半	高 4.3	口径 14.7	底径 7.9	
43	色絵蔓薔薇文小皿		1700-30年代	高 4.0	口径 15.0	底径 7.3	
44	色絵牡丹如意頭文小皿		1690-1730年代	高 4.5	口径 15.0	底径 8.1	
45	色絵花唐草文小皿		1690年-1730年代	高 4.3	口径 15.0	底径 8.0	
46	色絵菊流水文小皿		18世紀中葉-後半	高 4.8	口径 15.5	底径 8.0	
47	色絵網目蟹文小皿 (天啓赤絵)		明 末期	高 3.5	口径 10.4	底径 4.0	
48	色絵松竹梅文皿 (南京赤絵)		明 末期	高 4.1	口径 18.7	底径 11.1	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開入館一瞥)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

49	色絵牡丹文台付皿（南京赤絵）		17世紀前半	高 5.8	口径 18.8	底径 11.6	
50	呉須赤絵魁字文鉢		明 末期	高 11.0	口径 24.8	底径 10.0	
51	色絵柴垣松竹梅虎文皿		18世紀	高 4.3	口径 22.0	底径 12.8	
52	色絵花卉文四方瓶		18世紀頃	高 21.2	口径 1.9	底径 5.0	
53	色絵囊割唐子文皿		18世紀	高 3.4	口径 18.9	底径 11.0	
54	色絵花卉文壺		18世紀頃	高 40.0		底径 14.1	
55	彩埴藤飾皿	楠部弥弍	1962（昭和 37）年	高 3.5	口径 37.3		
56	仁清手龍田川水指	永楽善五郎		高 17.2		径 17.5	
57	色絵染付梅と竹模様瓶	富本憲吉	1952（昭和 27）年	高 22.5		径 12.2	
58	色絵絵具星字文皿	浜田庄司		高 6.8	口径 29.4		
59	寒來暑往呉須赤絵皿	近藤悠三		高 4.8	口径 29.8		
60	赤絵方壺	島岡達三		高 22.8		径 10.3	
61	色絵桜楓文皆具	酒井田柿右衛門 （十三代）		(水指) 高 16.4 (蓋置) 高 4.5 (杓立) 高 18.2 (建水) 高 8.7		径 17.0 径 5.5 径 9.2 径 15.0	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展Ⅳ 古伊万里の装飾と文様

会期 2018（平成30）年11月28日（水）～2019（平成31）年1月28日（月）

会場 松濤園 陶磁器館

関連行事

●ギャラリートーク

2018年（平成30）年12月9日（日）、2019（平成31）年1月13日（日）

各日とも、午前11時から御馳走一番館とあわせて案内

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」12月号、呉市 ○「市政だよりくれ」1月号、呉市 ○「あのまちこのまち イベント情報」『海陽彩都プラス』No.1、呉地方拠点都市地域推進協議会

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の2館共通）

- ポスター B2判 10枚
- チラシ A4判（両面刷り） 10,000部
- 出品目録 A4判（両面刷り）

目的

古伊万里の歴史を紹介するとともに、その器を彩った装飾の技術と文様表現を紹介した。本展では、古伊万里の、①釉薬を器の表面に掛ける施釉、②色絵などを中心とした絵付け、また、③型打ち成形や型押し成形などの3つの技術を装飾と位置づけ、その発展を紹介すると同時に、その装飾と引き立て合う文様表現に注目した。また、近現代陶工による、装飾や文様によって独創的に表現された作品もあわせて紹介した。

展示内容

（1）古伊万里の装飾と文様

古伊万里の誕生から、その技術が進化するにつれて多彩になっていく装飾と文様を紹介した。釉薬の種類によるさまざまな表現や、絵付けの技術の一つである白絵や金彩、成形技法による表現の違いを紹介した。

（2）日本近現代陶工の作品に見る装飾と文様

明治以降の陶芸作品から、独創的な造形や文様の作品を紹介した。高内秀剛の大型で迫力のある作品や、金重晃介や隠崎隆一の独創的な花器などを紹介した。

（沼田綿子／小川英史）



展示風景



展示風景

松濤園 陶磁器館 所蔵品展Ⅳ 「古伊万里の装飾と文様」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	資料名	産地・作家	時代・年代	寸法 (高)	寸法 (口径)	寸法 (その他)	所蔵
				(縦×横) cm			
1	瑠璃錆釉瓶		1640-50年代	高 23.0	口径 5.0	底径 6.8	
2	白磁線彫草花文水指		1630-40年代	高 21.0	口径 9.0	底径 10.5	
3	青磁瑠璃釉蛇籠流水文変形小皿		1650-70年代	高 2.5	口径 150×118	底径 8.9×6.5	
4	青磁桐文三足付皿		1650-70年代	高 3.6	口径 17.3		
5	青磁色絵金銀彩富士山形皿		1655-60年代	高 3.0	口径 17.7×10.5	底径 10.2×6.0	
6	瑠璃錆釉透彫牡丹文香炉		1650-70年代	高 12.0	口径 6.0		
7	色絵幾何学地文軍配形小皿		1640-50年代	高 2.6	口径 15.0×9.3	底径 9.2×5.4	
8	色絵幾何学地文軍配形小皿		1640-50年代	高 2.7	口径 15.5×10.0	底径 9.3×5.0	
9	色絵南瓜文輪花皿		1650-60年代	高 3.1	口径 20.1	底径 12.1	
10	色絵鳳凰文輪花小皿		1650-60年代	高 2.0	口径 14.0	底径 9.5	
11	色絵葦鷺文角小皿		1650-60年代	高 3.0	口径 13.0×12.0	底径 7.5×6.3	
12	色絵芙蓉手花盆文大皿		1660-80年代	高 8.1	口径 39.5	底径 17.0	
13	色絵波鶴文水注		1660-90年代	高 16.0	口径 2.2	底径 5.7	
14	染付花盆唐草文手付水注		1660-80年代	①高 27.7 ②高 27.6	口径 6.7×4.8 口径 6.5×4.8	底径 11.4×9.4 底径 11.3×9.6	
15	染付楼閣山水文獅子鈕蓋付鉢		1670-90年代	高 33.1	口径 31.5	底径 15.5	
16	染付鯉滝登り文大皿		1670-90年代	高 11.5	口径 47.0	底径 24.5	
17	染付栄螺形三足鉢		1670-1700年代	高 10.0	口径 220×170		
18	染付蛇籠文十角皿		1680-1700年代	高 3.5	口径 18.8	底径 12.2	
19	染付雨降り文皿		1670-90年代	高 4.2	口径 18.5	底径 11.2	
20	黄釉桃文輪花小皿		1670-90年代	高 3.3	口径 15.5	底径 9.4	
21	色絵菊歌字文手付水注		18世紀前半	高 16.5	口径 2.2	底径 5.5	
22	染付唐人物文マスタードポット		1690-1710年代	高 16.3	口径 6.7	底径 7.4	
23	色絵花盆文髭皿		18世紀前半	高 7.3	口径 26.1	底径 11.8	
24	色絵椿幾何学文皿		18世紀前半	高 3.6	口径 20.5	底径 13.8	
25	色絵鶏岩置物		17世紀後半 - 18世紀前半	高 25.5	口径 200×110		
26	色絵花盆文大皿		1700-30年代	高 9.0	口径 55.5	底径 27.5	
27	色絵楼閣牡丹文蓋付大壺		1700-40年代	高 49.2	口径 9.0	底径 10.0	
28	色絵窓絵山水文蓋付大壺		1700-30年代	高 60.0	口径 16.1	底径 19.0	
29	色絵牡丹文蓋付大壺		1730-60年代	高 63.5	口径 16.5	底径 10.1	
30	色絵桐鳳凰文蓋付大壺		1730-50年代	高 48.7	口径 14.5	底径 12.5	
31	色絵花鳥文角瓶		1670-90年代	高 32.6	口径 8.5	底径 10.7	
32	色絵花卉文六角壺		1670-90年代	高 31.5	口径 11.0	底径 13.5	
33	色絵花卉文八角瓶		1670-90年代	高 23.8	口径 1.9	底径 9.2	
34	色絵菊文蓋付壺		1670-90年代	高 30.0	口径 11.5	底径 11.9	
35	色絵婦人像		1670-90年代	高 39.2		径 13.3×12.2	
36	色絵梅鳳凰団龍文八角鉢		1670-90年代	高 11.0	口径 25.2	底径 11.5	
37	色絵扇面秋草牡丹唐草文十二角皿		1670-90年代	高 4.1	口径 25.1	底径 14.2	
38	染付柘榴文大皿		1700-50年代	高 8.5	口径 31.0	底径 16.4	
39	色絵薔薇水仙文大皿		1700-30年代	高 8.3	口径 30.2	底径 16.5	
40	青磁染付宝尽し文大皿		1690-1750年代	高 8.4	口径 32.5	底径 15.9	
41	青磁色絵宝文輪花小皿		17世紀末 - 18世紀前半	高 4.0	口径 14.8	底径 8.1	
42	青磁染付大根文小皿		1670-90年代	高 4.0	口径 15.5	底径 8.2	
43	色絵青海波水葵文小皿		1690-1730年代	高 4.3	口径 15.0	底径 8.0	
44	色絵柴垣椿文皿		18世紀前半 - 中葉	高 5.1	口径 20.3	底径 11.0	
45	染付椿文皿		1690-1740年代	高 4.5	口径 20.3	底径 10.7	
46	染付網文耳付猪口		1650-70年代	高 10.3	口径 7.3×4.3	底径 3.5×3.2	
47	染付松竹梅文大壺		19世紀前半 - 中葉	高 48.0	口径 20.5	底径 20.5	

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
■その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

48	織部大皿	高内秀剛		高 19.7	口径 84.2×85.5		
49	織部俎皿	高内秀剛		高 13.5		径 76.5×38.0	
50	備前花器「海から」	金重晃介	1992（平成4）年頃	高 35.0		径 37.5×40.5	
51	備前 壺	隠崎隆一		高 59.0		径 25.5×21.7	
52	備前三足花入	隠崎隆一		高 24.5		径 19.0×13.5	
53	火禪四角皿	森陶岳		高 3.0	口径 25.7×25.5		
54	鼠志野鉢	若尾利貞		高 8.6	口径 28.4		
55	鼠志野花入 銘むさしの	若尾利貞		高 23.5		径 7.9×12.0	
56	呉須茶文花生	加藤舜陶		高 22.8		径 21.4	
57	碧釉金彩水指	加藤卓男		高 18.5		径 19.3	
58	彩土杉文扁壺	和太守卑良		高 19.0		径 13.6×16.5	
59	象嵌茶碗	和太守卑良		高 7.3	口径 12.9		
60	象嵌彩窯変羊耳椿花瓶	今井政之	1991（平成3）年	高 36.8		径 30.0	

所蔵品展Ⅴ やきものと茶の湯

会期 2019（平成31）年1月30日（水）～4月15日（月）
会場 松濤園 陶磁器館

関連行事

●ギャラリートーク

2019（平成31）年2月17日（日）、3月17日（日）
各日とも、午前11時より御馳走一番館とあわせて案内

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」2月号、呉市 ○「市政だよりくれ」
3月号、呉市 ○「市政だよりくれ」4月号、呉市 ○「あ
のまちこのまち イベント情報」『海陽彩都プラス』No.1、
呉地方拠点都市地域推進協議会

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の2館共通）

- ポスター B2判 10枚
- チラシ A4判（両面刷り） 10,000部
- 出品目録 A4判（両面刷り）

目的

茶の湯に用いる陶器を特集した。日本文化を語るうえで
欠かせない茶道が、国内窯業の発展に欠かせない要因で
あったことを紹介し、茶の湯が大流行していた桃山時代か
ら江戸後期の伊万里に見る茶陶までを中心に紹介した。ま
た会期中に開催される茶会への理解を深めるため、過去の
茶会で使われた器を写真パネルを交えて紹介した。

展示内容

（1）古伊万里所蔵品選

初期伊万里から元禄様式までの古伊万里の変遷を辿りつ
つ、その中から過去に松濤園で開催した秋の茶会・梅見茶
会で、花入などとして使用したことのある古伊万里も紹介
した。

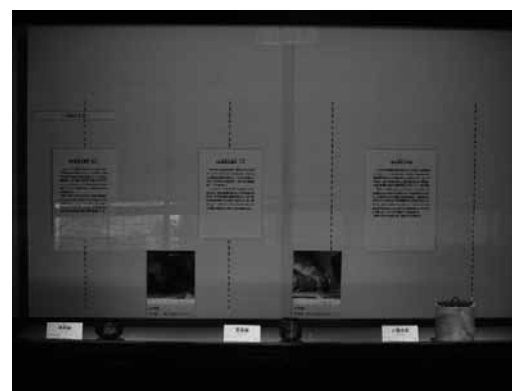
（2）やきものと茶の湯

やきものに見る茶陶として古備前や古萩、織部の作品を
用い紹介した。また茶陶の名家として楽吉左衛門の四代・
六代による茶碗や初代清水六兵衛による茶碗や水指を展示
した。

古伊万里に見る茶陶では、初期伊万里に多く見られる水
指などの茶道具を集め紹介した。

また、日本近現代の陶工による茶陶では十四代・十五代
の楽吉左衛門や金重陶陽の作品を紹介し、明治以降の陶芸
と茶の湯のつながりを茶碗、蓋置き、花入れを中心に紹介
した。

（沼田綿子／小川英史）



展示風景



展示風景

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■普及・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

松濤園 陶磁器館 所蔵品展Ⅴ 「やきものと茶の湯」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	資料名	産地・作家	時代・年代	寸法 (高さ)	寸法 (口径)	寸法 (その他)	所蔵
				(縦×横) cm			
1	染付布袋文皿		1640年代頃	高 2.5	口径 21.5	底径 9.2	
2	染付梅鶯文皿		1640年代頃	高 3.3	口径 20.0	底径 8.8	
3	色絵草花梅樹文角小皿		1650-60年代	高 2.5	口径 13.5×12.0	底径 8.0×7.0	
4	色絵花束文変形小皿		1650-60年代	高 3.0	口径 14.8×12.0	底径 8.5×6.8	
5	色絵椿文大皿		1650年代頃	高 8.0	口径 38.0	底径 15.5	
6	色絵扇重草花毘沙門亀甲文皿		1650年代頃	高 3.0	口径 22.0	底径 12.5	
7	染付草花文瓢形瓶		1660-80年代	高 20.3	口径 2.0×1.9	底径 6.5	
8	染付宝尽し文瓶		17世紀後半	高 28.8	口径 3.7	底径 9.3	
9	瑠璃釉瓶		1650-70年代	高 22.3	口径 3.7	底径 9.5	
10	染付岩草花文輪花皿		1660-70年代	高 4.0	口径 22.4	底径 13.8	
11	染付菊文皿		1660-70年代	高 3.0	口径 21.0	底径 13.8	
12	色絵岩竹文瓶		1660-70年代	高 28.6	口径 2.7	底径 10.9	
13	色絵草花文角瓶		1660-80年代	高 20.6	口径 3.5	底径 8.8	
14	染付菊文小皿		1660-80年代	高 4.0	口径 13.8	底径 5.6	
15	染付水仙文皿		1670-90年代	高 3.2	口径 20.2	底径 13.7	
16	染付竹鳥文皿		1670-90年代	高 3.1	口径 21.2	底径 13.5	
17	染付柴垣家屋若松文輪花皿		1670-80年代	高 2.5	口径 18.0	底径 12.3	
18	染付岩草花文角小皿		1670-90年代	高 4.5	口径 11.5×11.5	底径 7.8	
19	色絵花盆鳳凰文六角壺		1730-50年代	高 14.1	口径 8.2	底径 6.1	
20	色絵菊牡丹文鉢		1690-1730年代	高 12.3	口径 24.5	底径 10.1	
21	色絵花盆文皿		18世紀前半	高 4.0	口径 24.0	底径 13.0	
22	色絵唐人物文輪花大皿		1690-1730年代	高 6.5	口径 34.5	底径 19.0	
23	染付唐草文瓶		18世紀前半	高 28.0	口径 3.4	底径 9.5	
24	古備前 茶入		桃山時代	高 7.0	口径 3.0	底径 3.2	
25	古備前 水指		桃山時代	高 16.8	口径 16.2×16.7	底径 12.0×12.4	
26	古萩 茶碗		17世紀	高 8.2	口径 12.0×13.0	底径 6.0	
27	織部 梅文茶碗		16世紀後半-17世紀	高 8.2	口径 14.3	底径 4.6	
28	織部 香合		16世紀後半-17世紀	高 3.4	口径 5.4×5.6		
29	黒茶碗	楽吉左衛門(六代)	江戸時代	高 7.5	口径 10.9		
30	筒茶碗	楽吉左衛門(四代)	江戸時代	高 9.0	口径 8.7		
31	×焼水指	清水六兵衛(初代)	江戸時代	高 16.4		径 17.1	
32	瑠璃釉鳥形香合		1630-50年代	高 5.0	口径 5.2×4.2		
33	染付人物梅樹文水指		1610-30年代	高 14.0	口径 10.0	底径 7.6	
34	青磁辰砂線彫文水指		1630-40年代	高 17.5	口径 17.5	底径 9.8	
35	染付竹虎文水指		1650-60年代	高 18.0	口径 12.2	底径 13.6	
36	染付寿字文碗		1640-60年代	高 7.5	口径 12.0×7.8	底径 4.5	
37	染付波千鳥文猪口		1640-60年代	高 9.0	口径 6.0	底径 4.1	
38	色絵花鳥文角瓶		1670-90年代	高 32.6	口径 8.5	底径 10.7	
39	色絵花卉文六角壺		1670-90年代	高 31.5	口径 11.0	底径 13.5	
40	色絵花卉文八角瓶		1670-90年代	高 23.8	口径 1.9	底径 9.2	
41	色絵草花文蓋付香炉		1670-90年代	高 12.0		径 18.0	
42	色絵桜文四方猪口		1670-90年代	高 6.0	口径 10.0	底径 4.6	
43	染付柘榴文大皿		1700-50年代	高 8.5	口径 31.0	底径 16.4	
44	色絵薔薇水仙文大皿		1700-30年代	高 8.3	口径 30.2	底径 16.5	
45	青磁染付宝尽し文大皿		1690-1750年代	高 8.4	口径 32.5	底径 15.9	
46	色絵柴垣椿文皿		18世紀前半-中葉	高 5.1	口径 20.3	底径 11.0	
47	色絵椿文小皿		1690-1730年代	高 4.5	口径 15.2	底径 8.2	
48	染付土筆文皿		1700-40年代	高 5.0	口径 19.9	底径 11.1	

目次

沿革

事業カレンダー

展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開入会一覽)
その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

普及・市民サービス・財団事業

運営データ

利用案内

49	染付蕨文小皿		1690年-18世紀前半	高 4.3	口径 15.0	底径 8.1	
50	染付網文耳付猪口		1650-70年代	高 10.3	口径 7.3×4.3	底径 3.5×3.2	
51	青磁猪口		1690-1730年代	高 7.0	口径 10.0	底径 3.7	
52	青磁水指		19世紀前半-中葉	高 18.0	口径 26.0		
53	備前四方角切香合	金重陶陽		高 3.4		径 5.5	
54	備前捻梅香合	金重陶陽	1945(昭和20)年頃	高 3.0		径 7.5	
55	備前茶入	金重陶陽		高 7.5		径 7.5	
56	備前三宝蓋置	金重陶陽		高 4.2		径 6.4	
57	備前透中筒	金重陶陽		高 6.3	口径 5.1		
58	赤茶碗 銘「瑞雲」	楽吉左衛門(十四代)		高 8.3	口径 11.8		
59	茶碗	楽吉左衛門(十五代)		高 8.5	口径 10.9		
60	胴貫黒茶碗	小川長楽(二代)		高 8.3	口径 11.7		
61	備前写種壺水指	永楽善五郎(十六代)		高 17.5		径 16.0	
62	灰失透指頭文水指	清水卯一		高 19.3		径 17.0 底径 9.5	
63	細つつ花入	大樋長左衛門(九代)		高 28.5	口径 3.6		
64	萩白釉水指	坂田泥華(十三代)		高 14.0		径 26.7	
65	鬼萩茶碗	三輪休雪(寿雪)(十一代)		高 11.1	口径 13.8		
66	唐津絵粉引茶碗	中里太郎右衛門(十三代)		高 7.8	口径 13.0		
67	信楽茶碗	荒川豊蔵		高 9.4	口径 12.8		
68	志埜茶碗	鈴木藏		高 9.5	口径 14.5×15.0		
69	瀬戸黒茶碗	池田満寿夫		高 9.3	口径 10.9		
70	耀彩花器	徳田八十吉(三代)		高 22.7		径 22.3	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展 I 異文化交流と朝鮮通信使

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業 市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

会期 2018 (平成 30) 年 4 月 11 日 (水) ~ 6 月 18 日 (月)
会場 松濤園 御馳走一番館

関連行事

● ギャラリートーク

2018 年 (平成 30) 年 4 月 22 日 (日)、5 月 27 日 (日)
各日とも、午後 2 時から陶磁器館とあわせて案内

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」4月号、呉市 ○「市政だよりくれ」5月号、呉市 ○「市政だよりくれ」6月号、呉市 ○「あーと散歩」『週刊プレスネット』2018 (平成 30) 年 4 月 26 日号 ○「あのみちこのまちイベント情報」『海陽彩都』No.64、2018 (平成 30) 年 4 月発行

印刷物 (ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の 2 館共通)

- ポスター B2 判 10 枚
- チラシ A4 判 (両面刷り) 10,000 部
- 出品目録 A4 判 (両面刷り)

目的

朝鮮通信使には貴重な大陸文化を伝える使節としての側面もあったこと、そして各地で文化交流がおこなわれた様子を紹介した。

当時日本で最高の知識人であった新井白石と第 8 回の朝鮮通信使の正使であった趙泰億 (チョウ・テオク) との交流の様子が記された「正徳朝鮮聘使録附言」や、江戸時代後期に活躍した葛飾北斎が朝鮮通信使を描いた東海道五十三次「由井」などを紹介することにより、当時の日本の中で朝鮮通信使がいかに関心を持たれていたのかを紹介した。

展示内容

(1) 常設展示 一体感！御馳走一番一

朝鮮通信使船、等身大人形、本陣復元模型、七五三の膳・三汁十五菜の膳の模型を常設で展示することにより、朝鮮通信使の旅の様子、身に着けていた衣装、下蒲刈に来島した際の様子、もてなしの際の儀式料理の様子、実際に通信使へ出されていた食事の様子を年間を通して朝鮮通信使の学習が十分にできるように展示している。

(2) 記録に残る交流の様子

画題や工芸品の図案として好んで描かれた朝鮮通信使の紹介や、記録として詳細に描かれた朝鮮通信使の姿、福禅寺からの景色が日本一であると書に揮毫した扁額から、江戸時代最高の知識人と言われた新井白石との対話集である「星槎答響 (せいさとうきょう)・餘響 (よきょう)」も展示し、当時おこなわれた異文化交流の様子を紹介した。

(3) 朝鮮美術 一めでたい文様一

朝鮮通信使のふるさとである朝鮮半島の古美術を紹介した。朝鮮半島で生産された磁器に施された龍や鶴、鯉の文様などが、吉祥文様として用いられた歴史を紹介した。

(小川英史/沼田綿子)



展示風景



展示風景

松濤園 御馳走一番館 所蔵品展！「異文化交流と朝鮮通信使」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	資料名 <small>作者 資料名</small>	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法 <small>(縦×横、その他) cm または (縦×横×奥行) cm</small>	所蔵 <small>復元模型/複製 (所蔵先)</small>
-----	------------------------------	---------	-------	----	---	------------------------------------

松濤園 御馳走一番館の資料のうち、絵図等の複製については原資料の時代・年代を表記し、おもな材質、形状は複製した状態を表記している。記載する寸法は本財団で計測したものの。

(1) 常設展示 一体感！御馳走一番

1	朝鮮通信使船					1 / 10 復元模型
2	北前船					復元模型
3	等身大人形と衣装					復元模型
4	本陣復元模型と行列人形					復元模型
5	七五三の膳				膳・各 25.5×41.0×41.0	復元模型
6	三汁十五菜の膳				台・32.5×105.0×65.0	復元模型
7	朝鮮人御用信楽長野村焼物雛形控		紙・プリント	額装		複製 (個人蔵)
8	通信使接待用陶器茶碗類					復元模型
9	雨森芳洲肖像	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (芳洲会)
10	韓使聘禮図 (部分)	1837 (天保8) 年	紙・プリント	額装		複製 (福禅寺)
11	狩野益信 朝鮮通信使軟待図屏風 (部分)	17世紀	紙・プリント	額装		複製 (泉涌寺)

(2) 異文化交流と朝鮮通信使

12	色絵朝鮮通信使行列絵巻之図大皿	明治時代	磁器		高 7.0 口径 54.0	
13	色絵朝鮮通信使図大皿	幕末～明治時代	磁器		高 5.8 口径 40.0	
14	朝鮮人來朝覚備前御馳走船行烈図 (部分)	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (財団所蔵)
15	猪飼正毅 朝鮮人物旗仗轎輿之図 (部分)	1811 (文化8) 年	紙・プリント	額装		複製 (名古屋蓬左文庫)
16	朝鮮通信使行列図	江戸時代	紙本着色	卷子装	幅 24.3 長さ 710.0	
17	李邦彦揮毫、菅茶山扁額「日東第一景勝」扁額 (拓本)	1711 (正徳元) 年	紙本墨摺	額装		拓本 (福禅寺)
18	平安書林柳枝軒刊行 桑韓星槎答響	1719 (享保4) 年	紙本木版墨摺	冊子装	22.7×15.5	
19	平安書林柳枝軒刊行 桑韓星槎餘響	1719 (享保4) 年	紙本木版墨摺	冊子装	22.7×15.8	
20	正徳朝鮮聘使録附言	1793 (寛政5) 年	紙本木版墨摺	冊子装	27.3×18.0	
21	崔昔 (菊齋) 書	1807 (文化4) 年	紙本墨書	軸装	54.0×74.5	
22	朝鮮通信使軟待図屏風	江戸時代初期 (1600年代中頃)	紙本着色	屏風装		
23	文化度朝鮮通信使人物図巻 (部分)	1811 (文化8) 年	紙・プリント	額装		複製 (大阪歴史博物館)
24	英一蝶 朝鮮通信使小童図	18世紀	紙・プリント	額装		複製 (大阪歴史博物館)
25	尾張名所図会	1844 (天保15) 年	紙・プリント	額装		複製 (名古屋蓬左文庫)
26	葛飾北斎 東海道五十三次 十七 「由井」	江戸時代後期	紙・プリント	額装		複製 (東京富士美術館)
27	狩野常信 趙泰億像	1711 (正徳元) 年	紙・プリント	額装		複製 (国立中央博物館、韓国)

(3) 朝鮮美術 一めでたい文様一

28	文字絵 (8点)	朝鮮	紙本着色	額装		
29	染付龍文瓶	朝鮮 後期	磁器		高 31.5 口径 6.5 底径 15.5	
30	染付鶴文瓶	朝鮮 後期	磁器		高 25.9 口径 4.5 底径 10.0	
31	染付鳳凰文壺	朝鮮 後期	磁器		高 20.8 口径 12.2 底径 11.0	
32	染付鯉文鉢	朝鮮 後期	磁器		高 8.1 口径 17.1 底径 8.3	
33	李朝筆筒 (バンダジ)		木工		77.0×83.8×38.0	
34	李朝筆筒 (バンダジ)		木工		74.0×83.8×39.0	
35	李朝筆筒 (衣装箱)		木工		92.5×92.5×45.7	
36	朝鮮筆筒 (竹張文匣)		木工		46.5×81.7×32.5	
37	菓筆筒		木工		79.0×98.0×34.0	
38	李朝米櫃		木工		92.3×92.5×57.4	

目次

事業カレンダー

その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

普及事業・市民サービス・財団事業

運営アータ

利用案内

所蔵品展Ⅱ 朝鮮通信使の道

会期 2018（平成30）年6月20日（水）～9月3日（月）
会場 松濤園 御馳走一番館

関連行事

- ワークショップ「My うちわで夏を乗り切ろう！」
2018（平成30）年7月14日（土）～9月2日（日）
- ギャラリートーク
2018年（平成30）年7月22日（日）、8月26日（日）
各日とも、午前11時から陶磁器館とあわせて案内

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」7月号、呉市 ○「市政だよりくれ」
8月号、呉市 ○「市政だよりくれ」9月号、呉市 ○「あ
のまちこのまち イベント情報」『海陽彩都』No.64 2018
（平成30）年4月発行

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の2館共通）

- ポスター B2判 10枚
- チラシ A4判（両面刷り） 10,000部
- 出品目録 A4判（両面刷り）

目的

朝鮮通信使の旅路の中でも京都から江戸までの陸路に焦点を当て、所蔵品を中心に紹介した。朝鮮通信使の陸路の旅路の様子は、さまざまな形で描かれており、所蔵品の卷子装の行列図を中心に展示し、朝鮮通信使が陸路を大行列で行進する様子を紹介した。また、卷子装以外にも屏風や絵馬などに構図を工夫し描かれた朝鮮通信使の行列の様子を紹介した。

展示内容

（1）常設展示 一体感！御馳走一番

朝鮮通信使船、等身大人形、本陣復元模型、七五三の膳・三汁十五菜の膳の模型を常設で展示することにより、朝鮮通信使の旅程の様子、身に着けていた衣装、下蒲刈に来島した際の様子、もてなしの際の儀式料理の様子、実際に通信使へ出されていた食事の様子を年間を通して朝鮮通信使の学習が十分にできるように展示している。

（2）朝鮮通信使の道

朝鮮通信使が陸路を歩む様子を、卷子装の行列図を中心に展示を構成し紹介した。陸路を進む際は朝鮮通信使 400～500人に加え、対馬藩の役人が1,500人程度つき、2,000人を超える人数になり、行列を作り進んだ。当時の絵師が陸路を歩む行列の様子を表現するために卷子装として、数メートルに及ぶ行列図を描いた。展示ではその長さを体感できるよう10メートルを超える行列図の大部分を展示公開し、紹介した。

（3）朝鮮美術 一螺鈿細工の魅力ー

螺鈿螺鈿箱や青貝螺鈿花台を展示し、朝鮮半島における螺鈿細工の歴史を紹介した。また、十長生（じっちょうせい）図衝立を展示し、長寿を象徴する文様が10種集まり構成される「十長生図」という図案を紹介した。

（小川英史／沼田綿子）



展示風景



展示風景

松濤園 御馳走一番館 所蔵品展Ⅱ 「朝鮮通信使の道」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	資料名 <small>作者 資料名</small>	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法 <small>(縦×横、その他) cm または (縦×横×奥行) cm</small>	所蔵 <small>復元模型/複製 (所蔵先)</small>
-----	------------------------------	---------	-------	----	---	------------------------------------

松濤園 御馳走一番館の資料のうち、絵図等の複製については原資料の時代・年代を表記し、おもな材質、形状は複製した状態を表記している。記載する寸法は本財団で計測したものの。

(1) 常設展示 一体感！御馳走一番

1	朝鮮通信使船					1 / 10 復元模型
2	北前船					復元模型
3	等身大人形と衣装					復元模型
4	本陣復元模型と行列人形					復元模型
5	七五三の膳				膳・各 25.5×41.0×41.0	復元模型
6	三汁十五菜の膳				台・32.5×65.0×105.0	復元模型
7	朝鮮人御用信楽長野村焼物雛形控		紙・プリント	額装		複製 (個人蔵)
8	通信使接待用陶器茶碗類					復元模型
9	雨森芳洲肖像	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (芳洲会)
10	韓使聘禮図 (部分)	1837 (天保8) 年	紙・プリント	額装		複製 (福禅寺)
11	狩野益信 朝鮮通信使軟待図屏風 (部分)	17世紀	紙・プリント	額装		複製 (泉涌寺)

(2) 異文化交流と朝鮮通信使

12	蒔絵朝鮮通信使花見用堤重	江戸時代後期		漆工	30.8×31.4×17.4	
13	鞆の浦文庫	江戸時代後期		漆工		
14	朝鮮人來朝覚備前御馳走船行烈図 (部分)	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (財団所蔵)
15	弥太郎 朝鮮通信使來朝図説	1855 (安政2) 年	紙本着色	卷子装	幅 25.5× 長さ 817.0	
16	対馬藩 朝鮮国信使絵巻 (文化度) (部分)	19世紀	紙・プリント	パネル		複製 (長崎県立対馬歴史民俗資料館)
17	狩野元信 朝鮮使節來朝図	室町時代後期	紙本着色	軸装	41.8×54.0	
18	恵正 朝鮮通信使清道旗持騎乗図	江戸時代後期	紙本着色	軸装	82.0×13.5	
19	市川君圭 朝鮮通信使富士称賛図	1807 (文化4) 年	紙本墨書	軸装		
20	近藤清信 唐人行列之絵図	18世紀初頭	紙・プリント	額装		複製 (大英博物館)
21	奥村政信 朝鮮人來朝図	江戸時代中期	紙・プリント	額装		複製 (東京国立博物館)
22	羽川藤永 朝鮮人來朝図	江戸時代中期	紙・プリント	額装		複製 (個人)
23	洛中洛外図屏風 (今井町本) (部分)	江戸時代中期以降	紙・プリント	額装		複製 (個人)
24	長故□□ 朝鮮通信使行列図 絵馬	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (沼鉾神社)
25	朝鮮通信使行列図 大絵馬	江戸時代後期	紙・プリント	額装		複製 (満願寺)

(3) 朝鮮美術 一めでたい文様一

26	李朝画衝立	朝鮮	紙本着色	衝立	90.1×170.5	
27	李朝螺鈿箱	朝鮮	漆工		34.3×42.3×43.2	
28	李朝螺鈿箱	朝鮮	漆工		24.1×41.5×22.8	
29	青貝螺鈿花台	朝鮮	漆工		34.9×31.9×22.4	
30	李朝筆筒 (パンダジ)		木工		77.0×83.8×38.0	
31	李朝筆筒 (パンダジ)		木工		74.0×83.8×39.0	
32	李朝筆筒 (衣装箱)		木工		92.5×92.5×45.7	
33	朝鮮筆筒 (竹張文匣)		木工		46.5×81.7×32.5	
34	葉筆筒		木工		79.0×98.0×34.0	
35	李朝米櫃		木工		92.3×92.5×57.4	

No.24の作者名は、絵馬に記された「本絵師長故□□筆」の墨書による。□は判読不明部分。

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)
■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

所蔵品展Ⅲ 朝鮮通信使と船の旅

会期 2018（平成30）年9月5日（水）～11月26日（月）
会場 松濤園 御馳走一番館

関連行事

●ギャラリートーク

2018年（平成30）年9月30日（日）、11月18日（日）
各日とも、午後2時から陶磁器館とあわせて案内

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」10月号、呉市 ○「市政だよりくれ」
11月号、呉市 ○「あのみちこのまち イベント情報」『海
陽彩都』No.64、2018（平成30）年4月発行

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の2館共通）

- ポスター B2判 10枚
- チラシ A4判（両面刷り） 10,000部
- 出品目録 A4判（両面刷り）

目的

釜山から京都まで続く朝鮮通信使の船の旅に焦点を当て紹介した。朝鮮通信使は釜山から朝鮮通信使船6隻で出航し、瀬戸内海を通り大阪で西国諸藩が用意した豪華絢爛な川御座船に乗りかえ京都まで旅をした。瀬戸内海での旅路の様子は、「朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図」を全巻展示し紹介した。また他館所蔵資料の複製パネルを作成し、所蔵原資料とあわせて、釜山からの船旅を順を追って構成した。

展示内容

（1）常設展示 一体感！御馳走一番

朝鮮通信使船、等身大人形、本陣復元模型、七五三の膳・三汁十五菜の膳の模型を常設で展示することにより、朝鮮通信使の旅の様子、身に着けていた衣装、下蒲刈に来島した際の様子、もてなしの際の儀式料理の様子、実際に通信使へ出されていた食事の様子を年間を通して朝鮮通信使の学習が十分にできるように展示している。

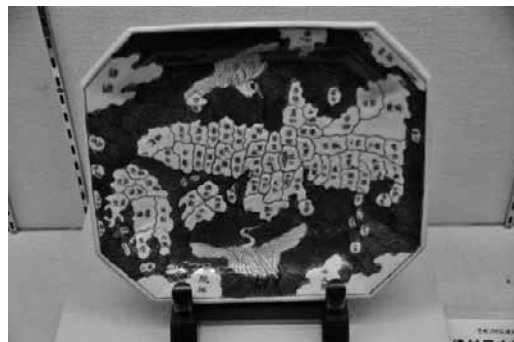
（2）朝鮮通信使と船の旅

朝鮮通信使の船の全容を知る手がかりとして、当時の日本人が持っていた地理的世界観が描かれた伊万里の地図皿を最初に紹介した。続いて釜山からの旅路の様子は、ユネスコ「世界の記憶」に登録されている大阪歴史博物館所蔵「釜山浦富士図」の複製パネルを先頭に構成。瀬戸内海の航海の様子は、所蔵資料でユネスコ「世界の記憶」に登録された「朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図」を全巻展示し、紹介した。大阪で船を乗りかえ京都までのぼる川御座船での旅の様子は、所蔵資料と大阪歴史博物館所蔵の「朝鮮通信使御座船図屏風」の複製パネルを作成し紹介した。

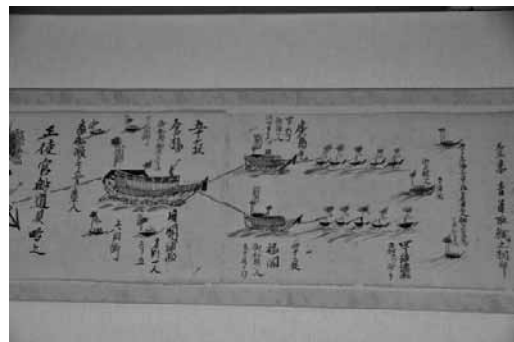
（3）朝鮮美術 一螺鈿細工・狩猟図一

螺鈿細工と狩猟図を通し紹介した。螺鈿細工とバンダジなどの資料を展示し、あわせて朝鮮王朝の螺鈿細工の歴史を説明キャプションを用い紹介した。また、狩猟図の歴史の変遷と表現の移り変わりをパネル説明を用い紹介し、朝鮮王朝時代における狩猟図の意味合いなどを紹介した。

（小川英史・沼田綿子）



展示風景



展示風景

松濤園 御馳走一番館 所蔵品展Ⅲ 「朝鮮通信使と船の旅」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	資料名 <small>作者 資料名</small>	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法 <small>(縦×横、その他) cm または (縦×横×奥行) cm</small>	所蔵 <small>復元模型/複製 (所蔵先)</small>
-----	------------------------------	---------	-------	----	---	------------------------------------

松濤園 御馳走一番館の資料のうち、絵図等の複製については原資料の時代・年代を表記し、おもな材質、形状は複製した状態を表記している。記載する寸法は本財団で計測したものの。

(1) 常設展示 一体感！御馳走一番

1	朝鮮通信使船					1 / 10 復元模型
2	北前船					復元模型
3	等身大人形と衣装					復元模型
4	本陣復元模型と行列人形					復元模型
5	七五三の膳				膳・各 25.5×41.0×41.0	復元模型
6	三汁十五菜の膳				台・32.5×65.0×105.0	復元模型
7	朝鮮人御用信楽長野村焼物雛形控		紙・プリント	額装		複製 (個人蔵)
8	通信使接待用陶器茶碗類					復元模型
9	雨森芳洲肖像	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (芳洲会)
10	韓使聘禮図 (部分)	1837 (天保8) 年	紙・プリント	額装		複製 (福禅寺)
11	狩野益信 朝鮮通信使款待図屏風 (部分)	17 世紀	紙・プリント	額装		複製 (泉涌寺)

(2) 朝鮮通信使と船の旅

12	染付日本地図文大皿	1830-60 年代	磁器		高 7.5 口径 47.6 底径 26.0	
13	染付日本地図文角大皿	1830-60 年代	磁器		高 4.6 口径 33.0×27.5 底径 17.0	
14	金彩染付朝鮮通信使船図皿	江戸時代末期-明治時代	磁器 (5枚1組)		高 3.3 径 18.5	
15	李聖麟 槎路勝区図	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (国立中央博物館、韓国)
16	狩野典信 釜山浦富士図	18 世紀	紙・プリント	パネル		複製 (大阪歴史博物館)
17	嶋田甚之丞 対州御城下之図	1811 (文化8) 年	紙・プリント	パネル		複製 (佐賀県立名護屋城博物館)
18	藍嶋図	1748 (延享5) 年	紙・プリント	パネル		複製 (岩国徴古館)
19	朝鮮人來朝覚備前御馳走船行烈図	1748 (延享5) 年	紙本着色	卷子装	幅 14.5 長さ 824.9	
20	六十余州名所図会 備後 阿武門観音堂	江戸時代	紙本木版色摺	額装	26.5×36.5	
21	弥太郎 朝鮮通信使來朝図説	1855 (安政2) 年	紙本着色	卷子装	幅 25.5 長さ 817.0	
22	朝鮮通信使御樓船図屏風	18 世紀	紙・プリント			複製 (大阪歴史博物館)
23	朝鮮通信使大坂河口之図屏風		紙本着色	屏風装	118.0×276.0	
24	狩野探信 朝鮮通信使船団図屏風	江戸時代中期	紙・プリント	額装		複製 (個人)
25	朝鮮通信使上関來航図	18 世紀	紙・プリント	額装		複製 (超専寺)
26	朝鮮人渡海船之図	1811 (文化8) 年	紙・プリント	額装		複製 (大阪歴史博物館)

(3) 朝鮮美術 一螺鈿細工・狩猟図一

27	狩猟図	朝鮮	紙本着色	額装		
28	螺鈿花台	朝鮮	漆工		17.8×45.0×30.2	
29	青貝螺鈿花台 (大)	朝鮮	漆工		21.5×56.7×35.1	
30	青貝螺鈿花台 (小)	朝鮮	漆工		20.2×45.3×31.2	
31	李朝筆筥 (バンドジ)		木工		77.0×83.8×38.0	
32	李朝筆筥 (バンドジ)		木工		74.0×83.8×39.0	
33	李朝筆筥 (衣装箱)		木工		92.5×92.5×45.7	
34	朝鮮筆筥 (竹張文匣)		木工		46.5×81.7×32.5	
35	葉筆筥		木工		79.0×98.0×34.0	
36	李朝米櫃		木工		92.3×92.5×57.4	

目次

事業カレンダー

展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

普及事業・市民サービス・財団事業

運営アータ

利用案内

所蔵品展Ⅳ 描かれた通信使と来日の影響

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業 市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

会期 2018 (平成30) 年11月28日 (水) ~ 2019 (平成31) 年1月28日 (月)

会場 松濤園 御馳走一番館

関連行事

●ギャラリートーク

2018年 (平成30) 年12月9日 (日)、2019 (平成31) 年1月13日 (日)

各日とも、午前11時から陶磁器館とあわせて案内

おもな関連記事、番組など

○「描かれた通信使と来日の影響 「富嶽百景」など展示」
民団新聞、2018年12月19日 ○「市政だよりくれ」12月号、呉市
○「市政だよりくれ」1月号、呉市 ○「あのまちこのまち イベント情報」『海陽彩都プラス No.1』
2018 (平成30) 年12月発行

印刷物 (ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の2館共通)

- ポスター B2判 10枚
- チラシ A4判 (両面刷り) 10,000部
- 出品目録 A4判 (両面刷り)

目的

朝鮮通信使の来日によって日本にもたらされた文化的影響について紹介した。江戸時代、外交を制限していた中で外国からの使節として来日した朝鮮通信使は画題として好まれ数々の作品に描かれた。また、朝鮮通信使は学者や医者、画家などを含む文化使節団としての顔を持ち、当時の日本の文化に大きな影響を与えたことを紹介した。

展示内容

(1) 常設展示 一体感！御馳走一番

朝鮮通信使船、等身大人形、本陣復元模型、七五三の膳・三汁十五菜の膳の模型を常設で展示することにより、朝鮮通信使の旅の様子、身に着けていた衣装、下蒲刈に来島した際の様子、もてなしの際の儀式料理の様子、実際に通信使へ出されていた食事の様子を年間を通して朝鮮通信使の学習が十分にできるように展示している。

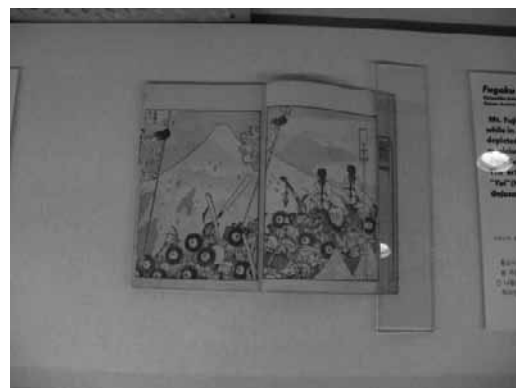
(2) 描かれた通信使と来日の影響

葛飾北斎の富嶽百景「来朝の不二」や、庶民が朝鮮通信使を見学する際、行列に列する人々の役割や順番などをあらかじめ知る手引きとして使用された「朝鮮人大行列記大全」などを展示し、庶民の朝鮮通信使への関心の高さを紹介した。また、朝鮮通信使行列を目にすることによって、日本各地でその行列を真似た祭礼が起こった。その様子が描かれた所蔵資料の「朝鮮通信使行列御祭之図」を紹介した。

(3) 朝鮮美術 一朝鮮民画一

朝鮮磁器と朝鮮民画を展示した。朝鮮磁器は、所蔵品の中からおめでたい文様が描かれたものを紹介し、朝鮮民画は鵲虎図 (じゃっこず) を紹介し、絵に込められた風刺の意味や、民画独特の表現の多様性を紹介した。

(小川英史・沼田綿子)



展示風景



展示風景

松濤園 御馳走一番館 所藏品展Ⅳ 「描かれた通信使と来日の影響」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	資料名 <small>作者 資料名</small>	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法 <small>(縦×横、その他) cm または (縦×横×奥行) cm</small>	所蔵 <small>復元模型/複製 (所蔵先)</small>
-----	------------------------------	---------	-------	----	---	------------------------------------

松濤園 御馳走一番館の資料のうち、絵図等の複製については原資料の時代・年代を表記し、おもな材質、形状は複製した状態を表記している。記載する寸法は本財団で計測したもの。

(1) 常設展示 一体感！御馳走一番

1	朝鮮通信使船					1 / 10 復元模型
2	北前船					復元模型
3	等身大人形と衣装					復元模型
4	本陣復元模型と行列人形					復元模型
5	七五三の膳				膳・各 25.5×41.0×41.0	復元模型
6	三汁十五菜の膳				台・32.5×65.0×105.0	復元模型
7	朝鮮人御用信楽長野村焼物雛形控		紙・プリント	額装		複製 (個人蔵)
8	通信使接待用陶器茶碗類					復元模型
9	雨森芳洲肖像	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (芳洲会)
10	韓使聘禮図 (部分)	1837 (天保8) 年	紙・プリント	額装		複製 (福禅寺)
11	狩野益信 朝鮮通信使接待図屏風 (部分)	17世紀	紙・プリント	額装		複製 (泉涌寺)

(2) 描かれた通信使と来日の影響

11	色絵朝鮮通信使行列絵巻之図大皿	明治時代	磁器		高 7.0 口径 54.0	
12	色絵朝鮮通信使図大皿	幕末 - 明治時代	磁器		高 5.8 口径 40.0	
13	朝鮮人來朝覚備前御馳走船行烈図 (部分)	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (財団所蔵)
14	葛飾北斎 富嶽百景 來朝の不二	1875 (明治8) 年	紙本墨摺	冊子装	22.6×15.8	
15	清道朝鮮人大行列記大全	1748 (延享5) 年	紙本墨摺	冊子装	22.5×16.0	
16	宝永華洛細見図 第十巻	江戸時代中期	紙本墨摺	冊子装	26.5×19.0	
17	朝鮮通信使行列図巻		紙本木版	卷子装	24.3×710.0	
18	色絵朝鮮通信使滄洲漢詩入り保命酒徳利	幕末 - 明治時代	陶器		高 22.5 胴 13.5	
19	保命酒徳利		陶器		高 17.0	
20	朝鮮通信使行列御祭之図	江戸時代	紙本木版墨摺筆彩	卷子装	幅 39.3 長さ 242.0	
21	長谷川香苔「日東第一景勝」琴棋書画図	1952 (昭和27) 年	紙本着色	軸装	123.3×68.9	
22	長谷川香苔「日東第一景勝」古物賞玩図	1952 (昭和27) 年	紙本着色	軸装	129.6×67.7	
23	長谷川香苔「日東第一景勝」仙酔島図	1952 (昭和27) 年	紙本着色	軸装	135.7×67.7	
24	「日東第一景勝」鞆浦風景図		紙本着色	軸装	131.2×67.6	
25	「日東第一景勝」僧侶ノ図		紙本着色	軸装	131.6×67.5	
26	文化度朝鮮通信使人物図巻 (部分)	1811 (文化8) 年	紙・プリント	額装		複製 (大阪歴史博物館)
27	見立唐人行列	1797-98 (寛政9-10) 年	紙・プリント	額装		複製 (ボストン美術館)
28	葛飾北斎 東海道五十三次 十七 「由井」	江戸時代後期	紙・プリント	額装		複製 (東京富士美術館)

(3) 朝鮮美術 一朝鮮民画一

29	鶴虎図	朝鮮	紙本着色	額装	111.3×54.0	
30	鶴虎図	朝鮮	紙本着色	額装	111.4×54.1	
31	鶴虎図	朝鮮	紙本着色	額装	92.2×61.9	
32	鶴虎図	朝鮮	紙本着色	額装	92.8×54.6	
33	染付宝文壺	朝鮮 後期	磁器		高 11.0 口径 9.0 底径 8.5	
34	染付福字文小皿	朝鮮 後期	磁器		高 9.8 口径 15.0 底径 8.5	
35	染付福寿文壺	朝鮮 中期	磁器		高 21.0 口径 11.8 底径 12.5	
36	染付福寿文鉢	朝鮮 後期	磁器		高 12.5 口径 26.5×24.5 底径 11.9	
37	李朝筆筒 (パンダジ)		木工		77.0×83.8×38.0	
38	李朝筆筒 (パンダジ)		木工		74.0×83.8×39.0	
39	李朝筆筒 (衣装箱)		木工		92.5×92.5×45.7	
40	朝鮮筆筒 (竹張文匣)		木工		46.5×81.7×32.5	
41	葉筆筒		木工		79.0×98.0×34.0	
42	李朝米櫃		木工		92.3×92.5×57.4	

目次

事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所藏品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

所蔵品展Ⅴ 朝鮮通信使と江戸時代の心

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業（市民サービス・財団事業）

■ 運営データ

■ 利用案内

会期 2019（平成31）年1月30日（水）～4月15日（月）
会場 松濤園 御馳走一番館

関連行事

- ギャラリートーク
2019（平成31）年2月17日（日）、3月17日（日）
各日とも、午前11時から陶磁器館とあわせて案内

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」2月号、呉市 ○「市政だよりくれ」3月号、呉市 ○「市政だよりくれ」4月号、呉市 ○「あのまちこのまち イベント情報」『海陽彩都プラス』No.1、2018（平成30）年12月発行

印刷物（ポスター、チラシは陶磁器館、御馳走一番館の2館共通）

- ポスター B2判 10枚
- チラシ A4判（両面刷り） 10,000部
- 出品目録 A4判（両面刷り）

目的

将軍の襲職祝賀や慶事の使節として来日した朝鮮通信使を当時の日本人がどのようにもてなしていたかを紹介した。朝鮮通信使が来日すると日本各地で盛大な饗応がおこなわれ、担当する各藩は藩の威信をかけてもてなしをした。当時、朝鮮通信使をもてなすためにどのような心遣いがなされていたのかを紹介した。

展示内容

（1）常設展示 一体感！御馳走一番

朝鮮通信使船、等身大人形、本陣復元模型、七五三の膳・三汁十五菜の膳の模型を常設で展示することにより、朝鮮通信使の旅の様子、身に着けていた衣装、下蒲刈に来島した際の様子、もてなしの際の儀式料理の様子、実際に通信使へ出されていた食事の様子を年間を通して朝鮮通信使の学習が十分にできるように展示している。

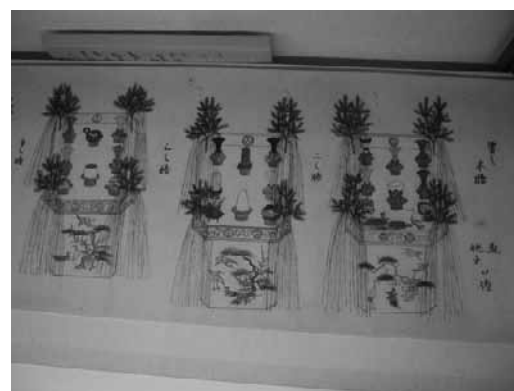
（2）朝鮮通信使と江戸の心

朝鮮通信使が来日の楽しみとしていた保命酒の紹介から、朝鮮通信使行列図により朝鮮通信使が来日した際の様子を紹介した。所蔵資料の「祝言膳部次第」を展示することにより、盛り付け方などを失敗しないように細かく描かれた様子を紹介した。また、朝鮮通信使をもてなす際の資料として記録された他館所蔵の複製パネル「朝鮮人物旗仗輜輿之図」もあわせて展示した。料理の盛り付け方や材料などが詳しく記録された資料等を通して、朝鮮通信使をもてなす当時の迎接役に当たった人々の心遣いを紹介した。

（3）朝鮮美術 一両班（ヤンバン）の暮らしから

朝鮮王朝時代の知識階級であった両班が使った文具などを展示し、その生活について紹介した。朝鮮民画の中からは狩猟図と三国志が交互に描かれた屏風を展示し、当時の生活の中にあつた絵画を紹介した。

（小川英史・沼田綿子）



展示風景



展示風景

松濤園 御馳走一番館 所蔵品展Ⅴ 「朝鮮通信使と江戸時代の心」 出品リスト

*無表記は財団所蔵

No.	資料名 <small>作者 資料名</small>	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法 <small>(縦×横、その他) cm または (縦×横×奥行) cm</small>	所蔵 <small>復元模型/複製 (所蔵先)</small>
-----	------------------------------	---------	-------	----	---	------------------------------------

松濤園 御馳走一番館の資料のうち、絵図等の複製については原資料の時代・年代を表記し、おもな材質、形状は複製した状態を表記している。記載する寸法は本財団で計測したものを。

(1) 常設展示 一体感！御馳走一番

1	朝鮮通信使船					1 / 10 復元模型
2	北前船					復元模型
3	等身大人形と衣装					復元模型
4	本陣復元模型と行列人形					復元模型
5	七五三の膳				膳・各 25.5×41.0×41.0	復元模型
6	三汁十五菜の膳				台・32.5×65.0×105.0	復元模型
7	朝鮮人御用信楽長野村焼物雛形控		紙・プリント	額装		複製 (個人蔵)
8	通信使接待用陶器茶碗類					復元模型
9	雨森芳洲肖像	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (芳洲会)
10	韓使聘禮図 (部分)	1837 (天保8) 年	紙・プリント	額装		複製 (福禅寺)
11	狩野益信 朝鮮通信使欵待図屏風 (部分)	17世紀	紙・プリント	額装		複製 (泉涌寺)

(2) 朝鮮通信使と江戸の心

12	保命酒大徳利	江戸時代後期	陶器		53.8×31.8×31.8	
13	保命酒徳利 (大)	江戸時代後期-明治時代	陶器		36.2×14.7×14.7	
14	保命酒徳利 (小)	江戸時代後期-明治時代	陶器		30.2×12.2×12.2	
15	備前徳利		陶器		21.9×11.6×11.6	
16	朝鮮人來朝寛備前御馳走船行列図 (部分)	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (財団所蔵)
17	朝鮮通信使行列図	江戸時代	紙本着色	卷子装	幅 24.3 長さ 710.0	
18	祝言膳部次第	1628 (寛永5) 年	紙本着色	卷子装	幅 35.3 長さ 768.0	
19	朝鮮人御饗応献立	1748 (延享5) 年	紙本墨書	冊子装	23.0×15.6	
20	猪飼正毅 朝鮮人物旗仗輜輿之図 (部分)	1811 (文化8) 年	紙・プリント	額装		複製 (名古屋市蓬左文庫)
21	趙景安 二行書	江戸時代中期	紙本墨書	軸装	94.3×32.5	
22	玉蘊 竹の図	江戸時代後期	紙本墨画	軸装	129.0×51.0	
23	朝鮮人來朝物語	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (京都大学付属図書館)
24	韓使饗饌図		紙・プリント	額装		複製 (慶應義塾大学図書館)
25	草場瑠川 津島日記	1811 (文化8) 年	紙・プリント	額装		複製 (佐賀大学付属図書館)
26	卞璞 倭館図	1783 (天明3) 年	紙・プリント	額装		複製 (国立中央博物館、韓国)
27	赤間閑信使屋并近辺図	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (岩国古館)
28	李聖麟 槎路勝区図	1748 (延享5) 年	紙・プリント	額装		複製 (国立中央博物館、韓国)
29	英一蝶 朝鮮通信使小童図	18世紀	紙・プリント	額装		複製 (大阪歴史博物館)

(3) 朝鮮美術 一両班 (ヤンバン) の暮らしから

30	李朝屏風	朝鮮	紙本着色	屏風装	65.9×277.5	
31	長台机	朝鮮	木工		26.1×89.9×22.8	
32	大筆 (2本)	朝鮮	木工		480×75×75 (大) 360×39×39 (小)	
33	筆筒	朝鮮	木工		21.2×17.5×17.5	
34	古墨「十大高僧」(10個組)	朝鮮	墨		2.0×21.1×29.2	
35	古墨「生套墨」(12個組)	朝鮮	墨		2.4×20.5×29.5	
36	古墨「肖蔵墨」(12個組)	朝鮮	墨		2.2×21.0×31.8	
37	李朝筆筒 (バンドジ)		木工		77.0×83.8×38.0	
38	李朝筆筒 (バンドジ)		木工		74.0×83.8×39.0	
39	李朝筆筒 (衣装箱)		木工		92.5×92.5×45.7	
40	朝鮮筆筒 (竹張文匣)		木工		46.5×81.7×32.5	
41	葉筆筒		木工		79.0×98.0×34.0	
42	李朝米櫃		木工		92.3×92.5×57.4	

目次

事業カレンダー

展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

普及事業・市民サービス・財団事業

運営アータ

利用案内

通年展示

運営する施設のうち、地域の歴史や所蔵品に関連する貴重な資料については年間を通して展示公開している。その展示内容とおもな展示資料を下記にまとめた。

□三之瀬御本陣芸術文化館の通年展示—須田国太郎思い出の部屋

須田国太郎愛用の品々を展示。油絵道具一式、イーゼルなどの油彩画の道具や、戸外スケッチに出かける際に須田が用いた固形水彩、パレットなどの愛用画材や関連資料を紹介している。また、スペインに留学していた時に使用したトランクや、戸外スケッチの時にいつもかぶっていた帽子などの身の回りの品を紹介。さらに、須田国太郎が好んで収集していた 715 点のグリコのおまけのおもちゃを展示している。

三之瀬御本陣芸術文化館 須田国太郎思い出の部屋・展示室内その他 通年展示資料一覧

*無表記は財団所蔵

No.	資料名 (須田国太郎遺品・愛用品資料)	時代・年代など	おもな材質	形状	寸法 (縦×横) cm または (縦×横×奥行き) cm	所蔵
<small>須田国太郎遺品・愛用品資料のうち、写真資料以外の製造年代、形状は省略する。また、記載する寸法は本財団で計測したものの。写真は複製した際の寸法。</small>						
1	江崎グリコ株式会社グリコのおまけのおもちゃ (715点)	1960年代～1900年代	プラスチック他		—	
2	須田国太郎肖像写真 (田中真知男撮影)	1954 (昭和29)年	紙・プリント	パネル	54.0×43.0	
3	須田国太郎肖像写真 *第11回独立美術展会場で撮影されたもの (部分)	1941 (昭和16)年	紙・プリント	パネル	43.0×54.0	
4	パレット (油絵用) 絵具つき		プラスチック板		49.0×37.5	
5	二つ折り持ち運び用パレット (油絵用)		木製		36.0×25.0	
6	WINSOR & NEWTON 社製 油壺 (蓋つき)		陶器		13.0×8.0	
7	WINSOR & NEWTON 社製 油壺 (蓋なし)		陶器		12.5×8.5	
8	筆立 (小)		陶器		13.5×10.0×10.0	
9	筆立 (大)		木製		1.0×25.0	
10	筆類: 18本 *鳥の羽3本、つけペン1本、鉛筆2本、筆12本		木製			
11	筆類: 筆9本、つけペン1本、鉛筆4本、ナイフ1本		木製他		10.0～30.0	
12	絵具箱 (油絵具7本)		紙箱		13.0×8.0	
13	絵具箱 (油絵具・レンチ)		金属製箱		4.5×36.0×13.0	
14	油絵具一式		木箱		11.5×42.5×30.5	
15	絵具箱 *筆5本、絵具25本、油壺1本、油入1つ		木製		8.0×40.0×16.0	
16	書見台		木製		20.0×30.0×20.0	
17	WINSOR & NEWTON 社製 固形水彩付パレット (小)		金属製		1.5×21.0×13.0	
18	WINSOR & NEWTON 社製 固形水彩付パレット (大)		金属製		1.5×23.0×22.0	
19	東京大日本文具株式会社製 Pentel 水彩絵具セット 10本		紙箱			
20	トランク		革張り、金属		34.0×51.0×96.0	
21	革帽子		革		16.0×30.0×33.0	
22	イーゼル		木製		193.0×73.0×58.0	
23	須田国太郎撮影 渡欧写真 (複製) (ダロカ・スペイン)	1922 (大正11)年	紙・プリント	パネル	30.0×39.0	
24	須田国太郎撮影 渡欧写真 (複製) *バレンシア / ドスアグアス侯爵邸 (スペイン)	1922 (大正11)年	紙・プリント	パネル	39.0×30.0	
25	須田国太郎撮影 渡欧写真 (複製) *バレンシアの河東 (スペイン)	不明	紙・プリント	パネル	39.0×30.0	
26	須田国太郎撮影 渡欧写真 (複製) *サント・ドミンゴ (スペイン)	1921 (大正10)年 11月17日	紙・プリント	パネル	39.0×30.0	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

□三之瀬御本陣芸術文化館の通年展示ーエントランス、ロビー、その他

三之瀬を含む下蒲刈の歴史・文化を写真パネルで年間を通して展示している。また、近世の貴人の様子を垣間見る目的として、嫁入り時に使用された姫駕籠を始め、甲冑や火縄銃などの武具などを紹介している。

(1) 下蒲刈の文化と歴史

1748（延享5）年来日の第10回朝鮮通信使一行の画員・李聖麟が、釜山から江戸までの路程を描いた榎路勝区図のうち、蒲刈を描いた図（複製）や当時の地図、福島雁木についてなど、歴史資料を展示。また、本陣の変遷を明治や昭和初期の三之瀬付近の写真で紹介している。

(2) 自然と歴史・文化にもとづくまちづくり～下蒲刈ガーデンアイランド構想の実現～

江戸時代に朝鮮通信使を迎えるに当たり詠まれた『蒲刈八景』をテーマに整備された下蒲刈島の公共デザインを紹介。その八景のうちの一つ、白崎園を展示パネルで紹介。白崎園に設置され島のシンボルとなった、陶芸家の今井真正のモニュメント作品「生・土・火・知・空・水一」や白崎園内に建つ頼山陽の詩碑を紹介している。

(3) 江戸時代の甲冑、近世の姫駕籠、火縄銃、薙刀

福島正則が幕府でこの地に本陣を設けて以降、三之瀬が重要な寄港地であった頃の様子を垣間見るため、江戸時代の甲冑を始め火縄銃、薙刀などの武具類を展示している。また彦根藩、井伊家への輿入れの際に使用されたとされる姫駕籠や、漆器で装飾された徳川の葵紋の入った硯箱などを紹介している。

三之瀬御本陣芸術文化館 エントランス、ロビー、その他 通年展示資料一覧

*無表記は財団所蔵

No.	資料名	時代・年代など	おもな材質	寸法（縦×横）cm または（縦×横×奥行）cm	所蔵
-----	-----	---------	-------	----------------------------	----

(1)(2)の下蒲刈の紹介コーナーを除き、(3)の展示資料を記す。甲冑の材質、寸法は省略。火縄銃、火縄銃立の材質は省略。

(3) 江戸時代の甲冑、近世の姫駕籠、火縄銃、薙刀

1	鉄金箔押亀甲金鎖繫二枚胴具足	江戸時代中期			
2	明珍信家作 紺糸威二枚胴具足鉄鑄地六十二間四方白筋兜付	江戸時代			
3	姫駕籠	制作年不詳	漆工	119.0×127.0×79.0	
4	並河源以作 火縄銃	制作年不詳		全長 108.8 銃身長 75.8 口径 1.6	
5	火縄銃	制作年不詳		全長 115.4 銃身長 84.5 口径 1.4	
6	火縄銃立	制作年不詳	漆工	74.5×67.5×25.8	
7	吉信作 凧鉈	制作年不詳	漆工	鞘付全長 229.0 本体全長 221.5	
8	槍	制作年不詳	刀剣	鞘付全長 280.0 本体全長 276.0	
9	鷹の図硯（松方家伝来）	明治時代	漆工	2.2×10.2×11.5	

記載する寸法は2019（平成31）年度に本財団で計測したもの。火縄銃の寸法表記は全長、銃身長、口径の順。凧鉈、槍の寸法表記は鞘付全長、本体全長の順。

なお、薙刀の資料名は当財団の登録資料上の漢字表記とした。

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

□松濤園の通年展示 あかりの館

山口県上関町から移築した旧吉田邸を活用し、世界の珍しい灯火器のコレクションを展示している。呉市有形文化財に指定されている旧吉田邸は移築前の姿を残し、江戸時代からの古い商家の造りを実際に体感しながら見ることができる。その中で、灯火器も含めた昔の暮らしの道具も紹介し、歴史を感じる展示をおこなっている。

(1) 日本のあかり

提灯や行灯など、かつて日本で実際に使われていた灯火器を、旧吉田邸の趣ある座敷を利用して展示している。提灯も行燈もそれぞれ、用途が違えば形が違うことを、並べて展示することで紹介している。また、多彩な和ろうそくも紹介している。

(2) 世界のあかり

世界有数の灯火器コレクターである高田一郎氏のコレクションを中心に、紀元前のテラコッタランプや、電気が普及するまで利用されていたオイルランプを紹介している。光を灯す道具がいかに発展してきたかを総覧できるように紹介している。

(3) 旧吉田邸コレクション

移築の際に、建物とともに譲り受けた貴重な家具や資料を紹介。家具の中には、豪商ならではの帳場の設えなどを紹介している。吉田家に入りのあった長州ゆかりの幕末志士の遺した資料などを一部紹介している。

松濤園 あかりの館 通年展示資料概要（*各コーナーごとのおもな資料）

(1) 日本のあかり	おもな資料：置き行灯四角枕元行灯、置き行灯六角枕元行灯、置き行灯面取形枕元行灯、〈置き行灯〉名古屋行灯、〈置き行灯〉円周行灯、鉄製あこだ形吊り灯籠、鉄製吊り灯籠、鉄製六角吊り灯籠、など
(2) 世界のあかり	おもな資料：テラコッタ、石ランプ、人面ペンダント油灯、鳥ランプ、カルダン時計ランプ、クリックライト（5灯式）、オイルランプ、シナンブラ冠ランプ、シナンブラランプ、キャンドルスタンド（祭壇用）、など
(3) 旧吉田邸コレクション	おもな資料：帳場家具一式、衣裳箆笥一式、長火鉢、ダイスけやき（大）、茶釜（大）、火鉢、吉田健造墓名、石臼、階段箆笥（箱階段）、など



□松濤園の通年展示—復元蒲刈島御番所

江戸時代に下蒲刈島に設置された番所を、現存している山口県上関町の番所を参考にして復元している。江戸時代に海駅に指定され、瀬戸内海の交通の要衝として重要な港であった下蒲刈島のことを紹介している。

(1) 高札場

幕府の統治上の基本的な法及び重要な施策が掲示された高札場を再現している。ここでは特に、朝鮮通信使来島にあたっての特別な対応を掲示し、朝鮮通信使来島がいかに幕府や藩にとって一大事であったかを紹介している。

(2) 弓・鉄砲・道具立て

弓や鉄砲の他に、突棒・ガリ棒（袖搦み）・サス棒（刺又）の三つ道具と消火用水桶の備えを再現して展示している。番所は、海・港の安全を守るための現在の警察的役割のほかに、火事に備えた消防的役割も担っていたことを紹介している。



■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

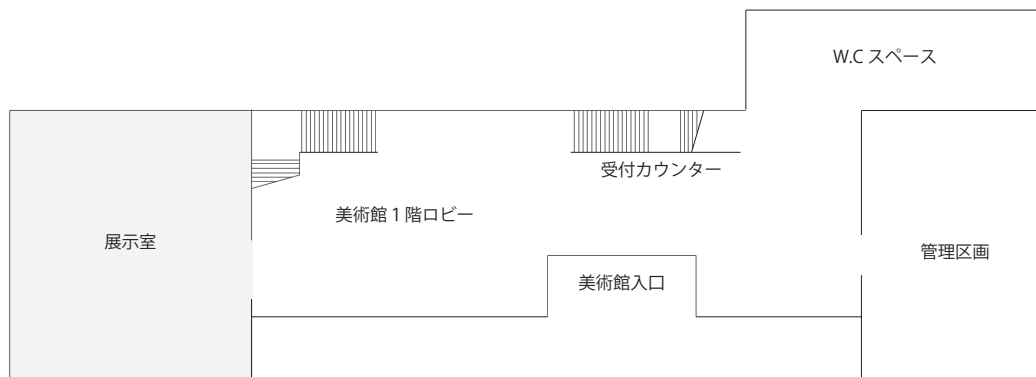
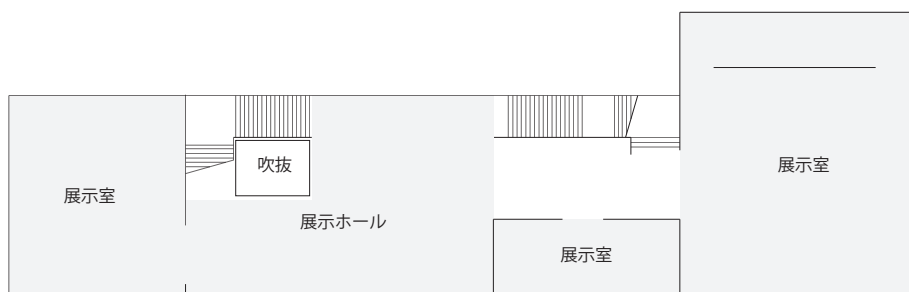
■ 運営アータ

■ 利用案内

公開スペース一覧

□ 蘭島閣美術館

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
蘭島閣美術館	木造2階建 (一部3階、一部地下)	1,401.07 m ²	625.84 m ²	1,056.65 m ²	展示面積 541.04 m ² / 展示壁長 166.30 m



■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

□ 蘭島閣美術館別館

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
蘭島閣美術館別館	木造瓦葺 1 階建	592.12 m ²	291.51 m ²	368.44 m ²	展示面積 148.22 m ² / 展示壁長 58.60 m



1 階

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

■ 目次
■ 沿革

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

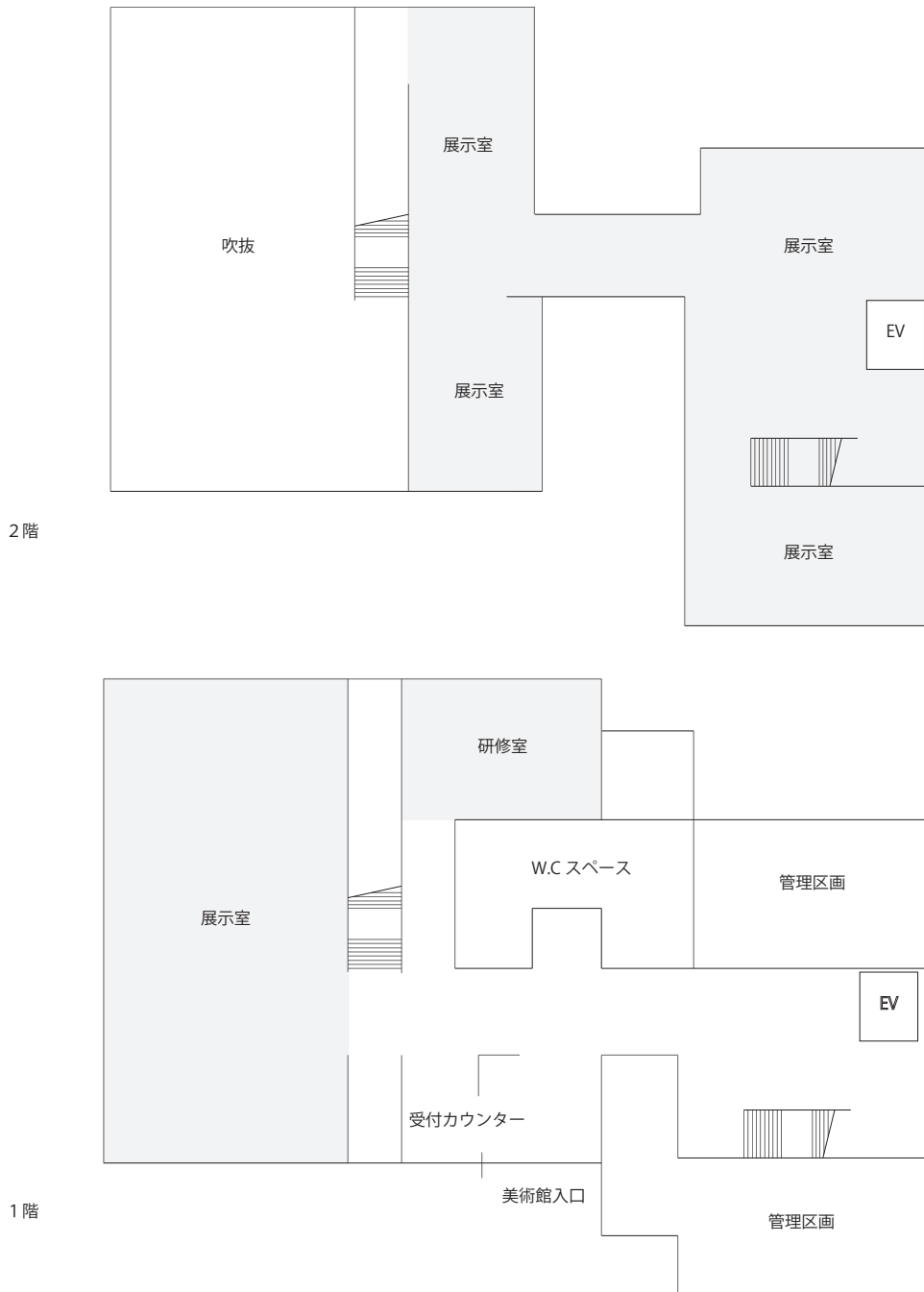
■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

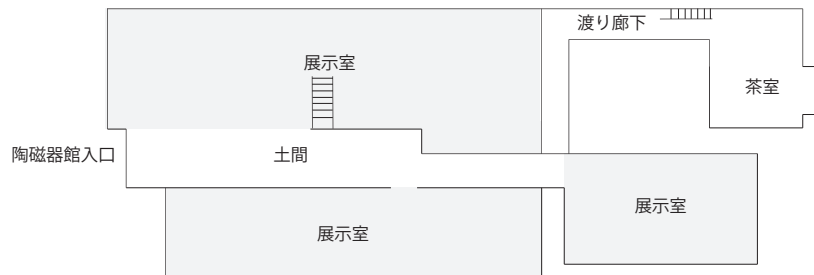
□三之瀬御本陣芸術文化館

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
三之瀬御本陣芸術文化館	鉄筋2階建 (一部地下)	852.77 m ²	533.97 m ²	1,064.95 m ²	展示面積 369.14 m ² / 展示壁長 96.90 m



□松濤園 陶磁器館

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
陶磁器館 (旧木上邸)	木造瓦葺 2階建 茶室茅葺 2階建	4,376.35 m ² (松濤園全体)	153.28 m ²	233.04 m ²	—



■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業 (特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営データ

■利用案内

■ 目次

■ 沿革

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業

(特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
 ■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

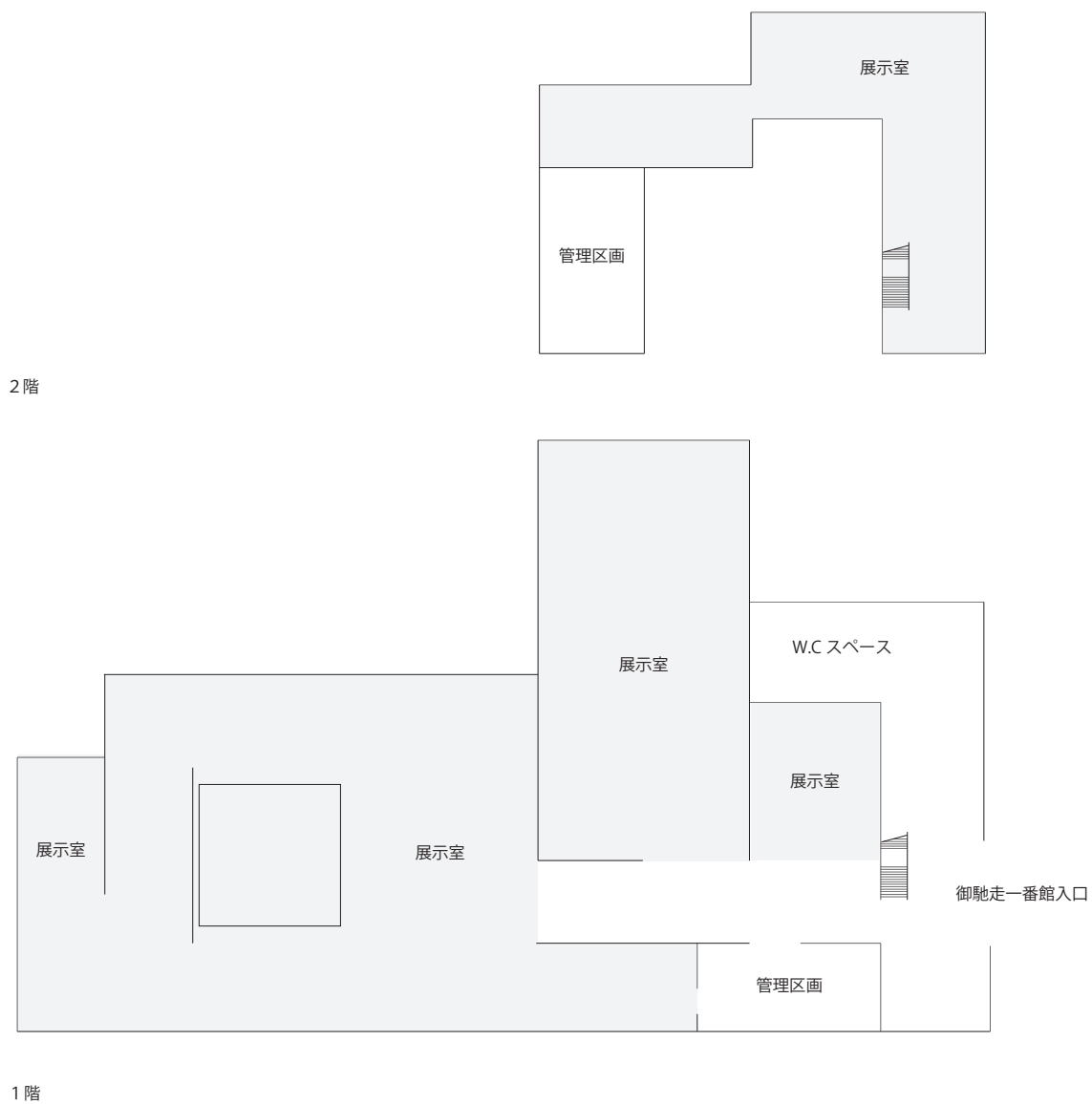
■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

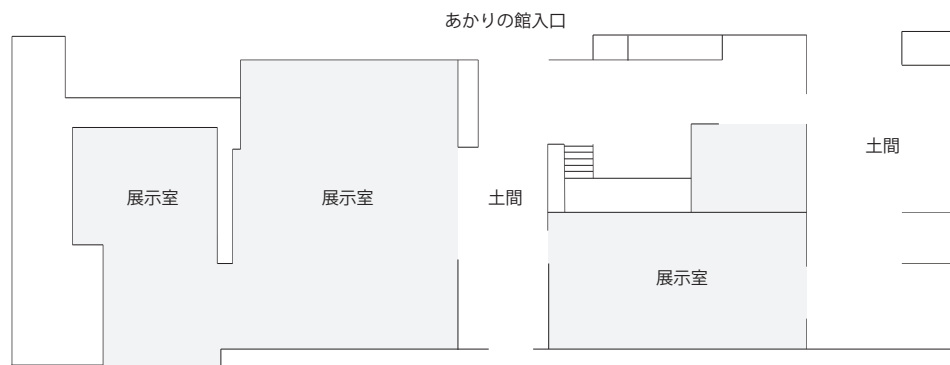
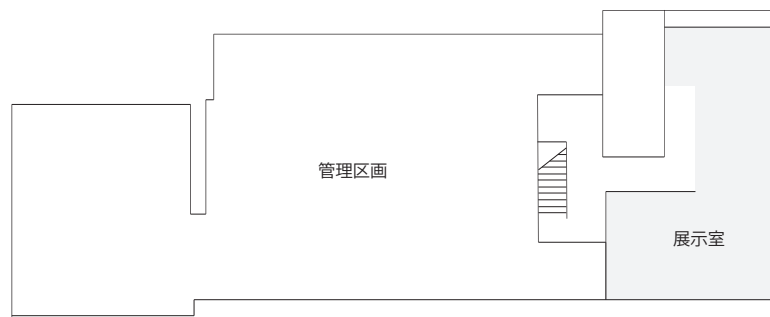
□松濤園 御馳走一番館 (朝鮮通信使資料館)

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
御馳走一番館 (旧有川邸)	木造板葺及び瓦葺 2階建	4,376.35 m ² (松濤園全体)	521.91 m ²	576.57 m ²	—



□松濤園 あかりの館

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
あかりの館（旧吉田邸）	木造本瓦葺 2階建	4,376.35 m ² (松濤園全体)	294.22 m ²	464.96 m ²	—



■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営データ

■利用案内

■ 目次

■ 沿革

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業
その他の公開

(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

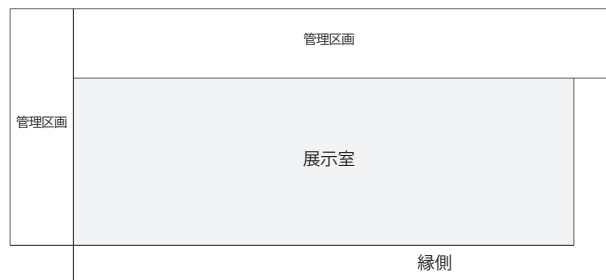
■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

□松濤園 蒲刈島御番所

	構造	敷地面積	建築面積	延べ床面積	施設概要
蒲刈島御番所	木造平屋建	4,376.35 m ² (松濤園全体)	67.65 m ²	67.65 m ²	—



1階

* 指定管理する施設のうち、白雪楼、昆虫の家「頑愚庵」、春蘭荘、松籟亭及び煎茶室は除く。

* 公開スペースの図は、展示区画の見取り図として作成。収蔵庫、空調設備などを含む管理区画は除く。

その他の公開

(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)



GARDEN ISLAND SHIMOKAMAGARI

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営データ

■利用案内

インターネット

□インターネット上での資料公開

2018（平成30）年度の展示公開事業にあわせて展覧会情報を掲載し、主要資料をホームページで公開した。

（更新順）

展覧会名	作者	資料名	掲載期間
三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅰ マチエールの魅力 ー須田国太郎と近代日本の巨匠たちー	須田国太郎	裸婦習作	2018.4.5～2018.6.5
	長谷川利行	浅草六区	
松濤園陶磁器館 所蔵品展Ⅰ 柿右衛門ーヨーロッパに咲いた伊万里ー	ー	色絵菊文蓋付壺	2018.4.5～2018.6.12
	ー	色絵婦人像	
	ー	色絵花鳥文角瓶	
松濤園御馳走一番館 所蔵品展Ⅰ 異文化交流と朝鮮通信使	ー	色絵花卉文六角壺	2018.4.5～2018.6.12
	ー	朝鮮国聘使録	
	ー	星槎答響	
蘭島閣美術館 所蔵品展Ⅰ 蘭島閣美術館コレクション名品展	横山大観	神洲乃正気	2018.4.16～2018.6.5
	佐伯祐三	パリの教会堂	
	三岸好太郎	貝殻	
	岩橋英遠	山 金扇	
	岩橋英遠	山 銀斧	
	石井柏亭	幸子像	
春季特別展 小磯良平、そして広島（会場：蘭島閣美術館）	小磯良平	着物の女（所蔵：神戸市立小磯記念美術館）	2018.6.6～2018.8.4
三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅱ 洋画家が描いた水墨画 ー須田国太郎・岸田劉生・巖光他ー 同時開催：日本画にみる技と表現	岸田劉生	童女図（麗子像）	2018.6.6～2018.8.4
	須田国太郎	花と鳥	
松濤園陶磁器館 所蔵品展Ⅱ 動物文様と古伊万里 同時開催：動物へのまなざしー今井政之ー	ー	瑞鳥	2018.6.13～2018.8.26
	ー	色絵桜鷺文大皿	
	ー	染付吹墨月兎文皿	
	ー	色絵牡丹獅子文輪花皿	
松濤園御馳走一番館 所蔵品展Ⅱ 朝鮮通信使の道	ー	染付松泉文鉢	2018.6.13～2017.8.26
	ー	朝鮮通信使来朝図説（部分）	
蘭島閣美術館 所蔵品展Ⅱ 平和への祈り	ー	朝鮮通信使来朝図説	2018.6.13～2017.8.26
	ー	朝鮮通信使来朝図説	
三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅲ 薔薇＊バラ＊ばらのマンダラーー須田国太郎から野田弘志までー	鮎村秀子	世は去り、世はきたる。されど、、、(伝導の書1ー4)	2018.8.5～2018.9.6
	南薫造	海（帆）	
松濤園陶磁器館 所蔵品展Ⅲ 古伊万里色絵の世界ー所蔵名品展ー	須田国太郎	黒つぐみ	2018.8.5～2018.9.18
	ー	雑草	
松濤園陶磁器館 所蔵品展Ⅲ 古伊万里色絵の世界ー所蔵名品展ー	ー	色絵柘榴文大皿	2018.8.27～2018.11.22
	ー	色絵荒磯文皿	
	ー	色絵柘榴牡丹松菊文輪花鉢	
松濤園御馳走一番館 所蔵品展Ⅲ 朝鮮通信使と船の旅	ー	朝鮮人來朝備前御馳走船行烈図	2018.8.27～2018.11.22
	ー	阿伏兔観音堂	
秋季特別展 戦後の美術ー広島の日画を中心にー （会場：蘭島閣美術館）	奥田元宋	遠山早雪（所蔵：奥田元宋・小由女美術館）	2018.9.7～2018.11.2
	其阿弥赫土	流れ	
三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅳ 海を渡った画家たちースペイン・フランス・イギリスー	須田国太郎	モヘンテ	2018.9.19～2018.11.27
	南薫造	公園風景	
蘭島閣美術館 所蔵品展Ⅲ 蘭島閣美術館コレクションより 白日会の作家たち	伊藤清永	ばら	2018.11.3～2019.1.2
	野田弘志	おんな	
	伊藤晴子	夏の思い出	
	中沢弘光	海岸風景	
松濤園陶磁器館 所蔵品展Ⅳ 古伊万里の装飾と文様	ー	色絵花盆文大皿	2018.11.23～2019.1.13
	ー	染付花盆唐草文手付水注	
松濤園御馳走一番館 所蔵品展Ⅳ 描かれた通信使と来日の影響	葛飾北斎	富嶽百景	2018.11.23～2019.1.13
	ー	朝鮮通信使行列図巻	
三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅴ いきもの集まれ！	須田国太郎	黄豹	2018.11.28～2019.1.29

目次

沿革

事業カレンダー

展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース）
その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

普及事業・市民サービス・財団事業

運営アタ

利用案内

須田国太郎 VS 日本画・洋画・焼き物に描かれた生き物たち	須田国太郎	溪流の鷺	2018.11.28～2019.1.29
		樹上猿	
		樹に止まった鷺	
	森徹山	狸獲鴨之図	
	今井政之	象嵌彩窯変螭螂図香炉	
象嵌彩窯変（新西蘭よりの使者）花壺			
蘭島閣美術館 所蔵品展Ⅳ 新春を寿ぐ	上村松園	つれづれ	2019.1.3～2019.2.24
	横山大観	神国日本	
	南薫造	日の出	
松濤園陶磁器館 所蔵品展Ⅴ やきものと茶の湯	—	青磁辰砂線彫文水指	2019.1.14～2019.4.7
	—	梅文茶碗	
	—	水指	
	—	色絵草花文蓋付香炉	
松濤園御馳走一番館 所蔵品展Ⅴ 朝鮮通信使と江戸の心	—	朝鮮人御饗応献立	2019.1.14～2019.4.7
	—	祝言膳部次第	
三之瀬御本陣芸術文化館 所蔵品展Ⅵ 躍動するかたち 一人・もの・風景—須田国太郎&洋画家たち	須田国太郎	静物（蔬菜）	2019.1.30～2019.4.4
		裸婦	
蘭島閣美術館 所蔵品展Ⅴ 黒による表現	長谷川利行	新宿風景	2019.2.25～2019.4.16
	竹内栖鳳	雙鶏	
	川合玉堂	松山遠嶺	
	児玉希望	夜梅	

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

資料貸出

□博物館・美術館、教育機関等からの申請に基づき、他館の展示公開事業に資料を貸出した。

	作者	資料名	会場	展覧会名	展覧会会期
1	池田道夫	池畔	京都府立堂本印象美術館	蘭島閣美術館コレクション 京の日本画家が描く情景	2018.6.28~2018.9.30
	池田達邨	川奈の富士			
	石本正	香			
	猪原大華	竹梅			
	上村松園	つれづれ			
	上村松篁	五月			
	岡村倫行	黒潮			
	小野竹喬	春景			
		山辺の春			
	梶原緋佐子	梅快窓			
		美人図			
	金島桂華	紅梅			
	下保昭	花(花霞)			
		雪(雪岳)			
		月(月明)			
	川島睦郎	春秋屏風			
	久保嶺爾	霞湖			
	小松均	岩山図			
	鹿見喜陌	人			
	竹内浩一	リンゴの木に			
	堂本元次	帆を映して			
	土手朋英	芥子			
	中路融人	伊吹			
	橋本閑雪	ふくろう			
	濱田昇児	早春			
	福田平八郎	雪庭			
		春雨			
三輪良平	舞妓二人				
村上華岳	虎の図				
山口華楊	虎児				
渡辺信喜	薔薇				
	柳				
2	児玉希望	秋晴	奥田元宋・小由女美術館、富山県水墨 美術館、茨城県天心記念五浦美術館	生誕120年 児玉希望展	2018.4.27~2018.6.17、 7.13~8.26、10.13~11.25
		夜梅			
3	小林和作	海	今治市玉川近代美術館	須田国太郎と独立美術協会の 画家たち	2018.10.2~2018.11.25
		由布山秋景			
	須田国太郎	馬			
		樹上猿			
		雉			
		樹に止まった鷺			
		黄豹			
		黒つぐみ			
		溪流の鷺			
		雑草			
		静物(蔬菜)			
		猫			
		能(鶺鴒)			
		能(角田川)			
		能(角田川)			

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

須田国太郎	能 (卒塔婆小町)	今治市玉川近代美術館	須田国太郎と独立美術協会の 画家たち	2018.10.2～2018.11.25
	能 (盛久)			
	花と鳥			
	紅薔薇			
	鷺			
	大和室生寺十一面観音像			
	裸婦			
長谷川利行	新宿風景			
林武	膝を立てる裸婦			
	裸婦			
福沢一郎	花			
東山魁夷	戦時下の乙女	市川市東山魁夷記念館	市川市東山魁夷記念館 平成30年度特別展 巡礼への道のりー東山魁夷・平山郁夫	2018.12.8～2019.1.27
	晴春			
平山郁夫	アッシジの丘			
野田弘志	屈斜路湖・夏	広島市立大学芸術資料館	広島市立大学創立25周年記念 平成から未来へ 野田弘志 リアリズムの軌跡	2019.3.21～2019.4.5
	TOKJIKU(非時)X V Elephant			
	TOKJIKU(非時)X III Dove			
	TOKJIKU(非時)X Skeleton			
	TOKJIKU(非時)X I Sphere			
TOKJIKU(非時)IX 大和思考				

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業 (特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■ その他の公開 (インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

画像提供

目次
沿革

事業カレンダー

展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

普及事業・市民サービス・財団事業

運営データ

利用案内

□美術資料

	利用者	目的	作者	資料名	許可日
1	奥田元宋・小由女美術館	展覧会図録に掲載のため	児玉希望	秋晴 夜梅	2018.1.22
2	京都府立堂本印象美術館	展覧会広報物に掲載のため	上村松篁 橋本閑雪 山口華楊 三輪良平 福田平八郎 梶原緋佐子 竹内浩一	五月 ふくろう 虎児 舞妓二人 春雨 美人図 りんごの木に	2018.5.1
3	西山事務所	カレンダーへ図版掲載のため	徳岡神泉	桔梗	2018.6.18
4	市川市東山魁夷記念館	展覧会図録に掲載のため	平山郁夫 東山魁夷	アッシジの丘 戦時下の乙女 晴春	2018.6.18
5	(株) ニュースアンドコミュニケーションズ	カレンダーへ図版掲載のため	南薫造	日の出	2018.7.28
6	今治市玉川近代美術館	展覧会広報物に掲載のため	須田国太郎 小林和作	裸婦 静物（蔬菜） 溪流の鷺 紅薔薇 黄豹 雉 海	2018.9.6
7	広島市立大学芸術資料館	展覧会広報物に掲載のため	野田弘志	TOKUJIKU（非時）IX大和思考 TOKUJIKU（非時）X Skeleton TOKUJIKU（非時）XI Sphere TOKUJIKU（非時）X III Dove TOKUJIKU（非時）X V Elephant 屈斜路湖・夏	2019.2.27
8	京都造形芸術大学出版局 藝術学舎	テキストへ図版掲載のため	野田弘志	TOKUJIKU（非時）X V Elephant	2019.3.27

□歴史資料、陶磁器ほか

	利用者	目的	作者	資料名	許可日
1	(有) 曙の里おく	複製物展示のため（資料/パネル）	—	朝鮮人來朝覚備前御馳走船行烈図	2018.4.30
2	今治市村上水軍博物館	複製物展示のため（資料/パネル）	—	朝鮮人來朝覚備前御馳走船行烈図	2018.6.28
3	尼信会館	複製物展示のため（資料/パネル）	—	朝鮮人來朝覚備前御馳走船行烈図	2018.9.21
4	長崎歴史文化博物館	複製物展示のため（資料/パネル）	—	朝鮮人來朝覚備前御馳走船行烈図	2019.1.4
5	咸承佑（全南大学校芸術大学大学院、韓国）	執筆論文へ掲載のため	—	朝鮮人來朝覚備前御馳走船行烈図	2019.1.11
6	除仁範（東国大学文科大史学科 教授、韓国）	執筆文献へ掲載のため	— —	朝鮮人來朝覚備前御馳走船行烈図 復元模型三汁十五菜	2019.3.11 2019.3.11

資料閲覧

□調査研究を目的とした博物館・美術館、教育機関等からの申請に基づき資料を閲覧に供した。

	調査者	目的	作者	資料名	閲覧日
1	うらわ美術館	展覧会企画調査のため	寺内萬治郎	髪	2019.3.21

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内



GARDEN ISLAND SHIMOKAMAGARI

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

普及事業 ギャラリートーク・講演会・ワークショップ

市民の美術教養の向上と教育普及を目的とし、普及事業としてギャラリートーク、講演会を開催した。また、創作活動の推進を図るためワークショップを開催した。各館合計で23日のべ29回のギャラリートーク、1回の講演会、165日間のワークショップ開催日を設け、普及向上に努めた。

蘭島閣美術館

蘭島閣美術館 ギャラリートーク

●所蔵品展Ⅰ 蘭島閣美術館コレクション名品展関連行事ギャラリートーク

2018(平成30)年5月13日(日)、6月3日(日)
午前11時から/午後2時から(各日2回)

(参加者)

8名(5月13日午前11時)、参加者なし(5月13日午後2時)
2名(6月3日午前11時)、3名(6月3日午後2時)

(内容)

展覧会担当の学芸員が、展覧会の構成や内容、展示作品について対話を重視しながら作品を紹介した。本展では、当館の日本画、油彩画のコレクションの概要や画材についても説明し、作品を通して近代日本の美術の流れを解説した。参加者の中には当館に初めて来館した方もおり、展示作品以外に周辺施設についても説明ができた。

●春季特別展小磯良平、そして広島関連行事ギャラリートーク

2018(平成30)年6月17日(日)、7月15日(日)、7月29日(日)、8月5日(日)
午前11時から/午後2時から(各日2回)

(参加者)

14名(6月17日午前11時)、8名(6月17日午後2時)
参加者なし(7月15日午前11時)、1名(7月15日午後2時)
参加者なし(7月29日午前11時)、2名(7月29日午後2時)
2名(8月5日午前11時)、12名(8月5日午後2時)

(内容)

2018(平成30)年に没後15年を迎えた小磯良平の画業を、晩年までの作品を通して参加者と対話しながら解説をおこなった。本展では、小磯の画業とともに彼の広島とのつながりを一室で紹介した。参加者の中には、出品作家名柄正之の教え子だったという方もおり、自身が学生の時に学んだ先生の作品を改めて鑑賞することができ感動したと感想をいただいた。

●所蔵品展Ⅱ 平和への祈り関連行事ギャラリートーク

2018(平成30)年8月12日(日)
午前11時から/午後2時から(各日2回)

(参加者)

参加者なし(8月12日午前11時)、4名(8月12日午後2時)

(内容)

本展は、それぞれの作家が描いた平和への思いをくみ取ることができる作品



を展示し、改めて平和の尊さを鑑賞者に考えてもらうことを目的とした。ギャラリートーク参加者とは対話をし、作品を見て感じたことなどを伺った。今回は染織作品など普段展示で見る機会が少ない作品も紹介しており、藍染の美しさに魅了されたと感想もいただいた。

●**秋季特別展戦後の美術—広島を日本画を中心に—関連行事ギャラリートーク**
2018（平成30）年9月23日（日）、10月7日（日）、11月4日（日）
午前11時から／午後2時から（各日2回）

（参加者）

2名（9月23日午前11時）、4名（9月23日午後2時）
10名（10月7日午前11時）、1名（10月7日午後2時）
8名（11月4日午前11時）、参加者なし（11月4日午後2時）

（内容）

戦後の広島の美術をテーマにした本展では、作家の紹介とともに1945（昭和20）年を境に世代別でその時代の美術の動向をどのように作品に生かしていったかなども説明した。戦後の技術革新などで画材も変化していったことも盛り込み、参加者には実際に日本画材にも触れてもらい材料について解説を実施した。出品作には瀬戸内の風景などもあり、絵になる美しい景色の中で生活していることを改めて実感したと参加者から感想があった。

●**所蔵品展Ⅲ蘭島閣美術館コレクションより白日会の作家たち関連行事ギャラリートーク**
2018（平成30）年12月2日（日）
午前11時から／午後2時から（各日2回）

（参加者）

4名（12月2日午前11時）、参加者なし（12月2日午後2時）

（内容）

白日会創立会員や出品歴のある画家に焦点を絞って作品の展示を実施した。ギャラリートークでは最初に、白日会の創立に参加した画家から説明した。同会の創立には、呉市出身の南薫造も参加しており、参加者には身近な画家が創立に携わっていることを解説し、対話を重視しながら作品を紹介した。

●**所蔵品展Ⅳ新春を寿ぐ関連行事ギャラリートーク**
2019（平成31）年1月27日（日）、2月10日（日）
午前11時から／午後2時から（各日2回）

（参加者）

1名（1月27日午前11時）、2名（1月27日午後2時）
3名（2月10日午前11時）、11名（2月10日午後2時）

（内容）

本展では美人画、富士山、花など同じモチーフの作品を並べて展示していたため、作家ごとの描き方の違いを見てもらった。中でも美人画は住本弥綺子など現代に活躍する作家の作品も展示したため、上村松園らの作品と比べると余白の使い方や絵具の厚みなどが違うことを説明した。また、富士山の人気投票もおこなっていたため参加者にどの作品が気に入ったかも聞きながら展示室を回った。



■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

●所蔵品展V黒による表現関連行事ギャラリートーク

2019（平成31）年3月10日（日）
午前11時から／午後2時から（各日2回）

（参加者）

参加者なし（3月10日午前11時）、3名（3月10日午後2時）

（内容）

本展では、絵画の中で黒という色彩の使い方や表現方法に着目し展示をした。中でも墨を使用した作品には、各作家によってさまざまな表現方法がある。ギャラリートークでは、同じ画材を使いながらも多様に化する表現方法について、作品をいくつか選び説明した。時代によっても変化していくその多彩な表現に、参加者からも驚きの声があがっていた。

蘭島閣美術館 講演会

●春季特別展小磯良平、そして広島関連行事講演会

アーティストトーク
2018（平成30）年7月1日（日）
午後1時30分から

参加者：48人

（内容）

講演会では、出品作家の木下和氏（新制作協会会員・日本美術家連盟会員）に小磯良平の作品の白の使い方に着目して作品解説をしていただいた。専門家の目線から見た小磯作品の見どころをさまざまな角度から説明いただき、参加者に美術の表現や技法に対する理解を深めてもらえるように講演いただいた。

展示室を回りながら説明を実施したため、作品のどの部分にその技法が見られるか明白に説明があり、親しみやすくわかりやすい説明に参加者はじっくり作品鑑賞をおこなっていた。

蘭島閣美術館 ワークショップ

●所蔵品展V黒による表現関連行事ワークショップ

ワークショップ 日本の芸術 墨流し体験
2019（平成31）年3月20日（水）～3月31日（日）
午前10時から午後3時

開催日数：12日

参加者：40人

場所：蘭島閣美術館

（内容）

ワークショップでは、墨を用いた実技を通して美術の表現や技法に対する理解を深めることを目指した。参加者には、多数ある墨の表現の中で墨流しに挑戦してもらい、できあがった作品をしおりにした。中には自転車の旅で立ち寄った参加者もいて、旅の思い出になったと感想をいただいた。



三之瀬御本陣芸術文化館 ワークショップ

●所蔵品展Ⅰマチエールの魅力—須田国太郎と近代日本の巨匠たち関連行事
ワークショップ

ワークショップ マチエールを体験！墨流しでしおりを作ろう

2018（平成30）年4月11日（水）～6月11日（月）

午前10時から午後4時

開催日数：54日

参加者：25人

場所：三之瀬御本陣芸術文化館 研修室

（内容）

約6×15cmの大きさの和紙に墨流しをおこない、その上にネイル用のラメなどで装飾を施し、最後にラミネートで保護してしおりを作った。墨汁を水面に垂らした際にできる神秘的な渦巻きや濃淡の模様、その模様を写し取った墨流しを参加者が体感できる内容とした。

平安時代の墨流しの装飾技法の一つ、金粉を蒔いたり切金を置いたりして雅びな絵肌をつくり、書や絵画の背景装飾などにも使用した歴史を伝え、その装飾をラメ素材などで簡易に表現する工夫をした。参加者は、作品展示を見た後、それぞれに墨流しによるマチエール作りを体験した。

●所蔵品展Ⅱ洋画家が描いた水墨画

須田国太郎・岸田劉生・巖光他／日本画にみる技と表現関連行事ワークショップ

ワークショップ 紙すき体験！手作りのはがきを作ろう

2018（平成30）年6月13日（水）～8月6日（月）

午前10時から午後3時

開催日数：48日

参加者：7人

場所：三之瀬御本陣芸術文化館 研修室

（内容）

手すき和紙の技術を簡易的にし、手作りのはがきを作った。小さくちぎった牛乳パックを水と混ぜてミキサーにかけて、紙の繊維をパルプ状に戻した液体を用意し、水の中ですき型枠に流し入れて紙を漉いた。そこに、落ち葉や花びらなどを置いて装飾し、乾燥させそれぞれの紙を完成させた。紙すきを体験して和紙がどのように作られているかを体感し、素材を通して絵画作品を知ることを楽しんでもらった。



松濤園（陶磁器館・御馳走一番館）

松濤園（陶磁器館・御馳走一番館） ギャラリートーク

●松濤園所蔵品展Ⅰ

陶磁器館「柿右衛門ーヨーロッパに咲いた伊万里ー」

御馳走一番「異文化交流と朝鮮通信使」関連行事ギャラリートーク

2018（平成30）年4月22日（日）、5月27日（日）

午後2時から

（参加者）

8名（4月22日午後2時）

8名（5月27日午後2時）

（内容）

展覧会の構成や内容、展示作品について対話を重視しながら作品を紹介した。陶磁器館では、伊万里焼の歴史を解説しつつ、古伊万里の中でも独特の作風を誇る柿右衛門様式について詳しく解説した。御馳走一番館では、朝鮮通信使の歴史を概説し、所蔵作品を通して、江戸時代におこなわれた異文化交流について紹介した。

●松濤園所蔵品展Ⅱ

陶磁器館「動物文様と古伊万里」

御馳走一番館「朝鮮通信使の道」関連行事ギャラリートーク

2018（平成30）年7月22日（日）、8月26日（日）

午前11時から

（参加者）

1名（7月22日午前11時）

5名（8月26日午前11時）

（内容）

陶磁器館では、動物文様に込められた図柄の意味を解説し、あわせて伊万里焼きの歴史を概説した。御馳走一番館では、朝鮮通信使の陸路の旅路の様子を紹介した。陸路は歩いて旅をするだけでなく、船をつないで舟橋を作ったことや今切渡（いまぎれのわたし）のことを紹介した。参加者と対話の中で、朝鮮通信使に関して基本的な情報が知りたいということだったので、通信使の歴史を概説した。

●松濤園所蔵品展Ⅲ

陶磁器館「古伊万里色絵の世界 - 所蔵名品展 -」

御馳走一番館「朝鮮通信使と船の旅」関連行事ギャラリートーク

2018（平成30）年9月30日（日）、11月18日（日）

午前11時から

参加者なし（9月30日午前11時）

8名（11月18日午前11時）

（内容）

陶磁器館では伊万里焼に用いられる彩色技法の一つの「色絵」に焦点を当て、「染付」との違いを技法的視点から解説した。御馳走一番館は、参加者の要望

により朝鮮通信使の歴史の概説を中心に解説し、海路の旅路の様子や朝鮮通信使船の構造を解説した。

●松濤園所蔵品展Ⅳ

陶磁器館「古伊万里の装飾と文様」

御馳走一番館「描かれた朝鮮通信使と来日の影響」関連行事ギャラリートーク

2018（平成30）年12月9日（日）、2019（平成31）年1月13日（日）

午前11時から

（参加者）

9名（12月9日午前11時）

9名（1月13日午前11時）

（内容）

陶磁器館、資料館を所蔵品展のテーマに沿って解説した。陶磁器館では、展示作品に施された装飾について、技法や器形の違いなどを解説した。御馳走一番館では、絵画や工芸品の図案として描かれた朝鮮通信使の様子を中心に紹介した。朝鮮通信使について初めて知る参加者が理解できるように、朝鮮通信使の歴史を概説した。

●松濤園所蔵品展Ⅴ

陶磁器館「やきものと茶の湯」

御馳走一番館「朝鮮通信使と江戸時代の心」関連行事ギャラリートーク

2月17日（日）、3月17日（日）

午前11時から

（参加者）

4名（2月17日午前11時）

6名（3月17日午前11時）

（内容）

陶磁器館では松濤園の所蔵品の中から、過去に松濤園で開催された茶会で使用された作品を中心に展示を構成し、やきものと茶道の関係を参加者に解説した。御馳走一番館では、朝鮮通信使をもてなす際のこころ遣いを所蔵品を交えて紹介した。参加者からの要望で、朝鮮通信使の歴史もあわせて概説した。

松濤園（陶磁器館・御馳走一番館） ワークショップ

●所蔵品展Ⅱ 動物文様と古伊万里／朝鮮通信使の道関連行事ワークショップ

ワークショップ MY うちわで夏を乗りきろう！ [有料：参加費 100円]

2018（平成30）年7月14日（土）～9月2日（日）

午前9時から午後3時

開催日数：51日

参加者：2人

場所：松濤園 園内

（内容）

白紙のうちわ面に彩色したり、シールで飾り付けし、オリジナルのうちわを作成した。うちわの装飾の素材としたシールや、彩色の参考となる材料に松濤園の所蔵品の画像を用意した。うちわ作成の参考になると同時に、所蔵品への理解を深める機会となることを目指した。

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

市民サービス 秋の茶会

松濤園 秋の茶会

日本文化の神髄である茶道を体験し、また日本建築と庭園の調和を感じるにより、日本文化を生み出した文化的背景を知る機会を市民に提供している。松濤園内の蒲刈島御番所を会場として活用し、お抹茶と茶菓子を本格的な作法で振る舞い、茶道の経験にかかわらず広く市民サービスとして誰もが体験でき楽しめる内容としている。「秋の茶会」、「梅見茶会」として年2回開催している。

日時 2018（平成30）年11月10日（土）・11日（日）（11月10日は点前、11日は点出）

会場 松濤園 蒲刈島御番所

協力 上田宗箇流 浜田宗凜（倫英子）先生、浜田社中5名

おもな関連記事、番組など

○「和風」第142号、上田流和風堂 ○「和風」第143号、上田流和風堂 ○「通信使ゆかりの掛け軸飾り茶会」中国新聞、2018（平成30年）11月11日
○「市政だよりくれ」11月号、呉市 ○「芸芸灘だより」11月号、呉市下蒲刈まちづくりセンター

印刷物

- ポスター B2判 12部
- チラシ A4判（両面刷り） 6,000部

（参加者）

191名（11月10日）

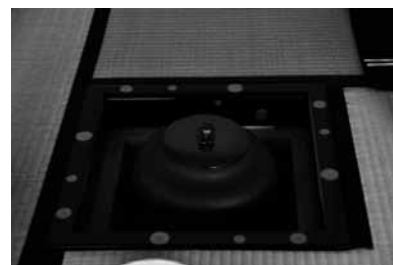
□参加人数内訳

席	呈茶時間	参加人数：点前	参加人数：点出
計8席	9:30～15:45	124	67

128名（11月11日）

□参加人数内訳

席	呈茶時間	参加人数：点出
計7席	9:30～16:00	128



■ 沿革

■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業

（特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内



（内容）

本年の秋の茶会では、2017（平成 29）年に朝鮮通信使に関する記録がユネスコ世界の記憶に登録されたことを記念し、朝鮮通信使をテーマとして秋の茶会を開催した。朝鮮通信使の訳官として 1811（文化 8）年来日した崔昔の掛け軸を使用し、花入や主茶碗、菓子器なども朝鮮王朝時代に制作された道具を用いた。両日とも天候に恵まれ、多くの来館者がお茶を楽しんだ。

吳市下蒲刈町
文化と歴史の祭典

秋の茶会

会記

平成三十年十一月十日・十一日
松濤園 園内蒲刈島御番所

掛物	「秋風起兮白雲飛 草木黃落兮雁南歸」 崔昔（菊齋）筆		
花	季のもの		
花入	朝鮮鉛釉面取瓶		
香合	織部		
敷帛紗	宗箇風通		
炉縁	真塗唐松時絵	村田宗覚	
風炉先	高台寺透菊桐	近藤一甫	
釜	住吉波模様	角谷一圭	
水指	象嵌彩桔梗	今井政之	
薄茶器	鞆の浦文時絵平棗		
茶杓	上田宗箇 作	追銘「不二」十四代宗雄	
主茶碗	朝鮮本手半使		
替	古萩		
替	信楽	荒川豊蔵	
替	真葛雲錦	真葛香齋	
蓋置	備前三宝	金重陶陽	
水次	片口 生地		
建水	曲 生地		
菓子	銘「山土産」	蜜屋 製	
菓子器	朝鮮染付仏手柑文鉢・朝鮮染付鯉文鉢		
煙草盆	真塗鯨手付		
火入	染付	永楽妙全	
煙草入	独楽（唐物）		
煙管	一双		
二の間	色絵朝鮮通信使滄州漢詩入保命酒徳利		
	朝鮮螺鈿花台		

市民サービス 梅見茶会

松濤園 梅見茶会

日本文化の神髄である茶道を体験し、また日本建築と庭園の調和を感じることで、日本文化を生み出した文化的背景を知る機会を市民に提供している。松濤園内の蒲刈島御番所を会場として活用し、お抹茶と茶菓子を本格的な作法で振る舞い、茶道の経験にかかわらず広く市民サービスとして誰もが体験でき楽しめる内容としている。「秋の茶会」、「梅見茶会」として年2回開催している。

日時 2019（平成31）年2月9日（土）・10日（日）2月9日は点前、10日は点出

会場 松濤園 蒲刈島御番所

協力 茶道裏千家 中野宗賀（須賀子）、中野社中9名

おもな関連記事、番組など

○「広島県ガイドブック『広島さんぽ』2019 冬・春号、一般社団法人広島観光連盟 ○「香る春 梅めで一服」中国新聞、2019（平成31）年2月8日 ○「安芸灘だより」2月号、呉市下蒲刈まちづくりセンター ○「くれえばん」2月号、株式会社クレ・マスメディア・スタジオ

印刷物

- ポスター B2判 100部
- チラシ A4判（両面刷り）6,500部

（参加者）

237名（2月9日）

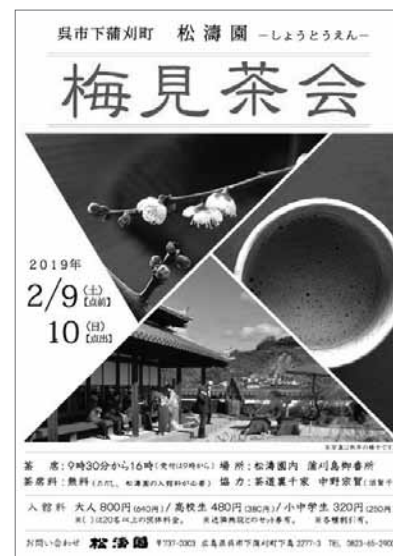
□参加人数内訳

席	呈茶時間	参加人数：点前	参加人数：点出
計9席	9:25～15:40	206	31

165名（2月10日）

□参加人数内訳

席	呈茶時間	参加人数：点出
計7席	9:00～16:00	165



■ 沿革

■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業

（特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

（内容）

毎年立春を迎える時期に梅見茶会を開催している。松濤園内に梅花を生け、膨らみ始めた梅を愛でながら来館者に一服を楽しんでもらった。「春」をテーマに、道具も春にちなんだものを中心に用いた。板谷波山の「青磁下蕪花瓶」に生けられた牡丹や金重陶陽の「備前念花梅香合」、川崎小虎の「早春」などが茶室に春を彩った。2月9日、10日に開催し、3連休の最初の2日ということもあり、多くの来館者がお茶を楽しんだ。



		平成三十年度		梅見茶会			
		時 平成三十一年二月九日・十日					
		於 松濤園内 蒲刈島御番所					
会記	掛物	花入	香合	釜敷	炉縁	風炉先	釜
	山花映水紅	牡丹	青磁下蕪花瓶	備前捻梅香合	鳳凰文蒔絵	松の図	古天明甌口
	誰ヶ袖棚	白磁線彫草花文水指	吉祥草文様桜皮付茶器	銘 萬歳	黒染茶碗	柑釉茶碗	伊部竹蓋置
	松唐草	備前建水	銘 水仙	染付蛇籠文十角皿	手付煙草盆		
	菓子器	菓子盆	火入	煙草入	煙草管		
二の間	掛物	早 春	柿本人麻呂像香炉				
	裏千家十四代千宗室	淡々斎					
	板谷波山	金重陶陽	吉左衛門	尚友齋	船田玉樹	浄雪	
	初期伊万里	四代金城一國齋	裏千家十四代千宗室	淡々斎			
	今井政之	金重道明	山川敦司	金重陶陽	椿庵博美屋 製	古伊万里	延宝
	時代	時代	時代	時代			
	川崎小虎	色絵備前					

市民サービス 着付け体験

松濤園において着付け体験を開催し、朝鮮通信使再現行列をアピールし異文化を体感できる市民サービスを提供した。

松濤園 蒲刈島御番所

会期 2018(平成30)年11月28日(水)～2019(平成31)年1月28日(月)
の期間中の金・土・日・祝と、臨時に1月2日・1月3日の、のべ計29日
場所 松濤園 園内

参加者 133名
参加費 無料

(目的)

チマチョゴリなどの韓国伝統衣装を着て、松濤園内で記念撮影をおこなえるイベントとして開催。松濤園来館のきっかけを作り、松濤園及び再現行列の活動をアピールした。韓国伝統衣装を着ることを通し、朝鮮通信使学習のきっかけとなることを目的とした。参加者からは、韓国ドラマを見て着てみたかったなどの感想をいただいた。

(内容)

松濤園料金所で受付後、着替え会場の蒲刈島御番所で希望する来場者に着付け体験の内容を説明し、着付けを体験してもらった。準備したのは、チマチョゴリ11着(うち子供用5着)、パジチョゴリ6着(うち子供用1着)で、それぞれが希望する着衣を着付けし、写真撮影などの補助もおこなった。

週末のイベント開催で集客を見込んだが、新規事業のため当初は参加者も少なかったが、松濤園園内で着付け参加の呼びかけをおこない参加者を募り、周知を図った。

□参加人数内訳

日時(曜日)	参加人数	日時(曜日)	参加人数
11月30日(金)	0	1月14日(月)	6
12月1日(土)	0	1月18日(金)	0
12月2日(日)	10	1月19日(土)	5
12月7日(金)	6	1月20日(日)	4
12月8日(土)	3	1月25日(金)	2
12月9日(日)	4	1月26日(土)	0
12月14日(金)	0	1月27日(日)	6
12月15日(土)	0		
12月16日(日)	0		
12月21日(金)	0		
12月22日(土)	0		
12月23日(日)	4		
12月24日(月)	9		
12月28日(金)	3		
1月2日(水)	2		
1月3日(木)	7		
1月4日(金)	12		
1月5日(土)	18		
1月6日(日)	1		
1月11日(金)	1		
1月12日(土)	13		
1月13日(日)	17		



目次

事業カレンダー

展示公開事業(特別展示・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽)
その他の公開(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

普及事業・市民サービス・財団事業

運営アータ

利用案内

財団事業 朝鮮通信使再現行列

江戸時代に朝鮮半島から派遣された外交使節団の寄港地だった呉市の下蒲刈島で、地域振興を目的として朝鮮通信使再現行列をおこなっている。2018（平成30）年度で16回目となった。江戸時代に朝鮮通信使がこの地に11回立ち寄った歴史があり、広島県の史跡に指定されている三之瀬御本陣跡、三之瀬朝鮮通信使宿館跡がある。このような歴史をふまえ、朝鮮通信使資料館「御馳走一番館」は朝鮮通信使関連の資料の収集をおこない、景観や展示環境を整備し公開している。朝鮮通信使再現行列は、これら島内の朝鮮通信使関連遺跡、公開施設などの認知度を高め、地域文化の理解促進、地域活性化および国際交流の機会として毎年開催している。

- 場 所** 下蒲刈市民センター～福島雁木（三之瀬御本陣芸術文化館前）～呉市立下蒲刈中学校
- 開催日** 2018（平成30）年10月21日（日）
- 時 間** 午前10時45分から午後3時
- 観覧料** 無料
- 主 催** 公益財団法人蘭島文化振興財団、中国新聞社、朝鮮通信使行列保存会
- 共 催** 呉市
- 後 援** NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、呉市国際交流協会、呉市日韓親善協会、一般社団法人広島県観光連盟
- 協 力** 駐広島大韓民国総領事館、在日本大韓国民団広島県地方本部、海上自衛隊呉教育隊、海上保安大学校、大新グループ、呉信用金庫、広島銀行、もみじ銀行、呉広域商工会、呉農業協同組合
- 出店協力** NPO法人海駅三之関、下蒲刈町漁業協同組合、呉広域商工会女性部下蒲刈支部、杵つき餅たいしん、ふあいやーず、FF工房クオ・リモーネ、八の日朝市の会、ひまわりグループ、在日本大韓国民団広島県地方本部、下蒲刈中学校PTA

おもな関連記事、番組など

- 「朝鮮通信使 秋に彩り 行列を再現」中国新聞、2018（平成30）年10月12日
- 「日韓をつなぐ伝統絵巻 朝鮮通信使再現行列 世界の記憶華やかに」中国新聞、2018（平成30）年10月14日
- 「善隣友好の精神 金宣鈞駐広島韓国総領事に聞く」中国新聞、2018（平成30）年10月14日
- 「世界記憶遺産登録で注目 通信使行列 厳かに」中国新聞、2018（平成30）年10月22日
- 「下蒲刈で朝鮮通信使再現行列 日韓の絆 観客を魅了 歌や踊り 被災地に活気」中国新聞、2018（平成30）年10月22日
- 「市政だよりくれ」10月号、呉市
- 「くれえばん」10月号、株式会社クレ・マスメディア・スタジオ
- 「安芸灘だより」10月号、呉市下蒲刈まちづくりセンター
- 「安芸灘だより」12月号、呉市下蒲刈まちづくりセンター

印刷物

- ポスター B2判 700部
- チラシ A4判（両面刷り）18,000部

（参加者）

- ①再現行列への参加者数 280人
- ②その他スタッフとしての参加者数 230人
- ③観覧者数 約6,000人

（内容）

地域の住民及び各種団体と協働し、朝鮮通信使の行列を再現した。下蒲刈市民センターで出発式をおこなった後、町内を当時の再現衣装を身に着けた参加者がパレードし、三之瀬御本陣芸術文化館の雁木では、權伝馬船により広島



沿革
目次

事業カレンダー

展示公開事業・特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧
その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

普及事業・市民サービス・財団事業

運営アータ

利用案内

藩主が到着し、朝鮮通信使正使と挨拶を交わした。またパレード終着地点である下蒲刈中学校では、正使と日本側の徳川將軍との国書交換式を実施し、その後は各種舞踊や太鼓の演奏、抽選会景品などのステージイベントを開催した。呉市が誇る国際交流史を広く市民に紹介するとともに、大韓民国から高校生の音楽隊も招き、文化交流の場ともなった。

□ イベント構成

時間	内容	場所
10:45～11:00	出発式	下蒲刈市民センター
11:00～11:30	朝鮮通信使再現行列出発	
11:30～11:45	權伝馬入港 広島藩主到着パフォーマンス	福島雁木 (三之瀬御本陣芸術文化館前)
12:40～13:00	朝鮮通信使再現行列入場	下蒲刈中学校
13:00～13:15	国書交換式	
13:15～13:30	交流の踊り	
13:30～15:00	ステージイベント [京畿国際通商高等学校吹打隊演奏] [広島韓国伝統芸術院舞踊 (島根県民団教室)] [呉氏&呉氏 Jr. パフォーマンス] [下蒲刈中学校生徒太鼓演奏] その他	
10:30～15:00	売店・バザー	



財団事業 ギャラリーコンサート

美術と音楽の調和によって芸術の楽しさと奥深さを味わい、幅広い年齢層が気軽に参加できるクラシックを中心とするコンサートを開催している。蘭島閣美術館 1階ロビーをコンサート会場としている。毎月第3土曜日をコンサート実施日とし、年12回開催している。2001(平成13)年1月から始まり、2018(平成30)年6月で210回目の開催を数えた。

日時 毎月第3土曜日(年12回) *詳しくは別表「2018(平成30)年度ギャラリーコンサート一覧」の通り
午後6時30分から午後8時30分

会場 蘭島閣美術館 1階ロビー

主催 公益財団法人蘭島文化振興財団

関連行事 *詳しくは別表「2018(平成30)年度ギャラリーコンサート関連行事 講演会」の通り

●講演会「指揮者列伝エピソード③エリアフ・インバル」

講師：原武(サントリーホールアソシエイト) 各回とも

2018(平成30)年4月21日(土) 午後5時30分から午後6時10分

●講演会「指揮者列伝エピソード④ウラディーミル・アシュケナージ」

2018(平成30)年5月19日(土) 午後5時30分から午後6時10分

●講演会「指揮者列伝エピソード⑤思い出の指揮者たち サヴァリッシュ、シュタイン、ワルベルク」

2018(平成30)年6月16日(土) 午後5時30分から午後6時10分

●講演会「クラシック音楽のアンケート」

2018(平成30)年12月15日(土) 午後5時30分から午後6時10分

●ミニコンサート

2018(平成30)年10月23日(火) 午後2時20分から午後3時

会場：呉市立下蒲刈中学校 体育館

おもな関連記事、番組など

○「市政だよりくれ」4月号、5月号、6月号、7月号、8月号、9月号、10月号、11月号、12月号、1月号、2月号、3月号、呉市 ○「安芸灘だより」4月号、5月号、6月号、8月号、4月号、9月号、10月号、11月号、12月号、1月号、2月号、3月号、呉市下蒲刈まちづくりセンター ○『ぶらあぼ』4月号、5月号、6月号、7月号、8月号、9月号、10月号、11月号、12月号、1月号、2月号、3月号、東京 MDE ○「小山実稚恵のピアノと私」第58回 おもてなしの島『MOSTLY CLASSIC』3月号、2019(平成31)年1月19日

印刷物

●ポスター A1判 12部

●チラシ A4判(片面刷り) 24部

●広報用プログラム A4判二つ折り(両面刷り) 1,500部

(参加者)

年間 1,926名

*詳しくは別表「2018(平成30)年度ギャラリーコンサート一覧」の通り



■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
■その他の公開(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

□2018 (平成 30) 年度ギャラリーコンサート一覽

今年度は開催 210 回を記念し、リクエストの多い順に楽曲を演奏する企画「リクエストプログラム」を実施、また西日本豪雨復興支援を掲げて無料公演をおこなった。

開催月	公演名	出演者	開催日時	入場者数
4	第 208 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	仲道郁代 (ピアノ)	2018 (平成 30) 年 4 月 21 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	209 人
5	第 209 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	店村真積 (ヴィオラ) 小山京子 (ピアノ)	2018 (平成 30) 年 5 月 19 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	147 人
6	第 210 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート リクエストプログラム	大谷康子 (ヴァイオリン) 小山さゆり (ピアノ)	2018 (平成 30) 年 6 月 16 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	188 人
7	第 211 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート 西日本豪雨復興支援コンサート	上野耕平 (サクソフォン) 山中惇史 (ピアノ)	2018 (平成 30) 年 7 月 21 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	139 人
8	第 212 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	菊池洋子 (ピアノ)	2018 (平成 30) 年 8 月 18 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	152 人
9	第 213 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	小林美恵 (ヴァイオリン) 上田晴子 (ピアノ)	2018 (平成 30) 年 9 月 15 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	150 人
10	第 214 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	吉野直子 (ハーブ)	2018 (平成 30) 年 10 月 20 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	175 人
11	第 215 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	渡辺玲子 (ヴァイオリン) 坂野伊都子 (ピアノ)	2018 (平成 30) 年 11 月 17 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	147 人
12	第 216 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	小山実稚恵 (ピアノ)	2018 (平成 30) 年 12 月 15 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	213 人
1	第 217 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	宮田まゆみ (笙) 鈴木俊哉 (リコーダー)	2019 (平成 31) 年 1 月 19 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	122 人
2	第 218 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	北田千尋 (ヴァイオリン) 三又瑛子 (ピアノ)	2019 (平成 31) 年 2 月 16 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	155 人
3	第 219 回～夢のかけはし～蘭島閣ギャラリーコンサート	神田寛明 (フルート) 竹山愛 (フルート) 興田理恵 (ピアノ)	2019 (平成 31) 年 3 月 16 日 (土) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分	129 人

□2018（平成30）年度ギャラリーコンサート関連行事 講演会一覧

開催月	講演名	講師	開催日時	入場者数
4	指揮者列伝エピソード③エリアフ・インバル	原武 (サントリーホールアソシエイト)	2018（平成30）年4月21日（土） 午後5時30分から午後6時10分	180人
5	指揮者列伝エピソード④ウラディーミル・アシュケナージ	原武 (サントリーホールアソシエイト)	2018（平成30）年5月19日（土） 午後5時30分から午後6時10分	90人
6	指揮者列伝エピソード⑤思い出の指揮者たち サヴァリツ シュ、シュタイン、ワルベルク	原武 (サントリーホールアソシエイト)	2018（平成30）年6月16日（土） 午後5時30分から午後6時30分	150人
12	クラシック音楽のアンケート	原武 (サントリーホールアソシエイト)	2018（平成30）年12月15日（土） 午後5時30分から午後6時10分	160人

□2018（平成30）年度ギャラリーコンサート関連行事 ミニコンサート（会場：呉市立下蒲刈中学校校体育館）

開催月	公演名	出演者	開催日時	入場者数
10	ミニコンサート	シュトイデ弦楽四重奏団	2018（平成30）年10月23日（火） 午後2時20分から午後3時	120人

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

財団事業 ふれあい昆虫教室

昆虫や身近な生物の観察を通して生命の尊さや自然環境への理解を深め、親子で参加できる体験学習プログラムとして実施している。また活動を通じた地域の世代間交流の促進を目指している。

日時 2018（平成30）年8月5日（日）
午前9時30分から午後2時

場所 下蒲刈島内（大津泊庭園）、昆虫の家
協力 神垣健司（ひろしま自然の会会員）
住岡昭彦（ひろしま自然の会会員）

参加者 31名
参加費 500円

おもな関連記事、番組など

○「安芸灘だより」8月号、呉市下蒲刈まちづくりセンター ○「市政だよりくれ」8月号、呉市 ○「くれえばん」7月号、株式会社クレ・マスメディア・スタジオ

印刷物

●A4判チラシ（両面印刷） 980部

内容

大人17名、小学生14名の計31名が参加した。「昆虫の家」で開会式をおこない、その後、下蒲刈島内の大津泊庭園へ移動し昆虫採集をおこなった。昆虫の生息する場所の見つけ方や、採集する際の注意点など、講師の指導を受けながら親子で昆虫採集をおこなった。午後は、昆虫の家で自分たちが実際に採集した昆虫を標本にする作業に取り組んだ。

なお、例年昆虫採集を下蒲刈島内の大平山でおこなっていたが、本年度は西日本豪雨の影響で通行不可能となったため、大津泊庭園に変更した。

公益財団法人 蘭島文化振興財団
平成30年
ふれあい
海岸教室

ふれあい海岸教室は、海岸生物の観察や採集を通して、自然との関わりや生命の尊さを学び、豊かな感性と優しい心を持つ教室です。皆様のお参加をお待ちしています。

日時 平成30年8月11日（土）
午後1:00～午後4:00

集合場所 姫ひじき塩の家
姫ひじき塩作り体験。その後白崎海岸にて磯辺の観察
雨天の場合は、姫ひじき塩作り体験と賢と海藻の家見学

参加者：小学生以上（小学生は保護者同伴でお願いします。）
※高齢・長年ごとのご参加をお断りします。
定員：30名（参加する保護者を含め先着順）
※定員になり次第、締め切りとさせていただきます。
持参物：飲み物は各自で用意してください。ツツミ等のつや光、くるぶしの露出するものは無断
飲み水、バスタブ、草子、帽子、タオル、着替え・健康保険証（写し）
参加費：1人500円（材料費、傷害保険代金を含む。）
申込方法：裏面に記載。
問合せ：松浦園（03-45-2900）



目次

沿革

事業カレンダー

展示公開事業（特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース）
その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

普及事業・市民サービス・財団事業

運営データ

利用案内

財団事業 ふれあい海岸教室

磯辺の観察を中心とした、親子で参加できる体験学習プログラムとして実施している。瀬戸内海の自然に触れ、海岸生物の観察や採集を通し、自然との関わりや生命の尊さを学び、豊かな感性と優しい心を育むことを目的に開催している。また活動を通じた地域の世代間交流の促進を目指している。

日時 2018（平成30）年8月11日（土）

午後1時から午後4時

場所 下蒲刈島内海岸（白崎海岸周辺）、姫ひじき塩の家

協力 今村賢太郎（日本藻類学会会員）

濱村陽一（ひろしま自然の会会員）

参加者 28名

参加費 500円

おもな関連記事、番組等など

○「安芸灘だより」8月号、呉市下蒲刈まちづくりセンター ○「市政だよりくれ」8月号、呉市 ○「くれえばん」7月号、株式会社クレ・マスメディア・スタジオ

印刷物

●A4判チラシ（両面印刷） 980部

内容

大人13名、小学生13名未就学児2名の計28名が参加した。本年度からの試みとして、下蒲刈島内の「姫ひじき塩の家」で、製塩体験をプログラムに組み入れた。瀬戸内海に入浜式塩田が伝播する以前の、古代の製塩法である藻塩作りを体験することにより、地域の風土や自然の恵みを身近に感じられる内容とした。

その後、白崎海岸に移動し、磯辺の観察をおこなった。花崗岩を主とする瀬戸内海沿岸の地質の特長や、生息する海辺の生物について講師の説明を受けながら歩いて観察し理解を深めた。また、自然の中でフィールドワークをする際の安全対策、マナーなどを教わりながら貝の採集をおこなうなど、自然との関わりを主体的に考え、行動できる学習内容とした。



■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

財団事業 博物館実習

□2018（平成30）年度博物館実習

大学の依頼を受け、学芸員資格取得のために必要な博物館実習を実施した。受け入れ大学は安田女子大学の1大学1名で、松濤園で下記期間と内容でおこなった。

	午前	午後
8月1日（水）	オリエンテーション、館内見学	セルフガイド（児童生徒向けワークシート）の企画
8月2日（木）	受付業務補助、ワークショップの参加	資料展示台の清掃、展示
8月3日（金）	セルフガイド（児童生徒向けワークシート）の作成	陶磁器の取扱い、調書の作成
8月4日（土）	SNSを利用した広報活動	来館者への展示説明
8月5日（日）	セルフガイド（児童生徒向けワークシート制作）の完成、検証	データ整理作業

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

運営データ



GARDEN ISLAND SHIMOKAMAGARI

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営データ

■利用案内

収集・保存・整理

■ 目次
■ 沿革

□新収蔵資料

所蔵品に関連する資料で、寄贈、寄託の申請があった場合は、調査に基づき必要と認められた場合に収集をおこなっている。2018（平成30）年度は申請なし。

□修復・修繕

2018（平成30）年度は資料の修復、修繕をおこなっていない。

□燻蒸

2018（平成30）年8月21日、蘭島閣美術館、蘭島閣美術館別館、三之瀬御本陣芸術文化館、松清園、昆虫の家を対象に燻蒸作業をおこなった。

□整理

資料情報の統合、再整理を視野に調査を継続している。

□2018（平成30）年度までの収蔵資料（分類別）*寄託をのぞく。

美術系資料

分類	油彩画	日本画	素描	水彩	版画	彫塑	漆工	金工	鋳造	ガラス	書	その他
点数	450	423	810	174	118	10	39	7	10	31	38	5

陶磁器、朝鮮通信使関連資料、その他の歴史系資料

分類	陶磁器	東洋画	木工	漆工	金工	鋳造	石彫	洋ランプ	和ランプ	その他
点数	1,029	423	75	6	2	27	14	270	163	29

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

協力・広報

□学芸員の対外協力

項目	内容	協力先	担当	日付
雑誌寄稿	2019（平成31／令和元）年度開催予定の春季特別展、三之瀬御本陣芸術文化館の紹介。	（有）グリーンブリーズ発行 「やさしいミュージアムガイド Vol.30」『Grande ひろしま』季刊2019年春24、3月1日発行	湯浅ひろみ（学芸員）	2019.1.15
取材協力	資料解説文の韓国語翻訳活動の研修報告のため、松濤園 御馳走一番館の展示室撮影。	慶北大学校、韓国 趙軒求（日本語文科教授）	小川英史（学芸員）	2019.1.25
制作協力	朝鮮通信使に関する映像番組制作のため、松濤園 御馳走一番館の展示室撮影。	国立海洋博物館、韓国	小川英史（学芸員）	2019.1.28

□その他の対外協力

項目	内容	協力先	担当	日付
取材協力	下蒲刈島、松濤園の紹介。	（株）びあ発行 「まだある！瀬戸内の魅惑の島々」『びあMOOK 関西瀬戸内めぐりの旅』2019（平成31）年4月30日発行	佐々木真由美（主事）	2019.3.5

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営アータ

■ 利用案内

入館者数

□2018（平成30）年度 施設別入館（利用）者数

施設名	年間入館者数
蘭島閣美術館	9,186
蘭島閣美術館別館	377
三之瀬御本陣芸術文化館	4,268
松涛園（陶磁器館、御馳走一番館〈朝鮮通信使資料館〉、あかりの館、下蒲刈御番所）	12,007
白雪楼	3,189
昆虫の家〈頑愚庵〉	982
春蘭荘	303
松籟亭、煎茶室	166
合計	30,478

*入館（利用）者数は、指定管理する施設すべての施設分を記載している。

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

関係法規

蘭島文化振興施設条例

平成 15 年 3 月 14 日
呉市条例第 33 号

(目的及び設置)

第 1 条 美術、歴史遺産及び自然科学資料に関する市民の知識及び教養の向上を図り、文化の発展及び生命の尊厳を学び、並びに教育、学術研究及び文化交流に資するための施設を次のように設置する。

名称	位置
蘭島文化振興施設	呉市下蒲刈町地内

(事業)

第 2 条 蘭島文化振興施設は、次の事業を行う。

- (1) 美術品、朝鮮通信使・頼家に関する資料等の歴史的資料(以下「歴史的資料」という。昆虫を始めとする自然科学資料(以下「自然科学資料」という。)等を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供すること。
- (2) 美術品、歴史的資料、自然科学資料等に関する調査・研究、教育、指導及び知識の普及に関すること。
- (3) 美術、歴史文化、自然科学等に関する講演会、講習会、講座等を開催すること。
- (4) 自然保護に関する調査・研究及び技術的指導に関すること。
- (5) 市内外の人々の交流及びコミュニティの場を提供すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事業(一部改正〔平成 27 年条例 2 号〕(指定管理者による管理))

第 2 条の 2 市長は、第 1 条に規定する目的を効果的に達成するために必要があると認めるときは、指定管理者(地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)に蘭島文化振興施設の管理を行わせることができる。
追加〔平成 17 年条例 116 号〕、一部改正〔平成 27 年条例 2 号〕

(指定管理者が行う業務)

第 2 条の 3 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 蘭島文化振興施設の施設、設備、展示品等(以下「施設等」という。)の維持及び管理に関する業務
- (2) 第 2 条各号に掲げる事業に関する業務
- (3) 蘭島文化振興施設のうち、別表第 1 に掲げる施設への入館及び別表第 2 に掲げる施設(以下「許可施設」という。)の使用の許可に関する業務
- (4) 前 3 号に掲げる業務に付随する業務(追加〔平成 17 年条例 116 号〕)

(指定管理者が行う管理の基準)

第 2 条の 4 指定管理者は、法令、この条例、この条例に基づく規則その他市長が定めるところに従い蘭島文化振興施設の管理を行わなければならない。
追加〔平成 17 年条例 116 号〕、一部改正〔平成 27 年条

例 2 号〕

(開所時間及び休所日)

第 3 条 蘭島文化振興施設の開所時間及び休所日は、規則で定める。

全部改正〔平成 17 年条例 116 号〕、一部改正〔平成 27 年条例 2 号〕

(使用の許可)

第 3 条の 2 許可施設を使用しようとする者は、市長(蘭島文化振興施設の管理を指定管理者に行わせる場合は指定管理者。以下この条、第 6 条及び第 7 条において同じ。)の許可を受けなければならない。

2 市長は、前項の許可に際し、蘭島文化振興施設の管理運営上必要があるときは、その使用について条件を付することができる。

追加〔平成 17 年条例 116 号〕、一部改正〔平成 27 年条例 2 号〕

(入館料等)

第 4 条 蘭島文化振興施設のうち、別表第 1 に掲げる施設に入館しようとする者は入館料を、許可施設について前条第 1 項の規定により使用の許可を受けた者(以下「使用者」という。)は施設使用料を市長に納付しなければならない。ただし、指定管理者に蘭島文化振興施設の管理を行わせる場合は、この限りでない。

2 入館料及び施設使用料(以下「入館料等」という。)の額は、別表第 1 及び別表第 2 に定める額とする。

一部改正〔平成 17 年条例 116 号〕

(利用料金)

第 4 条の 2 蘭島文化振興施設のうち別表第 1 に掲げる施設に入館しようとする者又は使用者は、前条第 1 項ただし書に規定する場合は、蘭島文化振興施設の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を指定管理者に支払わなければならない。

2 利用料金の額は、別表第 1 及び別表第 2 に定める額の範囲内において、指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定める。

3 利用料金は、指定管理者にその収入として収受させる。

追加〔平成 17 年条例 116 号〕

(入館料等の前納)

第 4 条の 3 蘭島文化振興施設のうち別表第 1 に掲げる施設に入館しようとする者又は使用者は、入館料等又は利用料金を前納しなければならない。ただし、市長(蘭島文化振興施設の管理を指定管理者に行わせる場合は指定管理者。第 5 条において同じ。)が特別な理由があると認めるときは、この限りでない。

追加〔平成 17 年条例 116 号〕

(入館料等の減免)

第 4 条の 4 市長は、特別な理由があると認めるときは、入館料等を減免することができる。ただし、指定管理者に蘭島文化振興施設の管理を行わせる場合は、この限りでない。

2 指定管理者は、前項ただし書に規定する場合は、市長が定める基準に従い、利用料金を減免することができる。
追加〔平成 17 年条例 116 号〕

目次

事業カレンダー

展示公開事業(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
その他の公開(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

普及事業・市民サービス・財団事業

運営データ

利用案内

（入館料等の返還）

第5条 既納の入館料等又は利用料金は、これを返還しない。ただし、市長が特別な理由があると認めるときは、入館料等又は利用料金の全部又は一部を返還することができる。

一部改正〔平成17年条例116号〕

（入館及び使用の許可の制限）

第6条 市長は、蘭島文化振興施設に入館し、又は許可施設を使用しようとする者が、次の各号のいずれかに該当するときは、当該入館又は許可施設の使用を拒否することができる。

- (1) 公益を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 風致を害し、又は風紀を乱すおそれがあると認められるとき。
- (3) 施設等を滅失し、又は損傷するおそれがあると認められるとき。
- (4) 専ら営利を図る目的で使用するおそれがあると認められるとき。
- (5) その他管理上支障があると認められるとき。

一部改正〔平成17年条例116号・27年2号〕

（退去命令及び使用の許可の取消し等）

第7条 市長は、入館者又は使用者（以下「入館者等」という。）が、次の各号のいずれかに該当するときは、蘭島文化振興施設からの退去を命じ、又は当該使用の許可を取り消すことができる。この場合において、入館者等が損害を受けることがあっても、市又は指定管理者は、その責めを負わない。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 前条各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 許可された目的以外に許可施設を使用したとき。
- (4) 使用の許可に係る条件に違反したとき。

一部改正〔平成17年条例116号・27年2号〕

（原状回復）

第8条 使用者は、その使用を終了したとき又は使用の許可を取り消されたときは、直ちに使用場所を原状に回復しなければならない。

一部改正〔平成17年条例116号〕

（損害賠償）

第9条 入館者等は、施設等を滅失し、又は損傷した場合は、不可抗力によるときを除き、その損害を賠償しなければならない。

一部改正〔平成17年条例116号〕第10条削除削除〔平成17年条例116号〕

（施行規定）

第11条 この条例に定めるもののほか、蘭島文化振興施設の管理運営について必要な事項は、規則で定める。

一部改正〔平成17年条例116号・27年2号〕

付則

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

付則（平成17年12月27日条例第116号）

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

（経過措置）

2 この条例の施行の際現に改正前の第10条第1項の規定により公共的団体に管理を委託している蘭島文化振興施設の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により蘭島文化振興施設の管理に係る指定をする日までの間は、なお従前の例による。

付則（平成18年12月25日条例第65号）

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

付則（平成24年12月19日条例第50号）

（施行期日）

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この条例の施行の日前になされた申請に係る使用料については、なお従前の例による。

付則（平成27年1月8日条例第2号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。

別表第1（第2条の3、第4条、第4条の2、第4条の3関係）

名称	種別	金額（一人1回につき）	
蘭島閣美術館	一般	個人	500円
		20人以上の団体	400円
	高校生	個人	300円
		20人以上の団体	240円
	小・中学生	個人	200円
		20人以上の団体	160円
蘭島閣美術館別館	一般	個人	300円
		20人以上の団体	240円
	高校生	個人	180円
		20人以上の団体	140円
	小・中学生	個人	120円
		20人以上の団体	90円
白雪楼	一般	個人	400円
		20人以上の団体	320円
	高校生	個人	240円
		20人以上の団体	190円
	小・中学生	個人	160円
		20人以上の団体	120円
松清園	一般	個人	800円
		20人以上の団体	640円
	高校生	個人	480円
		20人以上の団体	380円
	小・中学生	個人	320円
		20人以上の団体	250円
昆虫の家「頑愚庵」	一般	個人	300円
		20人以上の団体	240円
	高校生	個人	180円
		20人以上の団体	140円
	小・中学生	個人	120円
		20人以上の団体	90円
貝と海藻の家	一般	個人	300円
		20人以上の団体	240円
	高校生	個人	180円
		20人以上の団体	140円
	小・中学生	個人	120円
		20人以上の団体	90円
三之瀬御本陣芸術文化館	一般	個人	500円
		20人以上の団体	400円
	高校生	個人	300円
		20人以上の団体	240円
	小・中学生	個人	200円
		20人以上の団体	160円

備考

- 1 この表において、「高校生」とは15歳に達する日以後の最初の4月1日から18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者並びにこれ以外の者で学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する高等学校、高等専門学校(第4学年及び第5学年に在学する者を除く。)及びこれらに準ずる学校に在学するものをいい、「小・中学生」とは同条に規定する小学校、中学校及びこれらに準ずる学校に在学する者をいい、「一般」とは「高校生」、「小・中学生」及び小学生未満の未就学児以外の者をいう。
 - 2 呉市に在住し、又は呉市内の学校に通学する高校生及び小・中学生は、無料とする。
- 全部改正〔平成18年条例65号〕、一部改正〔平成24年条例50号〕

別表第2(第2条の3、第4条、第4条の2関係)

施設	利用区分	金額
春蘭荘	1日につき (20時間以内)	50,000円
	宿泊加算料金	一人につき1泊1,000円
松籟亭	1回につき (5時間以内)	1,200円
	超過料金	1時間までごとに240円
煎茶室	1回につき (5時間以内)	1,000円
	超過料金	1時間までごとに200円

蘭島文化振興施設条例施行規則

平成27年3月31日
呉市規則第35号

(趣旨)

第1条 この規則は、蘭島文化振興施設条例(平成15年呉市条例第33号。以下「条例」という。)第11条の規定により、蘭島文化振興施設の管理運営について必要な事項を定めるものとする。

(開所時間)

第2条 条例第3条の規定により規則で定める蘭島文化振興施設の開所時間は、次のとおりとする。

- (1) 条例別表第1及び別表第2に掲げる施設(春蘭荘を除く。)午前9時から午後5時まで
- (2) 春蘭荘 全日2前項の規定にかかわらず、市長(蘭島文化振興施設の管理を指定管理者(条例第2条の2に規定する指定管理者をいう。以下同じ。))に行わせる場合は指定管理者。第4条、第55及び第7条において同じ。)は、必要により同項の開所時間を伸縮することができる。

(休所日)

第3条 条例第3条の規定により規則で定める蘭島文化振興施設の休所日は、次のとおりとする。

- (1) 条例別表第1に掲げる施設
 - ア 1月1日から1月3日まで及び12月29日から12月31日まで

イ 火曜日。ただし、火曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下この号において「休日」という。)に当たるときは、その翌日とし、当該翌日が休日に当たるときは、その直後の休日でない日

(2) 条例別表第2に掲げる施設1月1日から1月3日まで及び12月29日から12月31日まで。

2 前項の規定にかかわらず、市長が必要と認めるときは、同項の休所日以外の日において臨時に休所し、又は同項の休所日において臨時に開所することができる。

3 市長は、前項の規定により、臨時に休所し、又は開所しようとするときは、あらかじめ告示するものとする。(使用の手続)

第4条 条例別表第2に掲げる施設(以下「許可施設」という。)の使用に係る許可を得ようとする者は、蘭島文化振興施設使用申請書を市長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 市長は、前項の許可をしたときは、蘭島文化振興施設使用許可書(以下「許可書」という。)を交付する。

3 第1項の許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、使用を開始する前に許可書を提示し、市長の指示に従わなければならない。

(使用期間の制限)

第5条 許可施設の使用は、引き続き5日間を超えることができない。ただし、市長が特別な理由があると認めるときは、この限りでない。

(優待券等)

第6条 市長は、特別の理由があると認める者に対して、優待券又は招待券を発行することができる。ただし、指定管理者に蘭島文化振興施設の管理を行わせる場合は、この限りでない。

(入館者等の遵守事項)

第7条 入館者又は使用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 展示品に触れないこと。
- (2) 許可なく展示品の模写又は撮影を行わないこと。
- (3) 所定の場所以外で飲食又は火気の使用をしないこと。
- (4) 所定の場所以外に出入りしないこと。
- (5) 他の入館者又は使用者の迷惑となるような行為をしないこと。
- (6) 市長の指示に従うこと。

(帳票の様式)

第8条 この規則の施行に関し必要な帳票は、市長が別に定める。ただし、指定管理者に蘭島文化振興施設の管理を行わせる場合は、この限りでない。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、蘭島文化振興施設の管理運営について必要な事項は、市長が別に定める。

付則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

役員・職員

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展示・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内

□ 理事 ～2018（平成30）年6月

理事長	渡辺理一郎	
副理事長	竹内滝法	
専務理事	柴村隆博	
理事	竹本芳基	
理事	船田信義	2018（平成30）年6月退任
理事	番場真吾	
理事	渡辺哲宏	
理事	大場俊明	
理事	中本克州	
理事	上東広海	

□ 監事 ～2018（平成30）年6月

監事	蔵本豊	2018（平成30）年6月辞任
監事	河菜春文	

□ 評議員 ～2018（平成30）年6月

評議員	竹内美智三	
評議員	渡邊勝男	
評議員	渡邊賢明	
評議員	浜本一絵	
評議員	原田敏信	
評議員	吉川宏夫	
評議員	滝口幸児	2018（平成30）年6月辞任

□ 事務職員

事務局長	宇都宮勝彦	
主任	坂本卓也	
主事	竹内昭治	
主事	上田中由美	
主事	石田由香	
主事	佐々木真由美	
主事	谷本賢一	
主事	神垣詩織	
主事	山本祥大	

□ 学芸員

学芸員	土井基子	～2018（平成30）年10月：休職
学芸員	山下裕子	
学芸員	山崎環	
学芸員	沼田綿子	～2018（平成30）年7月：休職
学芸員	小川英史	
学芸員	木口詩織	
学芸員（臨時職員）	湯浅ひろみ	2018（平成30）年10月～

□ 嘱託職員

嘱託職員	狭間蝶子	
嘱託職員	橋本和子	
嘱託職員	沖原しおり	～2018（平成30）年7月
嘱託職員	阿津地裕美	
嘱託職員	高野栞	～2019（平成31）年2月

□ 臨時職員

臨時職員	柴村ヒロ子	
臨時職員	脇由貴美	
臨時職員	岡野諒子	
臨時職員	白井郁子	
臨時職員	西野玲奈	
臨時職員	橋本敦子	2018（平成30）年12月～

□ 理事 2018（平成30）年6月～

理事長	渡辺理一郎	
副理事長	竹内滝法	
専務理事	柴村隆博	
理事	竹本芳基	
理事	山本忠	2018（平成30）年6月就任
理事	番場真吾	
理事	渡辺哲宏	
理事	大場俊明	
理事	中本克州	
理事	上東広海	

□ 監事 2018（平成30）年6月～

監事	矢口正和	2018（平成30）年6月就任
監事	河菜春文	

□ 評議員 2018（平成30）年6月～

評議員	竹内美智三	
評議員	渡邊勝男	
評議員	渡邊賢明	
評議員	浜本一絵	
評議員	原田敏信	
評議員	吉川宏夫	
評議員	白井教司	2018（平成30）年6月就任

* 表内は下記の順。年度中、変更のない場合は空欄。

役職名・職名	氏名	在職記録
--------	----	------

利用案内



GARDEN ISLAND SHIMOKAMAGARI

■沿革
■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業（特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覽）
■その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

利用案内

主要施設

■ 沿革
■ 目次

■ 事業カレンダー

■ 展示公開事業（特別展示事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧）
■ その他の公開（インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧）

■ 普及事業・市民サービス・財団事業

■ 運営データ

■ 利用案内



蘭島閣美術館

開館時間 9:00~17:00（入館は16:30まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

らんとうかくびじゅつかん

〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬 200-1 TEL 0823-65-3066 FAX 0823-70-8022

蘭島閣美術館の入館料

一般 500円（400円） 高校生 300円（240円） 小・中学生 200円（160円）（ ）内は20名以上の団体料金



蘭島閣美術館別館

開館時間 9:00~17:00（入館は16:30まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

らんとうかくびじゅつかんべっかん

〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬 195 TEL & FAX 0823-65-2500

蘭島閣美術館別館の入館料

一般 300円（240円） 高校生 180円（140円） 小・中学生 120円（90円）（ ）内は20名以上の団体料金



三之瀬御本陣芸術文化館

開館時間 9:00~17:00（入館は16:30まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

さんのせごほんじんげいじゅつぶんかかん

〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬 311 TEL 0823-70-8088 FAX 0823-70-8044

三之瀬御本陣芸術文化館の入館料

一般 500円（400円） 高校生 300円（240円） 小・中学生 200円（160円）（ ）内は20名以上の団体料金



松濤園

開館時間 9:00~17:00（入館は16:30まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

しょうとうえん

〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町下島 2277-3 TEL 0823-65-2900 FAX 0823-65-2711

松濤園の入館料

一般 800円（640円） 高校生 480円（380円） 小・中学生 320円（250円）（ ）内は20名以上の団体料金



白雪楼

開館時間 9:00~17:00（入館は16:30まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

はくせつろう

〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬 197 *お問い合わせは蘭島閣美術館へ。

白雪楼の入館料

一般 400円（320円） 高校生 240円（190円） 小・中学生 160円（120円）（ ）内は20名以上の団体料金



昆虫の家「頑愚庵」

開館時間 9:00~17:00（入館は16:30まで） 火曜日休館、祝日の場合は翌日

こんちゅうのいえ「がんぐあん」

〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町下島 2364-3 TEL & FAX.0823-70-8007

昆虫の家の入館料

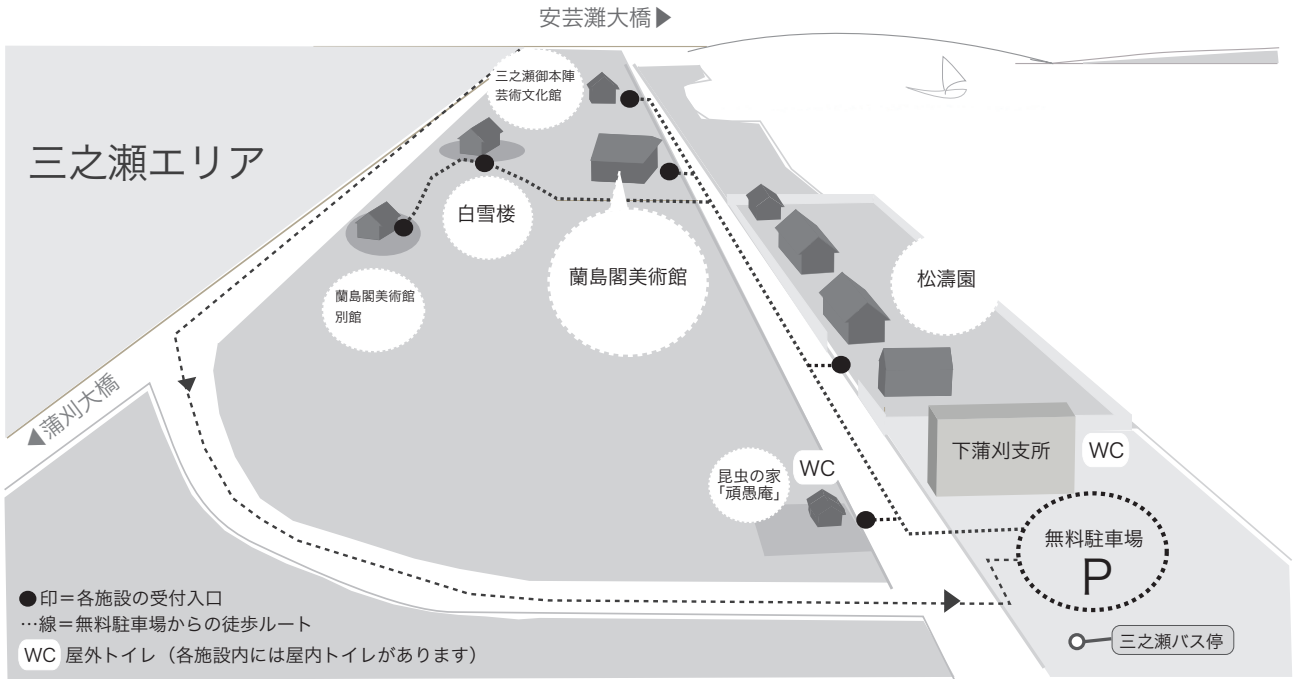
一般 300円（240円） 高校生 180円（140円） 小・中学生 120円（90円）（ ）内は20名以上の団体料金

全館共通▶入場料免除／特別割引対象

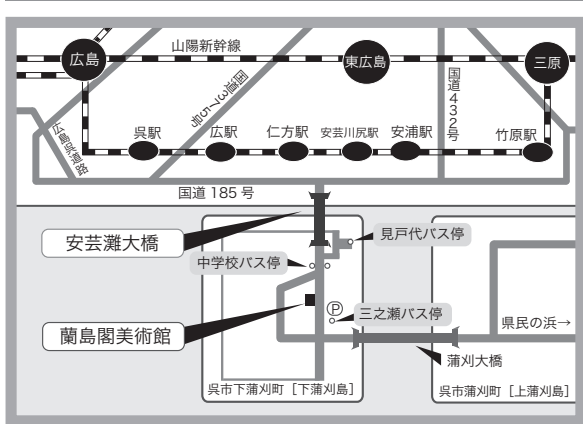
呉市内と園域（竹原市・東広島市・江田島市・熊野町・海田町・坂町・大崎上島町）居住の高校生、小・中学生は入館無料です。
呉市敬老優待証、被爆者健康手帳、呉市はたちのパスポート、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳をお持ちの方は入館無料です。
*手帳をお持ちの方の介護者免除対象もございます。

特別割引 JAFカード、ちゅーピーカード、中国新聞文化センター会員証、エルフルカードご提示により、1枚につき3名様まで団体料金で入館できます。

美術館周辺



地図



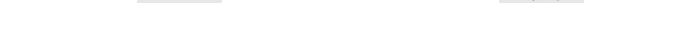
バスに関するお問い合わせ 瀬戸内産交株式会社 TEL 0823-70-7051

アクセス方法

- マイカー** ■広島市内から車で60分
 呉市内より国道185号線を竹原方面へ。安芸灘大橋(有料)を渡る。最初の島が下蒲刈町です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用できます。駐車場から徒歩260m。
- バス** ■広島市内からバス利用の場合
 広島バスセンターから、さんようバス株式会社運行のバス「蒲刈・豊浜・豊」行き乗車。下蒲刈町内の「見戸代棧橋」停留所で接続する後続バスに乗り換え。「見戸代棧橋」停留所から後続バスに乗り「三之瀬」停留所下車。美術館まで徒歩260m。
 ○行き(広島市内/広島バスセンター発) 10:03 11:03
 ○帰り(下蒲刈町内/三之瀬発) 13:45 14:51
- 電車とバス** ■呉市内から電車・バス利用の場合
 JR呉線で広島または仁方駅で下車。駅前最寄りバス停留所より瀬戸内産交株式会社運行のバス「とびしまライナー(豊・豊島・蒲刈方面行)」乗車。下蒲刈町内「三之瀬」停留所下車。美術館まで260m。(バスは上下線とも毎時1本運行しています。)

所要時間

- 広島市内から車で60分
- JR広島からバス利用で23分
- 広島市内からバス利用で85分
- JR呉駅からバス利用で50分



*利用案内は、指定管理する施設のうち、三之瀬エリアを中心として所在する施設を記載した。その他の、春蘭荘、松瀬亭及び煎茶室は除く。

■沿革
 ■目次

■事業カレンダー

■展示公開事業(特別展事業・所蔵品公開事業・通年展示・公開スペース一覧)
 ■その他の公開(インターネット・資料貸出・画像提供・資料閲覧)

■普及事業・市民サービス・財団事業

■運営アータ

■利用案内

公益財団法人蘭島文化振興財団年報 2018（平成 30）年度

発行日 2020（令和 2）年 3 月

編集・発行 公益財団法人蘭島文化振興財団
〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町下島 2361-7
TEL.0823-65-2029
FAX.0823-70-8079
<http://www.shimokamagari.jp>



ANNUAL REPORT April2018 - Marchi2019